

末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道

1986

6





予言者は語る

伝道の業：ブリガム・ヤング

天の御父と、私たちの長兄であり、世の救い主であられるイエスと、天のすべてのみ使いとが、地の諸々の国民や福音を知らずに眠りについた大勢の人々を救うために備えるよう、この民に求めておられます。

心を尽くして主を信頼し、主のみ名によって出て行く人は、いかなる質問に答えるときにも、あるいは人々を命と救いの道へ導くために勧告を与えるときにも、決して知恵に欠けることがなく、まごつくことがないでしょう。……主のみ名によって出て行き、主のみ名を信じ、主を

信頼し、絶えず熱心に主を求めなさい。世のものに惑わされてはなりません。目の前には、いつも世のものがあふれていることでしょう。しかし、聖霊を伴侶として生活するならば……即座に人の知恵と神の知恵とを見分けることができますでしょう。

天から下る聖霊の賜と力によらずに福音を説いた人は、かつてひとりもいません。この力がなければ、教える言葉に光が宿らないのです。

真理のみたまは、いかなる美辞麗句よりも、多くの光と知識を人にもたらすで

しょう。

神の僕は真理を、ただ真理のみを世の人々に伝え、世の人々はその真理によって清められるのです。

もし自分の働きを通してひとりの人を救いに導き、永遠にわたって神を賛美することができるならば……天においてどれほど大きな喜びを味わうことでしょう。ですから、多くの人を救おうではありませんか。救う人の数が増えるにつれて、一層大きな喜びを得ることができるのです。(ジョン・A・ウィットソー編「ブリガム・ヤング説教集」より)

聖徒の道

1986年6月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン

十二使徒定員会：マリオン・G・ロムニー、ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バッカー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ベリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード

顧問：カーロス・E・エイシー、レックス・D・ピネガー、ジョージ・P・リー、ジェームズ・M・パラモア

編集長：カーロス・E・エイシー

教会機関誌ディレクター：ウェイン・B・リン

編集主幹：ラリー・A・ヒラー

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

子供の頁編集：ロイス・リチャードソン

レイアウト/デザイン：メアリー・A・ホドソン、C・キンボール・ボット

聖徒の道 1986年6月号第30巻第6号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社

定 価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

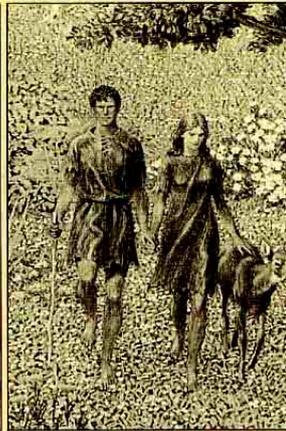
普通号150円, 大会号(1,7月号)350円

International Magazines PBMA0460JA

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright ©1986 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道」申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター 振替口座番号/東京0-41512)にてご送金いただければ、直接郵送致します。●「聖徒の道」のお申し込み先……〒150東京都渋谷区桜丘町28-8/末日聖徒イエス・キリスト教会 渋谷ブックセンター/☎03-464-1617 ●「聖徒の道」についての配送のお問い合わせ……〒194東京都町田市小川1704-1/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター/☎0427-96-2820



● — も く じ

表紙：ソルトレーク・シティの風景（アル・ランドス画、18×30インチ、水彩、1985年）

| 伝道の業：プリガム・ヤング | 表2 | |
|--------------------------|--------------------|-------|
| 聖典を味わう | ゴードン・B・ヒンクレー | 2 |
| 霊性——感情以上のもの | メアリー・エレン・エドマンズ | 5 |
| 結婚の幻想——いくつかの間違い | ステイブ・F・ギリランド | 8 |
| よりよい自分,よりよい結婚 | ピクター・L・ブラウン・ジュニア | 11 |
| 母親の夢 | バイラ・H・ジャッジ | 16 |
| 質疑応答(「キリストの再臨に先立つ出来事」) | ジョセフ・F・マッコンキー | 19 |
| 愛し合え(新讃美歌) | ラシーヌ・クラーク・フォックス | 21 |
| トロイの友達 | シルビア・H・グリーンハルシュ | 22 |
| 「聖書で十分じゃないですか」 | A・エドワード・カールソン・ジュニア | 24 |
| 対照的な時代：アダムからアブラハムまで | ケント・P・ジャクソン | 26 |
| 幕を越えて：末日のふたつの示現 | ロバート・L・ミレット | 30 |
| バブー・キトの贈り物 | キティー・デロイター | 36 |
| ジョセフ・スミス家における考古学調査 | デール・L・パージ | 39 |
| ローカルページ(チャーチニュース,各地のたより) | | |
| 子供のページ(別冊付録) | | |
| お父さんといっしょ | | 1 |
| 小さなお友だちへ(キース・W・ウィルコックス) | | 2 |
| ソロモンのちえ | 「聖典からの物語」より | 6 |
| おもちゃばこ | | 9, 15 |
| おじいちゃんの聖書 | デブラ・ハギンズ・ベアード | 10 |
| まちがいさがし | | 14 |

聖典を味わう

第一副管長

ゴードン・B・ヒンクレー



「私が聖典を読むのは、
主と予言者の言葉を
愛しているからなのです。」

私は聖典が大好きです。このすばらしい書物には、天父の息子や娘を導くために神から直接、あるいは予言者を通して与えられたみ言葉が記されているからです。私は聖典を読むのが好きで、いつも繰り返し読むようにしています。聖典を引用するのも好きです。話す言葉に権威が具わるからです。しかし、聖典に通じた学者として名声を博そうというわけではありません。私が聖典を読むのは、学問の追求のためではなく、主と予言者の言葉を愛しているからなのです。

聖典には、主の憐れみと赦しが金糸のように織り込まれています。ですから私は聖典を読むとき、主の憐れみに深い愛を感じるのです。まずイザヤ書にある主のみ言葉に耳を傾けてみましょう。「さあ、われわれは互に論じよう。たとえあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。」(イザヤ1:18) このすばらしい教えは、ルカによる福音書の第15章、私にとって最も美しく感動的な放蕩息子の話にも見られます。このたとえ話は、すべての親に憐れみについて教える優れた教訓です。また、不従順な息子や娘への天父の憐れみを表わす大いなる教訓でもあります。

赦しと憐れみの精神は、モルモン経の中でも繰り返し述べられています。たとえば、ニーファイは次のように宣言しました。「主は……万人が主の御許へ来て主のめぐみにあずかるように招きたもうている。それであるから、主の御許へくる者は黒人と白人、奴隷と自由人、男と女の区別なく誰を拒みたまうこともない。また主は異教徒さえもかえりみたまうから、神の御前にはユダヤ人も異邦人もみ

な平等である。」(IIニーファイ26:33) 愛と赦しという金糸は、現代の啓示の中にも織り込まれています。教義と聖約にはこう記されています。「見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。」(教義と聖約58:42) 人を赦したときに、自分に対して犯された罪を永久に忘れることができたと思います。

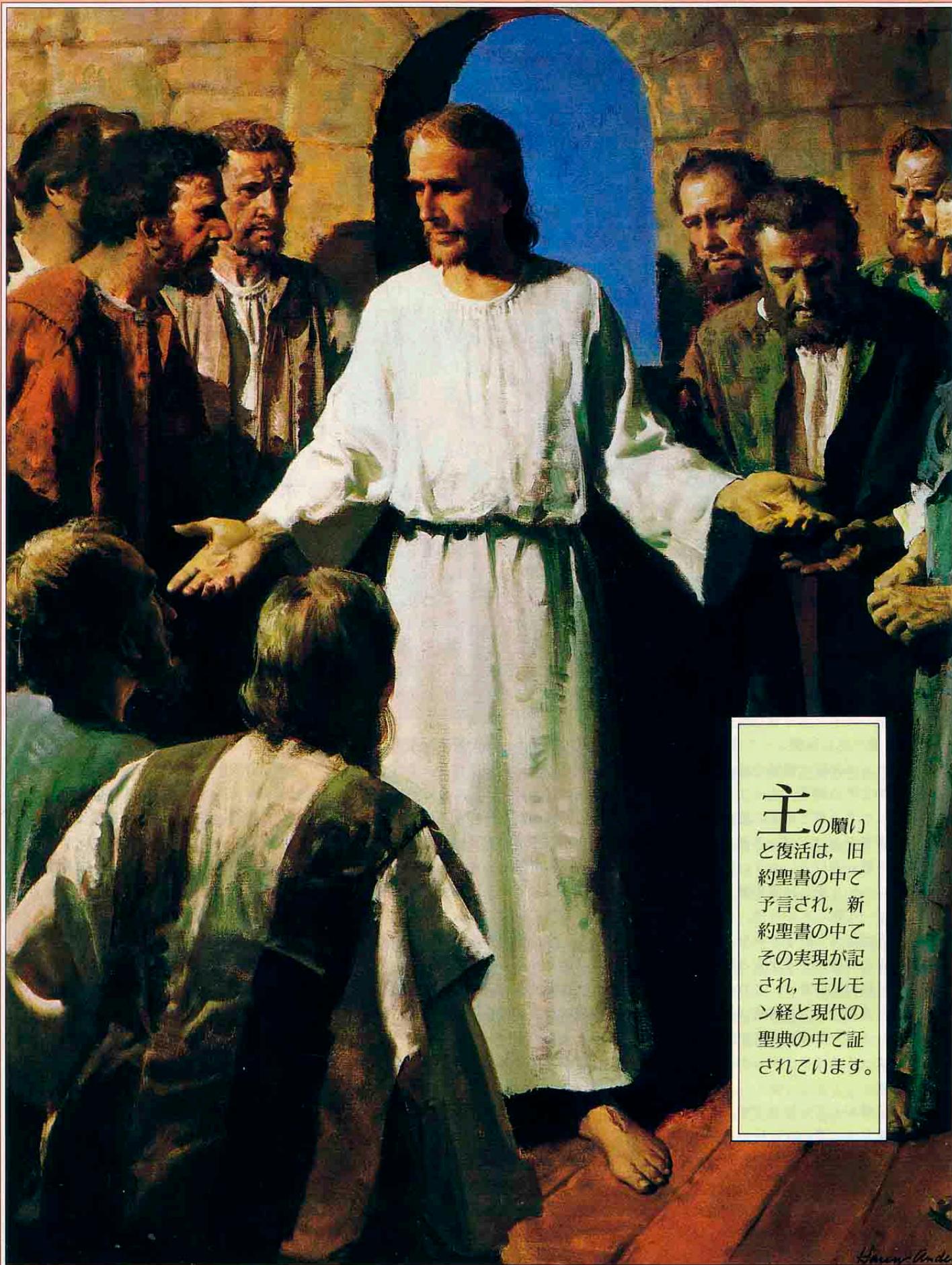
私は、主のみ言葉や予言者の記録の中で述べられた憐れみを心から求めています。聖書の索引を引いて、赦しと憐れみに関する参照聖句を調べることは、興味深く価値あることです。

私は、主の誓約を大事にしています。主はアブラハム、イサク、ヤコブの民と語って誓約を交わされ、ご自分が彼らの神になり、彼らが主の民になると約束されました。

この誓約の言葉は、モルモン経の中にも記されています。そして、現代の神権時代においても、ジョセフ・スミスが教義と聖約のはしがきを啓示されたときに、再度確認されました。その中で主は、回復の業の目的を明らかにし、「わが永遠の誓約は確立せられ[ん]」(教義と聖約1:22)と指摘されたのです。

私たちは誓約の民です。永遠の父なる神と契約を結んだのです。私たちは天父の愛子のみ名を身に受け、主の戒めを守ると約束しました。それに対して天父は、私たちが神の息子娘となり、主が私たちの羊飼いとなり、聖霊が常に私たちの伴侶となると、誓約されました。私は聖典の中からこれらの偉大な永遠の約束を読むのが大好きです。

また、贖い主の贖罪について読むのも好きです。主の贖いは、旧約聖書の中で



主の贖いと復活は、旧約聖書の中で予言され、新約聖書の中でその実現が記され、モルモン経と現代の聖典の中で証されています。



放蕩息子の
たとえ話は、す
べての親に憐れ
みについで教え
る優れた教訓で
す。また、不従
順な息子や娘へ
の天父の憐れみ
を表わす大いなる
教訓でもあります。

予言され、モルモン経の中で約束され、四福音書の中に記されているように、神の御子の比類ない生涯と死と復活によって実現され、数々の書簡の中で証されました。アメリカ大陸の人々もそれについて証し、モルモン経に記録しました。そして、予言者ジョセフ・スミスと後の大管長を通してもたらされた現代の啓示の中でも、繰り返し強調されてきたのです。私はこれらの神聖な書物を読むたびに、全能の神とその御子、主イエス・キリストの驚くべき業と栄光に感嘆します。聖典の著者たちは、父なる神と贖い主への賛美を歌いあげています。聖典は天父と御子について証し、その驚くべき業と栄光について証しています。そして、すべての人が天父と御子のみもとへ来て、神と人との和合の中で平安と力を見いだすように招いています。これが私にとって、光と真理の偉大な書物の神髄であり、その正しさは、日常生活の中で実践することによってますます明らかになっていくのです。

私は聖書がとても好きです。心を高揚させる語句や、深い味わいのある高潔な言葉、そして力強く優雅な表現が好きです。

また、モルモン経の精神とそこに記された言葉に喜びを感じます。ニーファイ

の記録を読むとき、自分の身と霊が満たされる思いがします。その昔、ニーファイは次のように記しました。「本版には、私の心のことを誌し……である。それは私の身も心も聖文を喜ぶので、私が心にそれをよくよく考えて私の子孫たちの学問と利益とになるようにこれを書き誌すのである。」(II ニーファイ 4 : 15)

現代の啓示も、私の好きな聖典です。「これらの誠命をしらべよ。そはこれらは真実確なる誠命にして、その中に言われたる予言も約束もすべて成就するべければなり。主、われ言いたることは、われ言いたるなり。われ言い逃れせず。天地は過ぎ行くとも、わが言は過ぎ行くことなくして成就すべし。わが声にて言わるるも、僕らの声にて言わるるもみな一つなり。見よ、みよ、主は神にして『みたま』は証す。また、この証は真実にして真理は永遠に変ることなし。」(教義と聖約 1 : 37-39)

私はこれらの偉大な書物を何度も何度も読み返しました。そして読んだ言葉について深く考えたとき、聖霊の力によって、それが真実で神聖なものであるという証を得たのです。

私は、聖典の内容について説明した注釈書を読むことには、あまり関心がありません。それよりも、聖典そのものを読

んで、真理の泉からわき出る純粋な水、すなわち神から与えられたままの、標準聖典に記録されたままのみ言葉を味わう方が好きなのです。聖典は神の子供たちに知識と祝福と喜びをもたらすために、神から与えられたものです。聖典を読むならば、みたまの力によってそのことを確信できるでしょう。

私はあらゆる地に住む人々にお勧めします。もっと聖典を読んでください。そして、その教えを生活に取り入れていくために、すべての聖典を研究して調和のとれた知識を養ってください。

私たち一人一人の上に主の祝福があって、主の聖なるみ言葉を味わい、主が約束された「人知ではどうも測り知ることのできない」(ピリピ 4 : 7) 力と平安と知識を得ることができまうように。

ホームティーチャーへの提案

強調点：ホームティーチングのときに以下の点を取りあげるとよいでしょう。

1. 教会幹部は私たちに、聖典(すなわち聖書、モルモン経、教義と聖約、高価なる真珠)を読んで研究するように勧めています。
2. 古代と現代の聖典の中には、愛と憐れみと赦しの精神が、金糸のように織り込まれています。
3. 聖典は天父と御子について、またお二方の栄光と愛について、さらに私たち一人一人のためになされた救い主の贖いの祝福について証しています。
4. 聖典はすべての人に平安と力を与えてくれます。

話し合いを進めるために

1. 生活の中で聖典の研究がどのような価値を持つかについて、自分の感じていることを述べる。家族の人にも感じていることを話してもらう。
2. このメッセージの中に、家族で読んだり話し合ったりするのによい聖句や言葉はないだろうか。
3. 話し合いをより充実したものとするために、訪問する前に家長と話し合っておくとよい。聖典の研究について、定員会指導者や監督から家長にあてられたメッセージはないだろうか。

霊性— 感情以上のもの

メアリー・エレン・エドマンズ



私は、日曜学校の教師から「あなたは霊的ではありませんね」と言われた覚えがあります。今思い返してみると、レッスン中に静かに座っていられなかったのが、注意を受けたのだと思います。ところが当時の私には、教師の言っている意味がわかりませんでした。ただ、ほめられているのではないことはわかったので、家に帰ってよく考えてみました。そして、霊的とは静かにしていること、特に日曜日に騒がないことだろうと思いました。私は霊的になりたかったのですが、それにはまず、その意味を正しく理解する必要がありました。

以来、私は霊性について理解しようと、またそれを自分のものにしようと模索してきました。そんなある日、ブルース・R・マッコスキー長老の次の言葉が目にとまりました。「霊性にまさる才能はない。」（『この世におけるメシヤ』p.234）霊性がひとつの才能であるという考えは、私に明るい見通しを与えてくれました。霊性を身につけるのに、魔法があったことなど必要ないのです。熱心に努力し、むずかしい決断や重大な選択をし、苦しいときに耐え、幾度も挑戦し、決してあきらめなければ、ほかの才能と同じように、身につけていくのです。

しかし、私にとって何より問題なのは、霊性が「実践」を意味するというので

す。快適な場所に座って霊性について考え、話し合い、読書する方が好きな私には、まさに至難の業です。霊性は、神が私たちに求めておられるものです。私たちはそれに応えて、実践していかなければなりません。細かい説明を待つのではなく、行動に移すのです。

霊性とは約束を守ることである

実践が霊性に欠かせないのはどうしてでしょうか。私たちは自分の言葉が真実であることを天父に示したいと思えば、それを行動に移します。天父とバプテスマの誓約を交わしたときがそうでした。（モーサヤ18：8－11参照）また、聖なる神殿に入って特別な誓約を交わすときもそうです。ひとり静かに天父に祈って助けを求め、さらに約束をするときもそうです。

両親が留守をしていた夜に、電話がかかってきました。私が出ると、妹が電話の

向こうでひどく泣いていました。「お願い、迎えに来てちょうだい。」妹は友達の家で開かれたパーティーに出席していましたが、友達が神を冒瀆する言葉を口に始めたというのです。家族のだれもが知らなかったのですが、妹は神を汚すような言葉を決して使わないと天父に約束していたのです。霊性とは、天父との約束を尊んで守ることです。

霊性とは貧しい人々と分かち合うことである

管理監督会のJ・リチャード・クラーク第二副監督の次の言葉は、私にもうひとつの真理を告げています。「キリストの真実の弟子たちは、これまでいつの時代にも、高い霊性を得た時に、貧しい人人の世話をしてきた。」（『倉庫資源制度』「聖徒の道」1978年10月号、p.131）

では、貧しい人々とはだれのことでしょうか。物質的な貧しさについて考えるならば、容易に見つけることができます。私はアフリカやアジア、そのほかの地域で、「貧しい」と言われる人を大勢見てきました。飢えても食べ物がなく、のどが渴いても飲み水がなく、病気になっても薬がありません。

ある日私は、女の人たちが川岸にしゃがんで洗濯をしているのを見て、洗濯機に衣類を放り込んでいる自分の姿を思い

浮かべました。そして、余った時間で何をしてきたらどうかと考え込んでしまいました。タイの難民キャンプで、あるご夫婦と話をしていて、そばで遊んでいた子供が、米の入った小さなビニール袋をひっくり返しました。すると両親は丁寧にひと粒残さず米を拾って、ビニール袋に戻しました。それを見ていて、自分は今まで一体どれだけの食物を無駄にしてきたらどうかと考えさせられました。また、インドネシアでは、現地の人々が1年がかりで手にする以上のお金を、自分が1カ月で使ってきたことを知りました。これも忘れられない経験です。

霊性とは、世に染まらないことであり、利己的にならないことです。世に染まった人は、俗的な事柄や問題、すなわちこの世の「もの」にばかり心を向けて、もっと大切な事柄について考えようとしません。

私たちが世に染まるならば、それは世の中を悪くする方へ実際に加担していると言えるかもしれません。霊性とは、放縱を意識して避けることです。そして、神が創造された地は「物に満ち足りて余りあり」、自分には分かち合うものがたくさんある、と自覚することです。(教義と聖約104:13-18参照)

私たち主の民は、分かち合えるものをもっとたくさん見いだすようにすれば、貧しい人のいない社会という高い目標に到達することができるのです。「主、その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし、精神を一にし、義に住みたればなり。されば彼らの中に貧しき者一人もなかりき。」(モーセ7:18)

しかし、ひと口に「貧しい」と言っても、いろいろな貧しさがあります。悲嘆に暮れて少しも慰めを得られない人がたくさんいます。孤独で、愛を見いだせないのです。また、自分は必要とされていないと感じて、人と分かち合う機会を持っていない人もいます。何であれ満たされていない面のある人は、みな貧しいのです。私たちはだれもが貧しい人なのです。しかし、人と分かち合うものを持っている人は、富んでいます。ですから、私たちは富める人でもあるわけです。だれでも何かを分かち合って、人知れず苦しんでいる人々の重荷を軽くし、援助を与えることができるのです。

霊性の高い人々に見られる特性をあげるとすれば、人に親切でやさしく、積極的に関心を示すということではないでしょうか。

霊性とは豊かな感受性である

私の友人が、重い病気で寝込んだときのことです。友人がひとりで寝ていると、ドアをノックする音が聞こえました。起きたくなかったのですが、ノックの音はいつまでもやみません。ふと、訪問教師かもしれないと思いました。彼女の訪問教師たちは100パーセント訪問を目標にしていますが、月末近くになってもまだ訪れていなかったからです。

やはり訪問教師であることがわかると、希望がわいてきました。家にはやりかけの仕事がたくさん残っています。自分の様子を見て、援助を申し出てくれるに違いありません。友人は具合を尋ねられたとき、期待をもって答えました。「ずっと具合が悪かったものですから。」すると訪問教師が言いました。「そうですか。それでは早くベッドに戻れるよう、簡単にレッスンを済ませましょう。」

ふたりはレッスンを終えると、そそくさと帰って行き、100パーセント訪問という「誉れ」を手に入れました。そのあと友人はベッドに戻り、泣いたのです。彼女自身が人の気持ちを察することができずに、奉仕の機会を逃してしまったときのことを思い返しながら。

私たちは愛からではなく、義務感から善を行なうことが、何と多いことでしょうか。私は何度も考えたものですが、家庭訪問やホームティーチングが担当家族の必要を満たすことを第一の目標にして行なわれていたら、どういう結果になっていたでしょう。もちろんそのような考えがなくとも、100パーセント達成は可能かもしれませんが。

霊性とは、今変わることである

霊性とは、善悪をわきまえる天与の力にちかえて、ちかく踏^{ちか}踏^{ちか}せずに善を選ぶことです。毎日毎日、同じ口実や引き延ばしを



繰り返すことはできません。私たちは何か悪いことをすると心の平安が乱れますが、これはすばらしいことだと思います。聖霊の働きかけを妨げるような行ないを決してしないように、共に祈りましょう。私たちの心の中に、鋭くとがった小さな悪意が潜んでいると考えてみてください。何か悪いことをしようとする、悪意が動き始め、心に痛みを引き起こします。悪い考えや行ないをやめると、その動きが止まり気持ちは楽になります。しかし、悪いと知りながらやめずに続けていると、とがった先端がすり減って、もはや痛みを感じることも、痛みに気づくこともなくなってしまう。変わる必要があることを知りながら、それを引き延ばしていると、霊性が失われていくのです。

霊性とは高潔さである

イタリアの偉大な芸術家ミケランジェロは、ある人から、どうしたらただの石からあのようなすばらしい像を造ることができるのかと尋ねられました。そこで、こう答えたそうです。「石の中から像が現われるまで、余分な石をすべて削り取る



だけだ。」霊的になるというのは、自分が何者なのか理解し、それに近づいていくことです。

つまり霊性は、悪に関与せずに、心の真の願いに従って行動するうえで欠かせないものなのです。ヒラマンの息子ニーファイは、心に願うことがすべてみこころにかなう状態に達していました。主はニーファイに次のように約束しておられます。「われはいつまでも汝を祝福し、言葉と行いと信仰と働きとに於て汝を強くして偉大なる者となさん。また汝の望み通り何事にもわれは汝のためにこれを行なえん。そは、汝はわがこころにかなわざることを願わざればなり。」(ヒラマン10：5)

このような霊性を身につけるには、不親切や不信仰、汚れたもの、クリスチャンらしくないものから遠ざからなければなりません。また、怒りや復讐心を捨てなければなりません。そうすれば、心と魂に平安が得られます。そして、要請や

強制、あるいは催促を受けなくても、行なうべき善を見いだせるようになるのです。

霊性とは楽しく生活することである

豊かな霊性を身につけていると思える人々を観察すると、いくつかの共通した特質に気づきます。ひとつには、個人的で有意義な方法で神と交わり、瞑想し、深く考える能力を備えていることです。また、快活で楽天的です。霊的な人は、目に見える祝福だけでなく、目に見えない人生の喜びに対しても、感謝の心を忘れないようです。また、ほかの人が成功したときやほめられたときに、心から喜ぶことができます。何かに従うときは、義務感や恐れ、あるいは名譽欲からではなく、自己啓発と向上心に基づいてそうします。そして、行ないだけでなく、心の状態にも常に気を配っているようです。

霊性の高い人々に見られる最も素晴らしい特質をあげるとすれば、人に親切でやさしく、積極的に関心を示すということではないでしょうか。そのような人は、クリスチャンとしての真心からの奉仕に名声を求めたりはしないようです。依存心を植え付けたり、恩を着せたりすることなく、援助の手を差し伸べることができます。助けが必要な人々を高める方法を知っているのです。(教義と聖約 104：15-16参照)

霊性の高い人はこう祈ります。「主よ、ここにおります。どうぞお遣わしてください。どこであれ、人の力になれる所にお送りください。温かい食物と一緒に隣人にお遣わしてください。疲れ果て、悩み苦しむ隣人に耳を貸してあげられるように、お遣わしてください。孤独な友を訪ね、隣人を幸福にするために、お遣わしてください。みたまのあらゆるささやきを聞いて、それに応えられるように、助けてください。『困ったときには電話して』と言うだけでなく、それ以上のことを行なって、絶望感や無力感に陥る前に手が打てるように助けてください。」

神が私たち一人一人に求めておられる代価は同じです。すなわち、すべてのものです。またそれに対する報いも同じです。すなわち、強い確信と平安です。私はある証会で、忘れられない証を聞きました。長身のナイジェリア人が心を込めてこう言ったのです。「私は神の子供であると確信しています。」イノスは、自分の罪が赦され、キリストに対する信仰が報われたときに、どのように感じたでしょうか。聖典にはこうあります。「そこで私イノスは……心が安らかになった。」(イノス1：17)

私たちが人を高め、愛し、養い、笑顔で接することができますように。また、訪問し、分かち合い、歌い、奉仕して、喜びが胸に満ちあふれますように。そしてイノスと共に、神とまみえる日を待ち望むことができますように。その日私たちは、「贖い主の御顔を仰いで喜び」に震えることでしょう。(イノス1：27)

*メアリー・エレン・エドマンズは、ユタ州メープルトン第5ワード部の会員で、ユタ州プロボの宣教師訓練センターのディレクター補助を務めている。



結婚の 幻想

いくつかの間違い

スティーブ・F・ギランド

私が監督をしていたときのことです。ある日曜日の午後、ひどくがっかりした様子の子供が話をしにやって来ました。多くの子供を抱えたその姉妹は、最近ワード部に転入してきたばかりでした。彼女は言いました。「私は小さい頃から、何度もこう教えられてきました。忠実な生活をして霊的な導きを求めるなら

ば、『唯一の永遠の伴侶』に巡り会い、神殿結婚をして正しく生活するならば、必ず幸せな家庭を築けます、と。私はこの教えに従おうと努力してきました。ところが、波風のない結婚生活が長く続いたあと、夫は子供たちを残し、経済的な援助もせず、ほかの女性のところに走ってしまったのです。」

その姉妹はこう尋ねてきました。「何が悪かったのでしょうか。神様は約束を守ってくださらないのでしょうか。」

私は、途方に暮れた姉妹の心痛を思いながら言いました。「神様の愛は変わっていません。問題があるのは、神様やあなたではなく、以前のご主人と、間違ったことをあなたに信じ込ませた人たちです。」

気持ちを伝えるには、タイミングが重要です。
たとえば、妻がうまくいかない1日を過ごして疲れ果て、
気落ちしているときに夫が帰宅したとすれば、
一番聞きたくないのは、夫の小言でしょう。

神殿結婚をした夫婦の離婚率が低いことは、様々な調査から明らかです。神殿結婚は夫婦をつなぐ大きな助けになっているようです。しかし、永遠の絆を保証してはいないのです。

福音は、結婚すべき「唯一の伴侶」について何の約束もしていません。しかし、充実した結婚生活を送る方法を教えてくれます。私たちは啓示に導かれて、良い伴侶になる「可能性」のある人と結婚することはできます。しかし、だれにも自由意志がありますから、その「可能性」を摘みとる選択もできるわけです。つまり、夫婦の信頼を弱める勝手な行ないやひどい言動によって、誓約を破る自由もあるのです。

幸せな結婚生活への鍵は、それを実現するためにわがままを抑えて協力し合う夫婦にあります。でんと腰を下ろして主にお願ひするだけの人は、失望を味わうことでしょう。一生懸命努力しても伴侶が協力してくれない人には、主の導きと助けがあるでしょう。正しい生活を続けていくなら、永遠においてあずかれない祝福はひとつもないのです。

先程の姉妹が感じていたものは、結婚について大方の人が抱いている幻想のひとつに過ぎません。ほかにも例をあげてみましょう。

「結婚したら伴侶は変わるだろう」

人は変わります。しかしながら、将来相手がどのような伴侶になるかを一番よく教えてくれるのは、現在の姿なのです。相手の性格や信条を変えようという気持ちで結婚する人は、大抵大きな失望を味わいます。

「あとになれば何とかなるだろう」

辛抱しなければならぬ一時的な危機や、緊張が高まって忍耐や犠牲が求められる時期というものはあります。しかし、私たちが危機と考えるものの多くは、自分で選んだ生き方の結果にほかなりません。もう少し暇になったら家族と一緒に過ごそうと考えて、引き延ばしをする人は、いつまでたってもその時間を取れないでしょう。そして、家族の絆を養うことを後回しにしたため、家族を失う結果になるかもしれません。私の知っている兄弟姉妹の中には、大切な永遠の家族関係を守るために、立派な職業ばかりか教会での様々な機会までも犠牲にした人が大勢います。彼らはその決心を後悔していません。

「相手の方が変わりさえすれば、万事うまくいくのに」

この言葉の裏には、「自分は絶対悪くない」という思いがあります。私たちが本当に変えることができるのは、自分だけです。救い主が教えておられるように、自分の目にある梁（はり）を取らなければ、人の目からちりを取ることはできません。（マタイ7：3-5参照）梁すなわち自分の欠点を見つめるのは容易でないかもしれませんが、それを見つけて生活から取り除けば、伴侶の欠点をくよくよ考えるより、はるかに結婚生活を強めることになるでしょう。

「ほんとに私を愛しているなら、私の気持ちができるはず」

私の知っているある女性は、夫の衛生上の習慣が気に入らませんでした。やがて意を決してそれを話すと、思いがけず夫は喜んでくれました。夫は、なぜ妻の

機嫌が悪いのかわからず、嫌われたとばかり思っていたのです。愛があるからといって、性格の違いや誤解の余地が消えてなくなるわけではありません。しかし愛によって築かれた土台があれば、はねつけられたり、ののしられたりしないかという恐れを抱かずに、自分の気持ちを自由に話すことができます。

「私の方法が正しい」

自分の見方が最も正しく、相手の考えを変えさえすれば解決がつくと思うのはたやすいことです。実際、ほとんどの争いでは、どちらも自分の方が「正しい」と主張します。ここで求められるのは、相手に非を認めさせることではなく、相手の見方を理解することです。伴侶の考え方を知れば、自分の考えをもっと上手に伝えることができます。いつも完全な一致には到達しないかもしれませんが、話を聞いて理解しようと努めれば、伴侶への思いやりを示すことができます。ほとんどの人は、「正しい」人の言葉より、自分のことを考えてくれる人の言葉に耳を傾けるものなのです。

「互いに愛し合い、主のみたまを受けていれば、大きな意見の相違はない」

いくら誠実に付き合っても、意見の相違に出会うのは当然です。夫婦和合の秘訣は、衝突しないことではなく、結婚生活や家族、救い主など、自分ひとりの問題よりも大切な事柄に重きを置くことです。私たち夫婦もときどき、意見が大きく対立します。そんなときには、自分の考えを押し通すことより、夫婦の関係の方を優先させます。そのお陰で、かえってふたりの仲が親密になる場合が多いのです。意見の相違は必ずしも完全に

解消されるわけではありませんが、より深いところで互いを理解し、共通の目標を再認識するよい機会になるのです。

救い主は、「争いを好む心ある者はわれに属く者にあらず」(III一コリ11:29)と教えられました。けんか好きな人は、自分が正しいと思い込んでいます。人の話を聞こうとしません。自分をかばい、伴侶の誤りを指摘するのに忙しくて、相手の気持ちや考えを思いやることができないのです。たとえ不一致があっても、伴侶の気持ちや考えを思いやり、「聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくある」(ヤコブ1:19)なら、争いを避けることができます。

「伴侶に対していつでも温かくやさしい気持ちを抱いていなければ、愛しているとは言えない」

私たちは、交際中のうっとりとした気持ちを本当の愛だと考えることがあります。そして結婚生活に対立が生じると、失敗したと感ずるので。幸せな夫婦の大半は、様々な難局を乗り切ってきています。相手を特別好きだと思えない時期を幾度かしのいできた夫婦もあるでしょう。そういう夫婦は自分の気持ちはさておいて、伴侶との関係を優先させてきたのです。否定的な感情について思い悩む代わりに、やさしい態度をとるように気をつけ、結局はそのお陰で、思ってもみなかった深い愛情にたどり着くことができたのです。

「どんなに相手を傷つけることになるうとも、自分の気持ちや考えはいつも隠さず正直に話す」

正直や信頼は結婚生活に欠かせないものですが、嫌悪感に根ざした辛辣な批判は有害です。そうした気持ちを相手にぶつける目的は何でしょうか。「自分でしたことの埋め合わせをさせる」ためや、「ば

かさ加減を思い知らせる」ためであったなら、夫婦の関係は壊れかねません。気持ちを吐き出して一時は気が晴れるかもしれませんが、長い目で見れば、かえって悪感情が募ることになるでしょう。

一方、伴侶のことを気にかけて、互いの絆を強める目的で話すのであれば、それはれっきとした思いやりです。その場合は、伴侶の気持ちや反応も大事にするでしょう。思いやりのある夫婦は、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の気持ちを尋ねて耳を傾けるものです。

気持ちを伝えるには、タイミングが重要です。たとえば、妻がうまくいかない1日を過ごして疲れ果て、気落ちしているときに私が帰宅したとします。妻にとって一番聞きたくないのは、私の小言でしょう。でも、皿洗いなどを手伝い、子供を寝かしつけてあげたあと、夜遅く話せば、落ち着いて聞いてくれるかもしれません。

口に出さない方がよいこともあります。今思い返すと些細なことなのに、当時は大問題に思えて妻を怒鳴ろうとしたことが何度もありました。そのときに口を開かず済んで、本当に感謝しています。もうひとつ感謝していることは、胸の内は苦しかったのですが、機を見て良くない感情をできるだけ明るく、穏やかに妻に話せたことです。つまらないことと大切なことを見分けるのは、容易ではありません。しかし、これだけは言えます。イライラが残って夫婦間に亀裂を生じようなら、話すべきです。

「自分がつらいときには、人にそっけなくしても仕方がない」

ある家の主人は、不機嫌な様子で仕事から帰って、テレビの前の安楽いすに座ると、子供たちを寝かそうと奮闘している妻にあれこれ小言を言い、そのうえ妻からやさしい言葉をかけてもらいたいと

思いました。妻が不満をもらすと、「仕事で疲れてるんだ」と言って自分の態度を正当化しました。

いやなことがあった日やつらい思いをしているときでも、不作法や不親切な態度は許されません。救い主がその模範です。主の生涯は「つらい日」の連続でした。人々はイエスの言葉じりを捕らえようとしました。また、食べさせてもらったときは従いましたが、教えが厳しいと感じると離れていきました。そしてついには主の命を奪ったのです。しかし救い主は、それを理由に人をけなしたり、傷つけたりは決してされませんでした。

間違った仮説は夫婦関係を損なうばかりか、結婚生活を破壊することさえあります。幻想に捕らわれないで永遠に続く愛情ある関係を築くために、夫婦が福音の真理に照らして互いの結婚観を見つめ直すのは、非常に大切なことなのです。
*スティーブ・F・ギリランド：ロングビーチ州立大学のインスティテュートディレクター、8児の父

話し合しましょう

「結婚の幻想——いくつもの間違い」を読んだあと、個人または夫婦で、次の事柄について考えてみるとよいでしょう。

1. この記事には、結婚生活について間違った考えが10あげられています。ほかにもそのような考えはありませんか。
2. 自分の結婚生活にあてはまりそうなものはどれですか。
3. 意見の違いを亀裂ではなく、絆にするには、どうすればよいでしょうか。たとえ一致できなくても、争いを避けるには、どうすればよいでしょうか。
4. 自分の結婚生活にあてはまる「幻想」をひとつ選び、それを正しい見方や愛に変える方法について話し合ってください。

よりよい自分、 よりよい結婚 情緒面での高潔さを 身につける

ビクター・L・ブラウン・ジュニア

結婚は、永続すべきものです。それは神によって定められ、ふたつの心をひとつに結ぶものです。しかし問題のない結婚生活はあり得ません。夫婦の間には、何らかの形で挫折感やあつれきが存在しているのです。

当然のことですが、だれでも結婚生活を実りあるものにしたいと願っています。だからこそ、夫婦間のコミュニケーションや肉体的な満足、育児法、家族の活動など、結婚生活の様々な分野についての書物や理論に目を向けるのです。しかし、私がいろいろな夫婦と接してきてわかったことは、夫婦の間が本当にうまくいくには、まず個人の準備が必要であるということです。私はこの準備の基になるものを「情緒面での高潔さ」と呼びたいと思います。

情緒面での高潔さとは、人が何を言い何を行なおうと、常に変わらずにいられる情緒的な強さ、自制力、完璧さのことです。感情を抑え、良い感情や悪い感情を素直に認めることも含まれます。情緒面での高潔さを身につけた人は、節度があり、言行が一致し、失意などから容易に立ち直ります。伴侶の行ないによって自分の行動が左右されるようなことはありません。また快活で、夫婦の生活に大きな喜びを見だし、意思の疎通もうまく行ないます。感情の「家」が整ってい

るので、人とのコミュニケーションがうまくいくのです。

私は多くの人と接してみて、この情緒面での高潔さを^{育む}原則を5つ見つけました。以下の例に出てくる人々（名前や状況は変えてあります）は、伴侶に頼らずに、独力で高潔さを養いました。自分の行動に責任があることを認め、もっとキリストに近い行ないができるように努力したのです。私の見る限り、こうした個人の能力を伸ばしていくとき、結婚生活は、堅固であればさらに強められ、不安定であれば確立され、崩壊しかけていれば立て直されるのです。

原則：自尊心を確立する

自分の能力と生き方に確信と自信を持つことは、結婚生活に欠かせない要素です。しかし、私たちは自分を厳しく裁いて、あるいは他人と比較して、自分自身を傷つけることがあまりに多いようです。また、自尊心がこの世の標準によって脅かされることもよくあります。たとえば、世の中では参加することより勝つこと、倏約よりも富、名誉よりも名声、そして奉仕よりも地位が賞賛される傾向にあるので、親切、温和、忠実などの福音の原則に基づいた価値観が、徐々にむしばまれていきます。

すべての人は、特異な性質と才能、能

力を備えた神の子供です。生まれながらに、すばらしい価値を備えています。私たちは自分の賜を教えてもらうことはできても、自尊心を人からもらうことはできません。自分で養い育てていかなければならないのです。自己を批判してばかりいないで、努めて良い特質を探し、弱点を克服していく必要があります。

私の知っているある女性は、名前をエラとしておきますが、子供の頃、両親や同年代の仲間から、自分の欠点を厳しく非難されて育ちました。やがて大人になって結婚したエラは、扶助協会のレッスンを受けながら、またそのあとで、ほかの姉妹と自分を比較して気落ちするようになりました。どの姉妹も自分より聡明で、立派で、福音に対する信仰が強いように見えたのです。扶助協会のあと不きげんになるため、夫からも敬遠されるようになりました。

ようやくエラは、自分を責めてばかりいる態度が、証や結婚生活を脅かしていることに気づきました。そこで、変わろうと決心したのです。まず自分自身を具体的に評価して、長所と短所をすべて書き出しました。最初は、自分の長所を認めることに抵抗を感じました。また、短所を永久に変えられないものとして安易に受け入れがちでした。しかし、エラはこのリストを使って、ひとつずつ短所を



エラは、自分を責めてばかりいる態度が、証や結婚生活を脅かしていることに気づきました。そこで、ひとつずつ短所を克服し、長所を伸ばしていくことにしました。

克服し、長所を伸ばしていくことにしたのでした。

エラは自己評価を通して、自分の欠点に気づきました。そのひとつは、相手を傷つけるかどうか考えずに、何でもすぐに口に出すことでした。自分の言葉が人を傷つける可能性があることを知っては、話す前によく考えるようにしました。こうしてエラは、不注意な言葉を口にしなくなり、新たな自制心を身につけたのです。また、家事の方でもいろいろな技術を身につけ、自分にとって重要で人に役立つことをしたという達成感を味わいました。

自尊心を高めるうえで、奉仕は欠かせません。狭い視野から自分の完成ばかりに捕らわれていると、情緒的な能力が失われてしまいます。しかし、神と人に仕えるために、理にかなった方法で意識して才能を伸ばし、磨いていけば、自分自身に対して良い気持ちを持てるようになるのです。

エラは欠点をいくつか克服し、長所を伸ばすと、自分も価値ある存在に思えてきました。しかし、努力したことを認めてもらいたい、ほめてもらいたいとは思いませんでした。それは、自身の内面的な努力、神の律法に添って生活するための努力だったからです。エラの抱いた自尊心は、まさしくみずからを尊ぶもので

した。自尊心が高まるにつれて、結婚生活は改善されていきました。夫の心もなごみ、明るくなったエラの表情や態度を喜ぶようになりました。そして夫の方も自分の生活を振り返って欠点を直し始めたのです。すばらしい成果でした。

原則：心の傷を癒す

多くの人は過去の生活の中で心に傷を負っています。その原因は、子供の頃の不安定な生活や虐待、友達が得られない

不満、たび重なる転居による疎外感、夢や目標を実現できなかったことなど、実に様々です。しかし原因はどうあれ、今なお癒されない傷を負って苦しんでいるのです。

私たちはよく、そうした心の傷を伴侶に癒してもらおうとしますが、これは論理的でも实际的でもありません。プレアはそんな男性でした。プレアの母親は極端に威圧的で、冷淡とも言える人でした。ひとりっ子のプレアは、そうした母親の支配的な態度を嫌いました。その気持ちは母親の死後も続き、妻が少しでも意見を言ったりすると、ひどく腹を立てました。そして、家計はもちろん、3人の子供のしつけ、家事、レクリエーション、祈り、教会への出席など、すべてのことを自分の思うままにしました。妻は夫の気持ちを損ねないように必死で言葉を選び、行動しました。しかし何の効果も見られないので、自分の落度を責めて、絶

プレアは、極端に威圧的な母親に育てられたので、妻が少しでも意見を言ったりすると、ひどく腹を立てました。しかし、母親を許せる気持ちになったとき、結婚生活を脅かしていた数々のあつれきを取り除くことができたのです。



望的な気持ちになってしまいました。

ブレアはあるとき、母親に接するような態度ですべての女性に接している自分に気づきました。心の傷が治り始めたのはそのときからです。母親についてもっと詳しく知るために、系図を調べ、親戚の人に話を聞いて回りました。録音してきたテープを思いやりをもって聞くうちに、単に親としてではなく、ひとりの人間としての母親の姿が見えてきました。そして、妻として母としての務めを立派に果たそうとしたときの葛藤が理解できるようになりました。こうしてブレアは母親を許せる気持ちになったのです。また、心の傷は自分で癒すという自覚を持つこ

とで、結婚生活を脅かしていた数々のあつれきを取り除くことができたのです。

原則：複雑なテクニックではなく、尊敬と親かな振る舞いによって、効果的なコミュニケーションを図る

単に正しい答えを引き出すために、正しい方法で正しい質問をするだけであれば、そのコミュニケーションは、自発的で自然なものではなくて、自分本位で型にはまったものになってしまうでしょう。有能な会見記者やカウンセラーであれば心得ていることですが、真のコミュニケーションは、相手の言わんとすることを尊重しながら耳を傾けてこそ成り立ちます。偽りのない誠実な態度には、ほとんどの人が反応を示すものです。

しかし実際には、販売訓練で学んだコミュニケーションのテクニックを過大評価しているルーベンのような人が少なくありません。妻が不遇な子供時代を送ったことを知ったルーベンは、悩みがあればいつでも相談するように熱心に勧めました。ところが残念なことに、妻に対する愛情よりもテクニックの方に心を向け、機械的な態度で問題を詮索していったため、妻を励ますどころかおびえさせる結果になってしまいました。張りつめた妻の心にさらにメスを入れて、ますます妻を苦しめました。そしてとうとうふたりの間には、心の通ったコミュニケーションがなくなってしまったのです。

解決の糸口は、すべてルーベンにありました。ルーベンは、もっと妻に心を配るようにしたのです。その結果わかったのですが、妻が必要としているのは話すことではなく、尊敬されることでした。ルーベンは妻への愛をよりどころにして、言葉以外のコミュニケーションに注意を向けるようにしました。たとえば、何か質問をしてすぐに返事が返ってこないときには、答えを強要しませんでした。丁寧で思いやりのある行ないを示し、「おねがい」「ありがとう」といった言葉をかけるだけで、何ひとつ強要しない日が続きました。気持ちを話させることよりも、敬意に満ちた雰囲気作りに専念するようになってから、夫に対する妻の信頼は深まり、夫婦のコミュニケーションは着実に改善されていったのです。

原則：よく備え、訓練を重ね、救い主の模範に従うことにより、一步一步完成に近づく

救い主は次のように言われました。「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ5:48)しかし「完全な者」になることはむずかしく、多くの場合、一生あるいはそれ以上の年月がかかります。中には、簡単にあきらめて、低俗な快樂へと走る人もいます。また、生まれつき才能のある分野で完全を目指して努力し、出世や教養、物質的



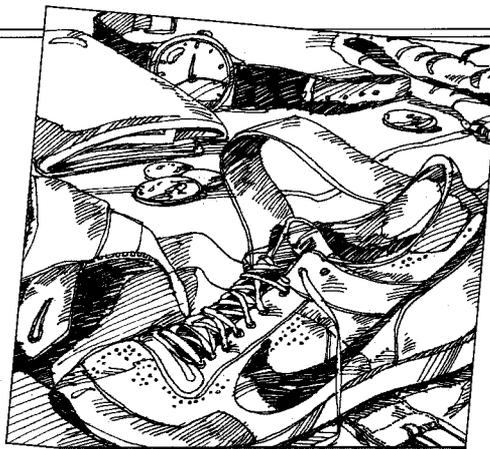
ルーベンはコミュニケーションのテクニックに頼る代わりに、もっと妻に心を配るようにしました。その結果わかったのですが、妻が必要としているのは話すことではなく、尊敬されることでした。

な富などを手に入れることに夢中になっている人もいます。あるいは、完全になれるはずがないと思ながらも、義務感からむなしい努力を続けている人もいます。さらに、昔の哲学者ぶったパリサイ人のように、律法の文字ばかりを捕らえて、厳しい見解を持っている人々もいます。

しかし、「完全な者となりなさい」という救い主の訓戒に、失望することはありません。神は私たちを心から愛しておられ、私たちはその神の子供です。神の御子が地上に来られたのは、私たちの罪のためにご自身を犠牲として捧げ、私たちが喜びを得て天父のみもとに帰れるようにするためでした。私たちに期待されている完全さとは、生涯を通じて忍耐し、進歩し、律法を守り、愛に満ちた御父と御子の贖いに頼ることなのです。

ローリーは、夫との関係をもっとキリストに近づいたものにしようとして努力したときに、この原則を学びました。ローリーは何でもきちんとしないと気の済まない性格でしたが、夫は正反対でした。そのためローリーは、夫のいい加減で無頓着な振る舞いをしばしば非難しては、涙を流していました。ところがあるとき、自分の思いや行ないが救い主の模範に添っていないことに気づいたのです。そして、夫を責める代わりに、自分の態度を変えようと決心しました。ローリーは、キリストならどうされるか考えてから、気にさわる夫の行ないに対処するようにしました。キリストのような態度が身につくにつれて、人のあら探しをしなくなり、不愉快な態度で応対することがなくなりました。夫のだらしなさが気にならなくなるまでには数週間かかりましたが、いつの間にか毎日夫の帰宅を待つ間、どうしたら夫の話に耳を傾け、共に静かなひとときを過ごして、一日の緊張をほぐしてあげられるか、あれこれ考えるようになっていたのです。

このような態度によってローリーのきちょうめんな性格が変わったわけではありません。しかし問題に明るく対処していくうちに、そうした方法が自分のもの



ローリーは、夫のだらしなさを責めたてるのが救い主の模範に添っていないことに気づきました。そこで、夫を責める代わりに、自分の態度を変えようと決心しました。

になったのです。夫の方はローリーの期待するようにはなりませんでしたが、しばらくするうちにそれも問題でなくなりました。というのは、タンスの引き出しに衣服をきちんと入れておくことよりも、自分の感情を抑えることの方がはるかにすばらしいと感じたからです。ローリーは実に長い時間かかって情緒面での高潔さを身につけたのです。

原則：神の誓約は、情緒面での高潔さを身につけるための指針と報いをもたらす

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の言葉によれば、天父の誓約は私たちとの交渉によって取り決められるものではありません。（「福音の質疑応答」4：155-60参照）天の御父は、律法に対する従順さに応じて祝福を与えてくださり、それらの祝福の基になる条件と誓約を示しておられます。私たちはその誓約を守ることも破ることもできますが、創造主に対してこちらから条件を出したり、律法の変更を求めたりはできません。それにもかかわらず、私たちはときどき、全知全能で普遍の愛を具えたお方の律法を、あたかも変えられるかのように振る舞うことがあるのです。

スティーブンも、そのような行ないを

しようとしていました。スティーブンは監督に会って、妻との間がうまくいかないので離婚を考えていると話しました。監督は、教会の懲罰を必要とする罪がないことを確認すると、誓約について思い起こすように言いました。スティーブンは神殿で、永遠に結婚生活を続けるだけでなく、キリストの教えにかなった夫になると誓約していたのです。

スティーブンは監督の言葉に不満を感じました。そこで、自己流の道徳観と自分本位な考えに取りつかれたまま、妻の欠点や自分の得るべき幸福について話そうとしました。しかし監督は、離婚を持ち出す前に、とにかく12カ月間誓約に添った生活をするようにチャレンジしたのです。

監督はあれこれ忠告せずに、神のみ前で交わした厳かな誓約を思い起こさされただけです。そして、みたまの導きのままに、何が正しく何が間違っているかをわかりやすく穏やかに話しました。幸いなことに、スティーブンはまだ高潔さを保っていたので、軽々しく扱ってはならない誓約を主と交わしていることを認めました。

それから12カ月間、誓約を尊重し、妻にはキリストの教えに添った接し方をするように努めました。また、自分を喜ば



せるような魅力が妻にあるだろうかなどと考えるのはやめて、神権を尊ぶことに専念しました。こうして1年後にスティーブンは、思ってもみなかったほど妻への感謝と愛が深まったと監督に報告したのです。

スティーブンの場合は、みずから従順になることによって、結婚関係に祝福もたらされました。悔い改めて、自己を厳しく訓練するのは、楽でも、簡単でもありませんでした。しかし高潔さが養われるにつれて、以前に求めていた「幸福」よりももっと確かで、完全で、喜びにあふれた平安を得ました。そして忍耐強い妻は、自分を非難せずに大切にしてくれる愛する伴侶を得たのです。

基本原則：救い主に従う

以上は、いずれも深刻な問題を抱えた人々の例です。結婚生活がみな崩壊寸前にあるわけではありませんが、重大な問題の多くは、伴侶を変えようとする前に各自が福音に添った生活に専念すれば、防ぐことも、解決することもできるので

です。もちろん、この5原則がすべてではありませんし、情緒面での高潔さが身につ



救い主の生涯こそ、情緒面での高潔さの唯一まことの完全な模範です。私たちは、キリストの生涯を手本とすることにより、情緒面での健全さを身につけることができます。

けば、夫婦の一致協力は不要だということでもありません。しかし経験から明らかのように、堅固で実り豊かな結婚生活では、夫婦間の効果的な協力、交わり、コミュニケーションなどの基盤として、5原則のすべてが、あるいは一部が取り入れられているのです。それらを見れば、重大な誤解がたびたび生じてしまうでしょう。

5つの原則には、同じように大切なひとつの源があります。それは、救い主の生涯です。救い主の生涯こそ、情緒面での高潔さの唯一まことの完全な模範です。私の見る限り、情緒的に健全な末日聖徒は、当然のこととして、イエス・キリストの生涯について学び、それを手本にしようと努力しています。キリストはこの世で生活され、人間としての感情を持たれました。友人や親戚の人と祝いごとをされ、荒野で誘惑を経験され、義憤にかられて貪欲な人々を神殿の敷地から追い出されました。また、幼な子たちの清さに歓喜して、あるいは友の死を悲しんで涙を流されました。説教や病人の癒しに疲れて、気力を回復するために人目を避けられたこともあります。そしてこの世の生涯の終わりには、世の罪のために言語に絶する苦痛を味わいながらも、なお人々に思いやりを示され、不当なのしりを浴びながらも、ご自分を十字架につけた兵士たちを赦されたのです。

キリストは、この世での様々な経験を通して高潔さを示されました。その高潔さは、みたまの慰めも得られずに「どうしてわたしをお見捨てになったのですか」（マタイ27：46）と叫んだときでさえ、変わりませんでした。

キリストの完全さは、私たちに失望させるものではありません。むしろ、私たちはこれから経験することをキリストが完全に知っておられることで、勇気づけられるはずで

す。キリストの律法に従うならば、自分の感情を抑えられるようになります。そして、さらに深く愛し、愛されるようになるのです。

*ビクター・L・ブラウン・ジュニア：教会福祉活動地域ディレクター、6児の父。サイタス・ハイツ・カリフォルニアステーキ部長

話し合ってみましょう
「よりよい自分、よりよい結婚」を読んで、以下の点について考えてみるとよいでしょう。

1. 自尊心を高めるために、どのような分野で努力できますか。
2. 自分の心の傷をすべてあげてください。それらを克服するにはどうすればよいでしょうか。
3. 伴侶とのコミュニケーションを改善するために、何ができますか。
4. 伴侶への真の愛を育み、行ないで示すために、改善する余地のある状況を具体的にあげることができますか。

スティーブンは監督から、キリストを模範として妻と接するように勧められました。そして1年後には、思ってもみなかったほど妻への感謝と愛が深まりました。

母親の夢

バイラ・H・ジャッジ

強く正しき棒 とりてたよれ
そは神のみことば 導きまさん
（「讃美歌」165番）

耳慣れた讃美歌の歌詞が、夫のペドロ・カントスと妻のナンシー、それに子供たちの胸を打ちます。カントス家の人たちは、モルモン経に記されたリーハイの夢のお陰で、ふたつの大きな祝福を受けました。その祝福とは、福音と幼い息子の健康です。

カントス家の5番目の子供ペドリトは、赤道に近いアンデス山脈の高地にあるケベドの診療所で生まれました。初めはどこにも異常などないようには見えたが、生後3日目になっても胎便が排泄されず、苦しんで激しく泣き始めました。

驚いた両親は、朝を待たずに専門医に診てもらおうと思いました。というのは、すでにふたりの子を急病で亡くしていたからです。3番目の子供ナンシー・ジュレマは、3カ月のときに原因不明の病気にかかって死にました。それから2年後に、4番目の1歳になるジュアン・カルロスが、気管支肺炎のため、エクアドルのグアヤキルの病院へ向かう途中、母親の腕の中で息を引き取りました。悲しみに沈む母親は次の町でバスを降りました。そこから家に帰ろうとしましたが、どのバスもタクシーも、死んだ子を抱いた母親を乗せてはくれませんでした。途方に暮れた母親は、子供が眠っているように見せかけて、通りがかりのトラックに途中まで乗せてもらい、そこから別の自家用車乗り継いで、ケベドに帰り着いたのでした。

そして、今度のことで最悪の事態を心配したペドロ・カントスは、新生児を毛布でくるみ、妻に別れのキスをする、タクシーで300キロ離れたグアヤキルに

向かいました。互いに遠く離れても、子供の無事を祈る親の心はひとつでした。

ようやく病院に着くと、医師たちはすぐに先天性腸閉塞と診断し、ただちに手術をしました。

3日後には、危険な状態を脱したので、父親はケベドの家に帰り、治療費を支払うために借金をし、看病のため妻を病院に行かせました。

母親と赤ん坊がグアヤキルに行つて1カ月になりました。家族にとって、つらい1カ月でした。医師からは快復の見込みがないと言われましたし、入院費を工面する当てもありませんでした。

ペドリトは何とか帰宅できるような状態になりましたが、まだ具合が悪く、熱がありました。痛がって泣き続け、眠ることもミルクを飲むこともできません。点滴でどうにか命を保っている状態でした。

3カ月になると心臓発作を起こし、心臓に先天的な疾患のあることがわかりました。心臓手術をすれば良くなる可能性はありますが、放っておけばせいぜい10歳までしか生きられないのです。それも病気を持ったまま。

心臓手術！ しかしそれには大変なお金がかかります。とても無理です。

両親は、沈痛な思いでペドリトを家へ連れて帰りました。それからは、子供を死なせまいとする懸命な闘いが続きました。少し良くなったかと思えば、翌日はまた悪くなるという具合でした。しかも2、3週間に1度は、グアヤキルへ治療に連れて行かなければなりません。限られた収入の中で、これは大きな負担でした。

その間、家族はいつも祈っていました。そしてその答えが夢で示されたのです。

ペドリトが10カ月になるというある夜のことです。母親のナンシーは夢の中で、

台所の窓から外を眺めていました。そこには、いつものごみごみした建物ではなく、見渡す限り美しい芝生が広がっていました。少し離れた所で男の人が地面に穴を掘っていました。ナンシーはその人に近寄って、尋ねました。

「何をしていますのですか。」

「人の病気をなおす薬草を植えているところです。」

ナンシーはそばに珍しい木が生えているのを見て、また尋ねました。

「あの木は何に効くのですか。」

「ペドリトの病気の特効薬ですよ。」

ナンシーは勢い込んで聞きました。「教えてください。その木の薬をペドリトに飲ませるには、どうすればいいんですか。」

その人が返事をする前に、ナンシーは、遠くの家の窓から男の人がこちらを見ているのに気づきました。その人はすぐに家から出ると、もうひとり男の人を連れて、ナンシーの方へ近づいて来ました。ふたりとも真っ白な服を着ています。

ナンシーは怖くなって家に駆け込み、ドアにかんぬきをかけました。ふたりは横木をわたした窓越しにナンシーを見て、「なぜ怖がるのですか」と聞きました。

「だって、家には、病気の子と私しかいないんです。」

すると、ふたりはやさしく言いました。「ドアにかんぬきをかけても、窓に横木を打つても、私たちは中に入れることを知らないのですか。あなたが神を信じ、熱心に聖書を学んでみ言葉を求めたので、神はあなたを助けるために、私たちを遣わされたのです。」

次の瞬間、ふたりは家の中に入っていました。そこで、夢から覚めました。

ナンシーはこの夢をはっきりと覚えていましたが、だれにも話しませんでした。

1週間後、ふたりの宣教師がカントス

ナンシーはそばに珍しい木が生えているのを見て尋ねました。「あの木は何に効く
のですか。」その見知らぬ人が答えました。「ペドリトの病気の特効薬ですよ。」



家を訪れました。ナンシーとペドロ、それにふたりの息子セイサーとフェルナンドは、その日の夜に最初のレッスンを受けてきました。

長老たちは帰る前に、キリストがアメリカ大陸を訪れた箇所に印をつけて、モルモン経を手渡しました。そのとき、靈感を受けた長老たちは、生命の木についてのリーハイの夢の箇所にも、印をつけたのです。そんなことをするのは、初めてでした。

あとでリーハイの夢の記述を読んだナンシーは、胸が高鳴りました。自分の見た夢とそっくりです。これこそ祈りの答えです。

ナンシーは早速夫にその聖句を読んで聞かせ、夢の話をしました。ペドロもそれが答えであると信じて、こう言いました。「私たちが神の戒めに従って、鉄の棒につかまれば、ペドリトはきっと癒されるよ。」

次のレッスンが待ち遠しくてなりませんでした。

長老たちがやって来たある晩のことです。ペドリトの病状がことのほか悪化していました。導きを感じた長老たちは、神権による癒しの原則について話しました。家族はぜひ祝福をしてほしいと願いました。ペドリトはひどくやせていて、骨が浮き出ていました。これまで、ミルク以外に何も受けつけなかったのです。歩くことも話すこともできず、1、2時間眠り続けることさえ出来ませんでした。

長老たちはペドリトを祝福し、必ず快復するという強い確信を抱いて帰っていききました。

そのときから、ペドリトの病気は快方に向かいました。家族はバプテスマを受け、ナンシーは福祉宣教師に助けられて、ペドリトに固形食を与え始めました。ペ

ドリトの体重は増え出し、生まれて初めて夜の間ずっと眠りました。そして、歩いたり話したりするようになりました。経費のかかるグアヤキル通いは、もう必要なくなりました。

しかし、突然ペドリトの具合が悪くなりました。熱も非常に高いので、再びグアヤキルの病院へ向かいました。診察した医師たちはこう言いました。「少なくとも5日間は入院しなければなりません。それにこの子の命を救うには、すぐにも心臓手術を行なう必要があるでしょう。」

ところが驚いたことに、翌日ペドリトは元気になって退院してしまったのです。

ケベドに帰ると、福祉宣教師に教わって、手術費の補助を申請しました。医師からは、合衆国かブラジルで手術を受けるように勧められました。しかし、教会員の中に最近同じような病気で手術を受けた人の家族がいて、その会員から近くのキトに住む心臓外科医オズワルド・ボニラ博士のことを聞きました。

ボニラ博士の予定は数カ月先までいっぱいでしたが、2週間後に診てもらえることになりました。合併症があったため、すぐには診察できなかったのです。その頃ナンシーは、医療費の足しに働きたいと思い、裁縫のクラスに通っていましたが、約束の診察日が間近になってから、その日にクラスの卒業試験があることを知りました。

ボニラ博士は快く、診察日を2週間延ばしてくれました。ところがその日はバスのストライキがあって、またもや診察が受けられず、結局、博士と会えたのは6週間後のことでした。

心電図やレントゲン、そのほかの検査の結果、ペドリトの体力では手術に耐えられないことがわかりました。ボニラ博士は不安げな両親に、「十分な体力を

つけるのに、少なくとも8、9カ月はかかるでしょう」と言いました。そして、別の検査を指示しました。

それから3日後、ペドリトが新しい検査を受けるというとき、白ワイシャツにダークスーツ姿のふたりの青年が入って来て、「この子を祝福したいのですが」とボニラ博士に申し出ました。

博士は「5分だけです」と言って病室を出て行きました。

その日の夕方、博士は驚いて口笛を鳴らしました。検査の結果、ペドリトは目覚ましく体力が回復していたのです。博士は、直ちに手術を行なうことを決めました。

「思っていた以上に悪い状態でした。」ボニラ博士は手術室から出て来ると、5時間にわたって精神的な苦痛に耐えていた両親と、長老や姉妹たちに告げました。「祈り続けてください。そうすれば、あの子は助かるでしょう。」

ペドリトは助かりました。ぐんぐん快復して、じきにほかの子供たちと同じように走ったり遊んだりするようになりました。そしてペドリトの生への闘いは、別の奇跡を生みました。ボニラ博士と助手のロベス博士は、長老たちが祝福を施したとき、その信仰と目の前で起こった奇跡とに心を動かされ、手術費を支払わなくてよいと言ってくれたのです。

カントス姉妹の親戚の多くは、福音を受け入れました。そしてへき地に住むカントス兄弟の親戚も、宣教師がやって来て福音を教えてくれる日を待ちかねているのです。

*バイラ・H・ジャッジ：著作家、ユタ州セントジョージ第9ワード部の会員、セントジョージ神殿奉仕者

質疑応答

●本誌の解答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

キリストの再臨に先立って
起こるとされている
重要な出来事は何ですか。



解答者

ジョセフ・F・マッコンキー

(ブリガム・ヤング大学)
古代聖典学準教授)

キリストの再臨を日時の点から語ることは、聖典の中ではっきりと禁じられています。したがって、私たちが再臨について使う暦は、年月を表わすものではなく、様々な出来事を示すものになります。予言の中には、キリストが再臨される前に必ず成就するものがあります。それらの出来事は、聖典の中で「神の御業の……結び」と呼ばれ、「やがて来りたまわんときの途の備え」として、現世における地球の歴史の「第七千年目の始めに」起こることになっています。(教義と聖約77：6，12参照)

黙示録第9章には、第7の封印が解かれたのちに起こる戦争と災いが記されています。ジョセフ・スミスは啓示により、「第九章に誌されし事は……キリストの来りたもう前、すなわち第七の印を釈きたる後に完うせらるべきなり」(教義と聖約77：13)と述べています。

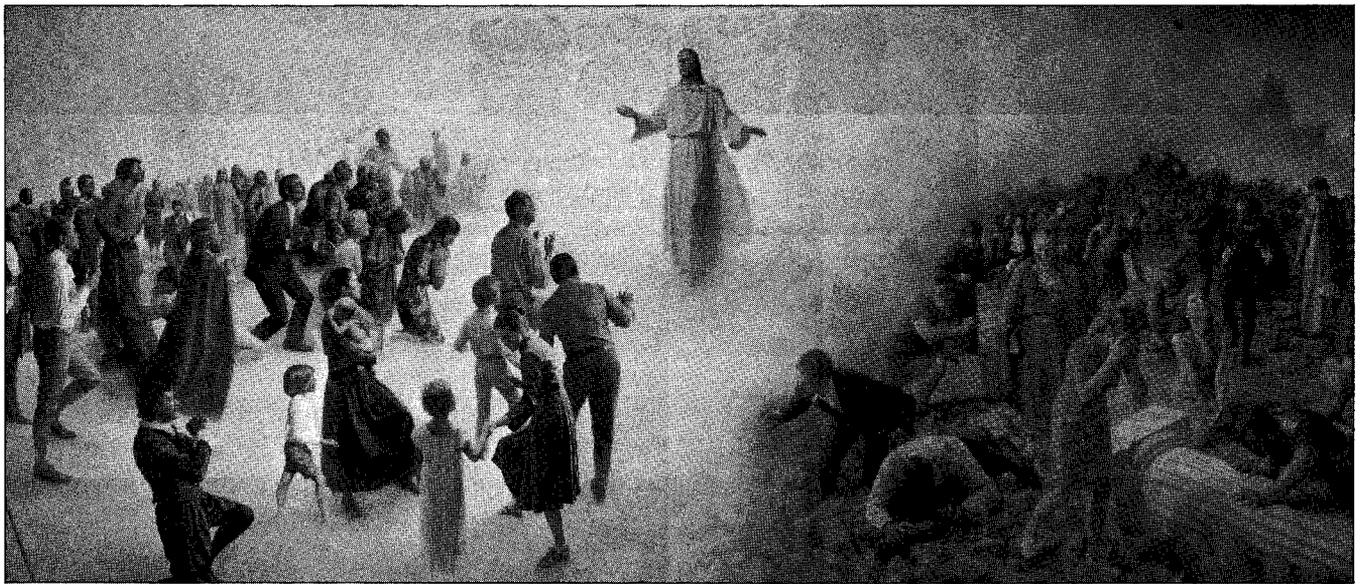
忠実な聖徒はそれらの出来事を見分け、再臨のときにキリストを受け入れるための備えができるのです。では、再臨の前

に起こる6つの重要な出来事について、必ずしも年代順ではありませんが、簡単に考察してみましょう。(1) 全世界に福音が宣べ伝えられること、(2) イスラエルの集合、(3) 神殿の建設、(4) アダム・オンダイ・アーマンにおけるキリストの訪れ、(5) ハルマゲドンの戦い、(6) 天体の諸々のしるしと驚嘆すべきこと。

1. 全世界に福音が宣べ伝えられること。予言者ジョセフ・スミスを通して回復された福音は、キリストの再臨の前に、

「あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、あらゆる人々」に宣べ伝えられることになります。モルモン経の中で証されているように、国や民族や言語を問わずすべての人に、キリストを受け入れる機会が与えられなければなりません。(IIIニーファイ21：11参照)その中には、ロシアや中国、インド、あるいは回教徒の国々などに住んでいる人も含まれます。あらゆる人々が「己が国語と己が言葉にて」、しかも「その国の人」によって、回復された福音を聞くのです。(教義と聖約90：11；アルマ29：8)こうした国々の中には、「義と大きな栄光にかがやく神の能力とを以て武装した」大勢の末日聖徒がいることでしょう。(Iニーファイ14：12，14)また、この予言が成就する前に、世の中の政府に大きな変化が起こることでしょう。

2. イスラエルの集合。イスラエルの集合についての予言は、福音の教えを通して成就するでしょう。このことは、ローマン人やユダヤ人、失われた支族にも



当てはまります。彼らはキリストとその律法を拒んだために、失われたり散らされたりしました。やがてキリストとその永遠の誓約に立ち返るとき、彼らは古代からの受け継ぎを求めましょう。そして「神の真の教会と羊の群に再び復され」たのち、イスラエルの集合の鍵を持つ予言者の指示に従って、受け継ぎの地へ戻るのです。(II ニーファイ 9 : 2 ; 教義と聖約 110 : 11)

3. 神殿の建設。イスラエルが集合するとシオンが確立され、シオンが確立されると神殿が建設されます。神殿の目的は、人々に神に会う用意をさせるということです。マラキは、末の日に主が前ぶれなく神殿に来られると約束しました。(マラキ 3 : 1 参照) またイザヤは、キリストの来臨に先立つイスラエルの集合のしるしとして、神殿の建設をあげています。(イザヤ 2 : 1-3 参照) 予言された約束によれば、昔からのエルサレムとジャクソン郡の新エルサレムに、それぞれ神殿が建てられることになっています。(教義と聖約 84 : 4 ; 124 : 36 参照)

4. アダム・オンダイ・アーマンにおけるキリストの訪れ。大いなる恐るべき日に、キリストはみずからの主権を主張し、悪人に裁きを下すために来臨されますが、その日が来る前に、すなわちすべての人々にみ姿を現わされる前に、アダム・オンダイ・アーマンの谷で、あらゆる時代の忠実な聖徒の代表者たちとひそ

かに会合を持たれます。ここでは、アダムの時代から現代に至るまで、各時代の鍵と権能を持つ者が、それぞれの管理の職について報告します。そして、自分に託されていた鍵をアダムに返し、アダムはすべての鍵をキリストに返します。こうして、キリストが福千年の統治を開始される備えが整うのです。(教義と聖約 116 ; ダニエル 7 : 9-14, 21-22 参照)

5. ハルマゲドンの戦い。イスラエルが地上のあらゆる国々から集合して故国に戻り、旧エルサレムが主の神殿とともに再建されると、恐ろしい邪悪と破壊の時が訪れ、ついにはハルマゲドンの戦いが起こります。

義に満ちた状態が福千年の到来を告げるというのは、誤った推測です。そうではなく、全地に悪が満ちるのです。ふたりの予言者がエルサレムで殺され、その遺体は3日半の間大通りにさらされます。そののち、ふたりは神によって死からよみがえるでしょう。(黙示 11 : 8-11 参照)

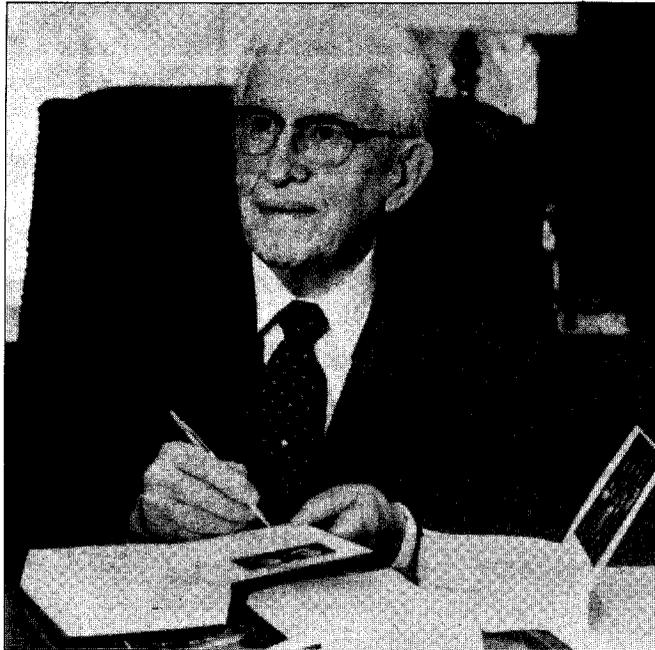
神の定められたところによれば、エルサレムの受ける苦難はその罪に相当するものであって、「町は取られ、家はかすめられ、女は犯されます。(ゼカリヤ 14 : 2) この破壊と略奪から逃れられるのは、義人だけでしょう。

こうした背景の中で、最後の大いなる戦い、すなわちハルマゲドンの戦いが起こります。宗教戦争が極に達するこの戦いでは、古代パレスチナの地エスドラエ

ロンの平原で、イスラエルの民とキリストの大義がゴグとマゴグの邪悪な力と戦うのです。ヨハネの黙示録第9章16節によれば、戦いは地のすべての民に及び、2億の人々を巻き込むことになります。この戦いの最中に、キリストが再びオリブ山に立たれ、聖なる山はふたつに裂けます。そしてキリストはご自身の民を救い、悪人に裁きを下されるのです。ゴグとマゴグの敗北は、イスラエルの敵の最終的な壊滅と、地上の国家や王国の終焉を告げるものです。その後間もなく、キリストは「王の王、主の主」として統治されるでしょう。(黙示 9 : 19 : 14-16 ; 教義と聖約 45 : 48 参照)

6. 天体の諸々のしるしと驚嘆すべきこと。キリストは、2,000年前のオリブ山で、末の日に再びイスラエルの上に降りかかる破壊について、弟子たちに語られました。そのあと、次のように約束しておられます。「これらの日のなやみの後、直ちに日は暗く月は光を放たず星は空より落ち天の力震動すべし。」(ジョセフ・スミス 1 : 33)

これが最後の大いなるしるしです。なぜなら、キリストご自身がこう約束されたからです。「そのとき『人の子』の兆天に現わるべし。そのとき地上の諸族みな嘆き、かつ能力と大いなる栄光とをもって天の雲に乗り来る『人の子』を見ん。」(ジョセフ・スミス 1 : 36)



ベンソン大管長、 証を記した モルモン経を寄贈

——モルモン経配布プログラムにより
改宗者が増加——

●証を記し、家族の写真を張った寄贈用のモルモン
経に署名するエズラ・タフト・ベンソン大管長

教 会員の証を記したモルモン経を手
にする毎月18,000人の求道者のう
ち、エズラ・タフト・ベンソン大管長とベ
ンソン姉妹の写真を目にする人々がいる。

ベンソン大管長は、家族で「毎月何十
冊にも及ぶモルモン経」に証を記し、家
族の写真を張っている。

ベンソン大管長は「チャーチニュース」
の中で次のように述べている。「モルモン
経は私たちの人生にとって最も大切な書
物であると思います。それには疑いはあ
りません。予言者ジョセフ・スミスは、
モルモン経はほかのどの本よりも私たち
をキリストに近づけることができ、どの
本よりも完全であり、また私たちの宗教
のかなめ石となる本であると語っていま
す。」

ベンソン大管長がモルモン経の表紙の
裏に記した証の中には、こうある。「モル
モン経はほかのどの本よりも私たちの家
族にとって影響力の大きい本です。」

モルモン経の目的について少し説明を
加えたあとで、ベンソン大管長の証はこ
う続く。「私たちは、聖書と似ているこの
モルモン経には神様の言葉が記してある
と証いたします。あなたがこの本を読み、
真実かどうか主に祈り求めるとき、主は
聖霊の力によってこの本が真実であるこ
とをあなたに示されると確信しています。」

ベンソン大管長は先日もご子息夫妻と

9人のお孫さんが準備した1ダース以上
のモルモン経を受け取った。

ベンソン家はほかの何千もの家族と共
に、証を記したモルモン経の配布に参加
してきた。伝道管理部のモルモン経配布
プログラム主任バージル・V・ピーター
ソン兄弟によると、過去3年間で教会員
の証と写真のあるモルモン経は、約50万
部が求道者の手に渡っていることになる。

教会員の証を記したモルモン経を受け
取った求道者がバプテスマを受ける割合
は、10人にひとりである。これは何も記
していないモルモン経を受け取った場合
の約10倍であり、ラテンアメリカの国々
では、実にこれが5人にひとりの割合と
なっている。

このようにして寄贈されたモルモン経
は、1週間ごとに約1,000冊ずつ宣教師訓
練センターに届けられる。また必要に応
じて伝道部長にも送られる。カナダ・バ
ンクーバー伝道部のラルフ・ブルマン伝
道部長は、大量のモルモン経を受け取
った伝道部長のひとりだ。

彼は教会本部に宛てた手紙の中でこ
う書いている。「皆様方が従事しておられ
るみ業は実にすばらしいものです。これま
でモルモン経を送ってくださったことに
心より感謝しています。私たちの伝道部
で受け取ったモルモン経の数は過去20カ
月間で12,000部から13,000部にも及んで

いるのです。」ブルマン伝道部長は、証を
記したモルモン経を使い始めてから、バ
プテスマの数が57パーセントも増加した、
と述べている。

モルモン経配布プログラムは1960年代
の初頭に開始された。その頃は直接家族
が伝道部へモルモン経を送っていたが、
後に教会本部がその業務を担当するよ
うになった。現在では教会本部の援助の下
に、各地域が主体となってプログラムを
進めている。

カリフォルニア・ベンチュラ伝道部で
は、宣教師の数に見合う十分な数のモル
モン経を伝道区域内の各ステーク部から
受け取っている。

伝道部に自分の証を書いたモルモン経
を送りたい兄弟姉妹は自分の所属するワ
ード部や支部の監督会、部長会または伝
道主任に連絡していただきたい。またこ
のプログラムについてさらに知りたい指
導者は、以下の住所へ問い合わせること
ができる。

Family-to-Family Book of Mormon
Program

Missionary Department
50 East North Temple,
Salt Lake City, UT 84150
U.S.A.

8,600人に達する アメリカ人以外の宣教師

現在多くの国々で、自国の民に伝道する専任宣教師が続々と召されている。

1985年には、アメリカ合衆国を除く68カ国において、8,600人以上の宣教師が伝道の業に召された。これは前年と比較して17パーセントの上昇率を示しており、さらに2年間さかのぼって前年との比を見てもその増加率はともに14パーセントとなっている。

また3月18日現在では、教会の宣教師総数は30,005人に及んでいる。

エズラ・タフト・ベンソン大管長は、「教会が今ほど宣教師を必要としている時期はこれまでにはありませんでした」と語り、この業の重要性を強調している。

伝道管理部の発表によると、出身国で伝道している宣教師のうち約6,000人は、出身のワード部や支部からの月々の援助のほかに、教会一般宣教師基金からの定期的な援助をも受けている。もしこの基金がなければ、多くの会員は伝道する機会を逸していたことであろう、と指導者たちは述べている。教会員はこの基金に、

地元のワード部や支部を通して献金をすることができる。

これらの地元の宣教師たちは教育を受ける機会や社会で成功する機会を先に延ばし、主に仕えたいという望みを抱き、喜んで犠牲を払っている。

たとえば、日本人の宣教師は比較的年長者が多く、分別もあり、社会での仕事の経験も豊かです、と日本大阪伝道部のメリル・L・プレロック伝道部長は語る。先に着任した宣教師の中には医師や公務員、ホテルチェーンの支配人などがある。彼らはみな約束された将来を先に延ばしているのだ。

さらにプレロック伝道部長は、日本人の宣教師は大部分が改宗者であり、伝道に出ることへの家族の強い反対にも負けなかった不動の証の持ち主であると語る。

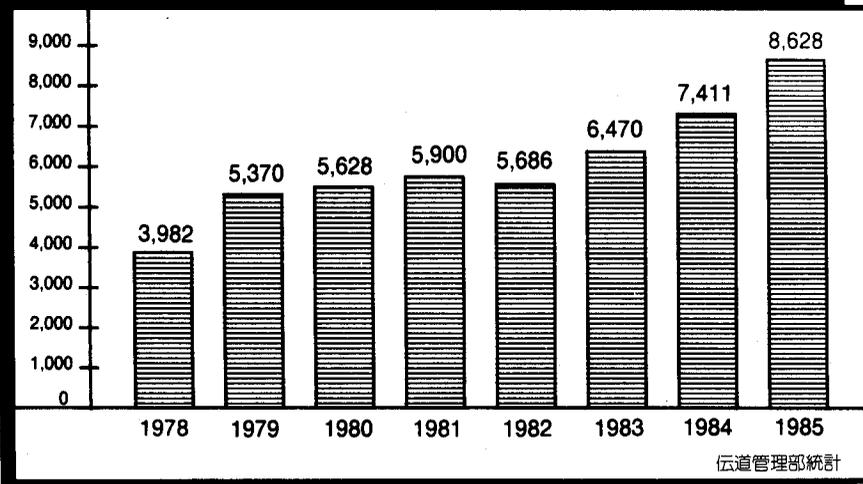
日本人の宣教師は、「召しを受けたとき

各国から召される宣教師の数（伝道管理部統計による）

| | | | | | |
|-------------------|--------|------------|-------|----------|---------------|
| アメリカ合衆国 | 20,637 | ペルー | 480 | タイ | 10 |
| カナダ | 649 | ウルグアイ | 75 | アフリカ | 83 |
| 中央アメリカ | 1,710 | ベネズエラ | 132 | ガーナ | 14 |
| バハマ | 2 | 南太平洋地域 | 1,027 | ナイジェリア | 22 |
| コスタリカ | 42 | アメリカ領サモア | 17 | 南アフリカ共和国 | 45 |
| ドミニカ共和国 | 76 | オーストラリア | 159 | ジンバブエ | 2 |
| エルサルバドル | 90 | フィジー | 18 | ヨーロッパ | 787 |
| グアテマラ | 222 | フランス領ポリネシア | 41 | オーストリア | 15 |
| ハイチ | 22 | キリバス | 41 | ベルギー | 5 |
| ホンジュラス | 61 | ミクロネシア | 19 | デンマーク | 37 |
| ジャマイカ | 8 | ニューカレドニア | 1 | フィンランド | 28 |
| メキシコ | 1,119 | ニュージーランド | 207 | フランス | 62 |
| ニカラガ | 9 | トンガ | 273 | アイスランド | 2 |
| パナマ | 42 | 西サモア | 251 | アイルランド | 15 |
| プエルトリコ | 13 | アジア | 1,273 | イタリア | 51 |
| セントビンセント・グレナディン諸島 | 1 | 香港 | 38 | オランダ | 25 |
| トリニダードトバゴ | 3 | インド | 11 | ノルウェー | 10 |
| 南アメリカ | 3,085 | インドネシア | 35 | ポルトガル | 50 |
| アルゼンチン | 319 | 日本 | 368 | スペイン | 84 |
| ボリビア | 108 | 韓国 | 167 | スウェーデン | 29 |
| ブラジル | 841 | マレーシア | 1 | スイス | 18 |
| チリ | 786 | フィリピン | 569 | イギリス | 277 |
| コロンビア | 153 | シンガポール | 13 | 西ドイツ | 79 |
| エクアドル | 152 | スリランカ | 4 | | |
| パラグアイ | 39 | 台湾 | 57 | 合計 | 1985年 29,251人 |

チャーチニュース

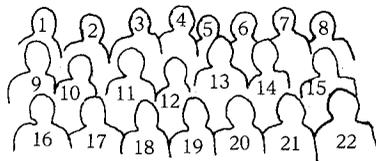
アメリカ人以外の宣教師数の増加 1978-85



から、強い責任感を持っています。外国人の宣教師は彼らから文化と言語を学び、反対に日本人の宣教師は福音についての観念や考え方、また日常生活への応用の仕方などを外国人の宣教師から教わります」とブレロック伝道部長は述べている。

伝道部長の多くは、宣教師の霊性は国によって変わることはないと言う。メキシコ・モンテレー伝道部のジョン・B・キーラー伝道部長は、伝道部内の130人のメキシコ人の宣教師と45人のアメリカ人の宣教師とでは、能力において差は認められないと述べている。「メキシコ人の宣教師もアメリカ人の宣教師も皆すばらしい指導者です。バプテスマの数にも差がありません。私は宣教師の任地について

3月に召された JMTC 第82期生 22名の名簿



S: スターキ部, D: 地方部
W: ワード部, B: 支部

| 〈名 前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 | 〈名 前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 |
|----------|------------|--------|-----------|------------|--------|
| 1. 福田 満 | 東京S/ひばりヶ丘W | 仙台伝道部 | 12. 新谷国彦 | 神戸S/姫路W | 東京北伝道部 |
| 2. 中沢 泰 | 東京東S/北千住B | 名古屋伝道部 | 13. 古川 靖 | 東京北S/中野W | 岡山伝道部 |
| 3. 茂木 強 | 横浜S/小杉B | 名古屋伝道部 | 14. 矢島勝彦 | 高崎S/前橋W | 大阪伝道部 |
| 4. 植田和好 | 東京東S/松戸W | 名古屋伝道部 | 15. 宮城 忠 | 沖縄那覇S/普天間W | 札幌伝道部 |
| 5. 杉山若倫 | 沖縄那覇S/普天間W | 大阪伝道部 | 16. 比嘉 勲 | 東京北S/中野W | 札幌伝道部 |
| 6. 松本行弘 | 東京東S/牛久W | 岡山伝道部 | 17. 三浦信一 | 横浜S/上大岡W | 札幌伝道部 |
| 7. 林 祐一 | 東京西S/国立W | 福岡伝道部 | 18. 松下志るか | 東京南S/大岡山W | 札幌伝道部 |
| 8. 上岡泰治 | 沖縄那覇S/那覇W | 仙台伝道部 | 19. 武田さやか | 東京東S/牛久W | 岡山伝道部 |
| 9. 安田直樹 | 名古屋西S/御器所W | 仙台伝道部 | 20. 広田真弓 | 長野D/長野B | 神戸伝道部 |
| 10. 大谷若史 | 大阪堺S/泉佐野B | 仙台伝道部 | 21. 尾川富子 | 福岡S/井尻W | 大阪伝道部 |
| 11. 船戸信二 | 名古屋S/名古屋南B | 東京南伝道部 | 22. 中西 学 | 熊本D/熊本北B | 大阪伝道部 |

各地のたより

計画するとき、国籍についてはまったく考慮していません。」

地元の宣教師は、外国から来た宣教師の言語を学ぶ手助けをするが、これはそれほど大切なことではない。キーラー伝道部長はこのように語っている。「優れた宣教師となるのに、その国の言葉を上手に話せるかどうかはあまり問題ではありません。言葉は単なる手段であり、それを習得すること自体が目的ではありません。聖霊によって教えることを学んだときこそ優れた宣教師となるのです。」

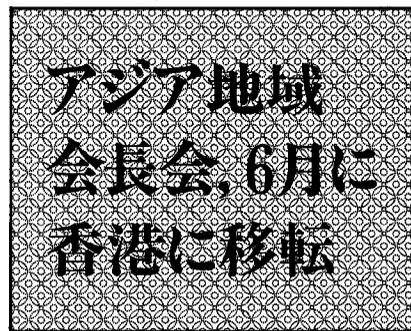
また帰還宣教師は教会の組織においても大きく貢献している。例を挙げると、カーロス・メリノ兄弟は、自分がかつて巡回宣教師として務めた地域内にあるモレロス・メキシコステーク部のステーク部長に召されている。

必要な宣教師の数を自国の会員だけで賄える国のひとつにトンガがある。アルバートのメディスンハット出身のハロル

ド・タッグ長老は、トンガ・ヌクアロハ伝道部内の396人の島民の宣教師と共に働く4人のアメリカ人の宣教師のひとりである。彼は1年間トンガの島で伝道し、ほとんど現地人のように言語や習慣を身につけている。「私はここで愛についてたくさんのことを学びました。この地の会員は時間や才能など、持っているものなら何でも主と分かち合っているのです。」

また地元の教会経営の高校で卒業式が行なわれる毎年12月には、宣教師の数が激増するという。

このように地元の宣教師の数の増加は多くの地域において起こっているが、ペルー・リマ北伝道部では特に顕著に見られ、過去3年間でその数が3倍にも増加している。福音を伝える宣教師の増加により、モルモン経の予言が着々と成就しています、とハーバード・A・ビター伝道部長は語っている。



昨年8月より東京に駐在し、アジア地域の管理にあたってきた地域会長会が、大管長会の決定により、香港に移転することになった。これは、事務局をアジア地域の中心に位置する香港に置くことにより、管理の効率化を図ることをおもな目的としたものである。会長会は5月末に東京を離れたのち、ホテル住まいをしながら各地でステーク部大会を管理し、6月20日頃、香港に到着の予定である。

ステーク部大会に657人が出席

—— 会員伝道の成果を
分かち合った大会 ——

札幌西ステーク部

●札幌西ステーク部センター



3月8、9の両日にわたって、札幌西ステーク部大会がステーク部センター（琴似ワード部と手稲ワード部共用）で開催されました。3月とは言え、北海道ではまだまだ春は遠く、9日の当日もみぞれ混じりの雪模様の日で、決して多くの参加者を望める天候ではありませんでした。

しかし、札幌西ステーク部長会では1カ月以上も前から、菊地敏^{びん}ステーク部長

の指導の下にひとりでも多くの求道者がこのステーク部大会に集えるように努力をしてきました。ステーク部神権役員会、監督評議会などでステーク部大会を会員伝道の成果を分かち合う大会として位置づけ、その具体的な方法について時間をかけて話し合いました。

その結果、マンズ伝道部長提唱によるCIPプログラム（サークル・オブ・インフルエンス・プログラム。近所、親戚、

職場、仕事上の付き合い、学校の5つの対象を毎月変えて会員伝道を進める5カ月間の集中リフェラルプログラム）を強力に進めると同時に、各ユニットで目標を決め、各会員がひとりの求道者をステーク部大会に招待するチャレンジが出され、そのための特別のチラシが札幌西ステーク部の会員に配付されました。

各ユニットの監督、支部長は、ステーク部部長会のチャレンジに応えるべく会員

各地のたより

に熱心にステーク部大会の意義を説き、伝道の大切さを話し、靈感によって効果的な方法を見いだしました。それはバスという交通手段を活用する方法でした。

北海道のステーク部、伝道部の該当地域は広く、遠隔地からの神権者は土曜の神権指導者会に出席するためにはどうしても札幌周辺に宿泊しなければなりません。函館からの兄弟姉妹は5時間以上、室蘭からは3時間近くのパス旅行が必要です。午前10時の大会に遅れないようにするためには、何時に起きなければならないのかご想像ください。また今回のステーク部大会には日本の最北端の町、稚内からも数人の兄弟姉妹が参加してくださいました。霊的導きを得るために彼らが払う大きな犠牲を思うと、本当に頭が下がります。

さて今回のステーク部大会の特徴はバスの活用にあるのですが、それは遠隔地からの会員、求道者ばかりではなく、札幌市内および近郊のワード部もバスを利用したことです。隣町の小樽ワード部からは2台のバスが会員、求道者を運び、ステーク部センターから車でほんの10分程度の距離にある新琴似ワード部からも30人乗りのマイクロバスで35人の高齢者と求道者を大会会場に運びました。

その結果、札幌西ステーク部が設立されて以来最高の657人が一般大会に集いました。その中で求道者は90人を数え、非常に霊的に盛りあがった大会になりました。

ユニットの変更

●長崎地方部（長崎支部、^{いさはや}諫早支部、佐世保支部）は3月9日付で熊本地方部に合併された。また鹿児島地方部の延岡支部は熊本地方部の管轄となった。これにより熊本地方部は従来の熊本支部、熊本北支部、大牟田支部、八代支部、大分支部に先の4つの支部が加わり、9ユニットになった。

●横浜ステーク部横浜中央支部は、4月6日付で横浜中央ワード部になった。

した。求道者はそれぞれ胸にピンクの花をつけてもらい、会場に入りました。壇上から見ると、外の悪天候にもかかわらず、会場は春の華やいだ雰囲気であふれていました。

急用で出席できなかったブラッドフォード長老の代理として、地区代表の相良健一長老の力強いお話に耳を傾け、伝道の意義を今一度確認しました。また、マンズ伝道部長のお話を聞いてCIPプログラムの有効性を再認識し、菊地ステーク

部長の愛情あふれるお話から伝道に向けての大きな自信と勇気が与えられました。また会社の同僚など4人を改宗へと導いた矢口枝子姉妹のすばらしい伝道の成功談を聞き、福音の人を変える力を感ずることができました。

10月のステーク部大会には、必ずひとりでも多くの求道者と共にこの場に集おうという決意を胸に秘めて、ステーク部センターを後にしました。（レポーター：札幌西ステーク部広報委員・宮町誠一）

横浜ステーク部独身成人による ミュージカル「サタデーズ・ウォリア」の公演



●川崎市立中原会館で行なわれた公演のフィナーレ

昨年の本誌5月号で大阪北ステーク部が「サタデーズ・ウォリア」を公演したことを紹介したが、去る4月5日、横浜ステーク部の独身成人のグループも同じ公演を行なった。これは2月22日に横浜ワード部で行なった公演の一般公開で、開場となった950名収容の川崎市立中原会館には、教会員のほかに大勢の求道者が宣教師と共に集った。

この公演を通じて教会員の間の証が強まったことは確かであるが、教会員以外の人々へもいろいろな形で光が投げられることとなった。公演実行委員長の小和田俊久兄弟はこう語っている。

「初演、再演を通じて何人かの教会員以外の方々の助けがありました。ドラムを担当された方は、私たちのために丸一日スタジオに詰めて録音をしてくださいました。また、照明の手配をしてくださった方、当日照明を担当された方々、中原会館の方々などなど、本当に心からの感謝を申し上げます。

伝道の業も着々と進んでいます。初演の翌日、キャストのひとりの求道者の姉妹はバプテスマを受けました。また再演の翌日、小杉支部に3人の新しい方が出席され、宣教師の訪問により別のひとりとレッスンの約束が取れたということだ

各地のたより

す。『サタデー・ウォリア』再演の結実はまだこれからです。再演によってまかれた種をひとつでも多く見いだし育てていくことが、本当の祝福につながっていくのです。このリフェラルプログラムは

きっと実を結んでいくことでしょう。私は初演、再演を通じて、主が命じたもうことには人が成し遂げるための方法が必ずあること（Iニーフアイ3：7）、1,000人を心から求めれば、700人を得る

ことができる（教義と聖約103：32-33参照）ことを改めて知ることができました。主は生きておられ、私たちの日々の生活を見守ってくださいますことを心から証いたします。」

●宣教師として多くの人材を輩出している教会経営のブリガム・ヤング大学が、去る4月5日付「朝日新聞」で紹介された

新聞からの話題

「青い目の人形」が取り持った国際交流の輪

名古屋ステークス部豊橋ワード部
松野 慶子

今からおよそ60年も前、昭和2年の早春、日本との親善を願い、アメリカの児童親善会から「世界の平和は子供から」と、12,735体の「青い目の人形」が全国各地の小学校や幼稚園に贈られました。人形は1体1体に名前がつけられ、パスポートや手紙が添えられた、アメリカの子供たちの真心の込められたものでした。日本の子供たちは、寝かせると目をつむり、起こすと「ママー」と声を出す、初めて見る「青い目の人形」に胸をワクワクさせました。そしてそのお礼に日本人形が贈られたのでした。私が初めてこの人形の出来事を知ったのは武田英子著「青い目の人形メリーちゃん」という、1冊の童話の本からです。子供に読んであげようと思い、図書館で借りた童話が私の心に波紋を投げかけたのです。

戦争をくぐり抜け、それぞれのドラマを持つ人形にどうしても会いたいと思い、現在保存されている近くの学校を探して見学に行きました。初めて見た人形は、髪の毛が抜け落ち、洋服の色があせていて、長い年月を感じました。とても今の子供たちに、夢を持たせてあげられそうにもない人形でした。それでも、つぶらな青い瞳の素朴な顔立ちの人形が、当時平和を願って贈られたものであることを考えると、胸の熱くなる思いがしました。

私がこの人形のことで夢中になっている頃、市内の西郷小学校で「青い目の人形」が発見されました。「コニータ」というその人形は保存状態が良好だったため、ほとんどが当時のままでした。校長先生は、歴史あるこの人形を何とか子供たちに夢を与えるものとして、教育の場に生かしたいと願っていました。私は少しでもお役に立ちたいという思いから、校長先生に宣教師を紹介しました。

それをきっかけとして、昨年9月に3人の宣教師が西郷小学校に



⑨

ユタ州民の抱国自慢は「外国に二年間、布教に行くことが最も高いのは、わが州」と、人々は胸を張る。その秘密はモルモン教にある。

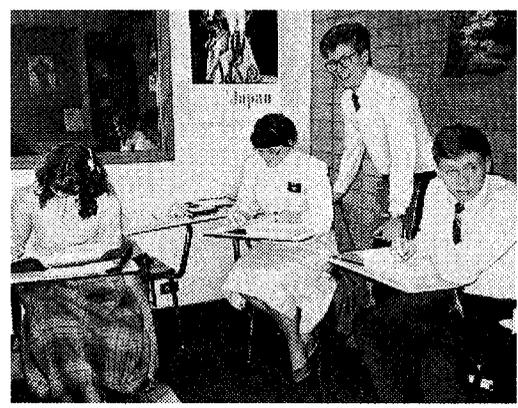
人材輸出大学

自費で布教、生の日本学

「私の息子は日本に行っていた。うちは台湾。息子に会ついでにアジア旅行して来た。そんな話をよく耳にする。日本へは、年に千人以上の青年が出かける。宗教学者ユタ最大の大学、教会のブリガム・ヤング大学で、自費で

ここで、英語は法度だ。BYU日本語コースに、七、九年前に書かれた「日本語と私」と題する日本語の作文が残っている。どうして日本語をのびのびと書けるのか。漢字に接しているからだ。夜十時まで、日本語を習い、実践的

布教してきた。大学では経営学、法律と日本語を学んでいる。ユタには職場がない。アジア・太平洋と縁の深い土地に出たい。海外就職が、山国青年の夢である。



宣教師の訓練センターで日本語を学ぶ青年たち。モルモン教は家庭主義。年長者を敬い、家族生活を大切にす。『固い人』との評価があり、加えての外国語能力だ。BYU出身者は、連邦捜査局(FBI)、中央情報局(CIA)など安全保障関係への進出が目立つ。カリフォルニアの日本関係企業に受け込んでいる。いくつかは科学博の米国館通訳は、三分の二の十人がわが大学の出身者だった」と、BYUは人材の宝庫ぶりを自負する。州政府は日本企業誘致に努めているが、人材輸出の方が先行している、とみた。(書木特派員、写真も)



報道部 052-541-7848

昭和の初め、米国の親善使節として日本の一万二千の小学校に贈られた「青い目の人形」。そのうちの一体が豊橋市立西郷小学校の野口校長、二百三と米・ユタ州の小学校の間で文通が始まった。この人形は、戦争中、ほとんどが焼かれ、現在、全国に約三百体が残っているだけ。西郷小学校長室には今も「コニータ」という名で、身長四十センチ、白と黒の髪、ス・キリスト教会に所属していることから、布教のために豊橋にいらる米人三人を、野口校長に紹介し、この人形が、帰国後、兄の子供の通うユタ州・「Wasatch」小と橋渡しをし、

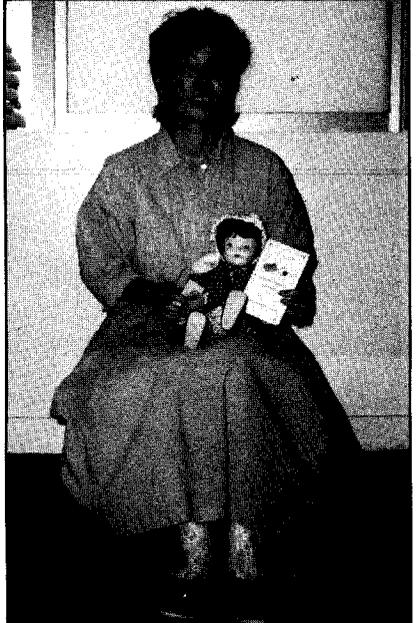
いまたまた親善大使

日米友好のかけ橋となつた青い目の人形



同年十一月中旬、同小から便りが届いた。「便は「私は青い目の茶色の髪をしています。マッシュポテトが好きです」「好きなスポーツはサッカー。犬と猫を飼っています」「素晴らしい日本語の本を持っています」など二十余題、続いて一月三十一日、第二便の「千教通」が届いた。

●(左上)「毎日新聞」61.2.4付
●(左下)「東愛知新聞」61.2.14付



●「青い目の人形コニータ」を手にする 松野慶子姉妹

招かれ、日米ミニ講演会が開かれました。アメリカの若い宣教師たちから聞くアメリカの子供たちの話に、子供たちは目を輝かせたようです。さらに同年、11月に帰国予定の宣教師に、西郷小学校からアメリカの小学校を紹介して下さるようにとの依頼がなされました。こうして帰国されたひとりの姉妹宣教師の橋渡しで、アメリカのユタ州の小学校と豊橋市の西郷小学校が姉妹校となり、子供たちには親善という大きな夢が与えられました。

日米親善大使として贈られた青い目の人形の一体が半世紀を生きて、今私たちの前によみがえり、新たな喜びを与えてくれました。国際交流の輪が広がられたことのみならず、伝道の一端ともなったことをうれしく思います。

西郷小学校の子供たちが外国の子供たちと姉妹校の関係を結んで国際交流を図ったように、私たちには福音を通じて、全世界の兄弟姉妹と神様の愛によって結ばれる機会がありますことに心より感謝します。福音という、大切な宝物を失うことのないように頑張っていきたいと願っています。(まつの・けいこ 1949年生まれ、豊橋ワード部初等協会会長)

豊橋のミニ二校西郷小学校

日本、中国、アメリカ3カ国の友好を結ぶ「国際親善の会」が、13日、豊橋市立西郷小学校(野口校長、児童数220人)で行われた。

三カ国親善の会

中国からアメリカから

親善の会は、昭和の初め、アメリカの親善大使として海を渡って日本にやってきました「青い目の人形」。その後、西郷小学校の橋渡しとなった米人宣教師の友人、愛知大学委員講師や校区の父母会が出席、三カ国間の交流会となった。

西郷小は、五十五から中国中央民族学院付属小姉妹校交流の年、年一回「国際交流の会」を開催するなど、国際交流を日々の教育に生かしている。今年度は、同校に戦前からの「青い目の人形・コニータ」の交流を語り、同校の新聞記事が縁になり、同校を訪れた日本在住の米目聖徒イエス

・キリスト教会所属の若い宣教師の紹介で、西郷小と米国小学校との姉妹交流が実現。十三日、昨年とほむらひとつて窓口を広げた「国際親善の会」とな

児童代表の歓迎あいさつにあつた野口校長が、「世界には多くの国があり、肌の色も違いますが、みんなとも仲良くする、これが国際交流の基本」と、子どもたちに親善の会の意味を語りかけた。

その後、豊橋在住の米人宣教師の紹介で、西郷小と米国小学校との姉妹校交流が実現。十三日、昨年とほむらひとつて窓口を広げた「国際親善の会」とな

児童代表の歓迎あいさつにあつた野口校長が、「世界には多くの国があり、肌の色も違いますが、みんなとも仲良くする、これが国際交流の基本」と、子どもたちに親善の会の意味を語りかけた。

その後、豊橋在住の米人宣教師の紹介で、西郷小と米国小学校との姉妹校交流が実現。十三日、昨年とほむらひとつて窓口を広げた「国際親善の会」とな



日・中・米3カ国の仲間たちが参加、ふれあいの国際親善となった豊橋市立西郷小学校で

六十一年間、愛らしきほほ笑みをたたえた「青い目の人形」コニーちゃんも、体育館に仲間入り。日本では百九十七体、県下では五体のみ現存するひとつとしてつづらな目を輝かせていた。

各地のたより

にすべての高校に無事合格できるまでを見守ったのが始まりで、その後も引き続いてたくさんの生徒が、我が家へ来てくれるようになりました。

登校拒否に陥った子、いじめによる人間不信の子、父親が自殺した子、母親が家出した子、再婚など家庭の問題を持つ子、そしてただ真理を見つけない子、元氣な子……と様々な生徒が集まってきました。「マイ・スクール」の子供たちがお互いに自分の持てるものを分かち合う様子が見られるようになった9月には、生徒数20名になり、場所も教会をお借りするようになっていました。年末には、28名を数え、また小学校4年生から高校3年生までと一緒に、夜7時から10時まで、「セミナー」と「勉強室」に出席するので、それはにぎやかで大変でした。それでもセミナーの1時間だけは、年齢にかかわらず全員が静かに真剣に聞いて、学び続けてくれました。

自宅でセミナークラスを始めたときも、教会へ場所を移したときも、私には内外に苦難が満ちていました。生徒一人一人の保護者に、「神学を学ぶ許可と理解」を頂きに歩くことや、主人がまだ教会員ではありませんでしたので、何かにつけ「妻としての欠陥」「生徒への宗教の押しつけ」などを非難され続けました。そのたびにすべてを主に頼り、主人のバプテスマの日を待ち望みました。

7月16日、全身全霊で祈り続けていると、「あなたの夫は必ず、10月にバプテスマを受ける」という静かな声ではありましたが、はっきりと力強いささやきが聞こえました。そのために苦難は多くあるが、祈り続けなさいとも教えられました。

9月、私と娘にバプテスマを授けてくださったザンデル長老が、主人の導き手として再び新居浜へ戻られました。帰国寸前のザンデル長老と帰郷寸前の熱田長老の宣教は、まさに仁愛そのものでした。私は聖霊の導きにより、10日間の断食を喜びをもって行ないました。その結果、10日目の9月28日、主人は禁煙をするようになり、続いて禁酒をし、10月27日、セミナーで学んでいた原ひとみさんと共に、私と娘が受けた種子川でバプテスマを受けました。このときの感動は、一生忘れられないでしょう。

主人のバプテスマを受けてからの変わりようには目を見張るものがあり、長老たちと組んでお休み会員を訪問したり、「マイ・スクール」のための母子家庭訪問プログラムやセミナークラスのために積極的に協力してくれるようになりました。さらに主人は日曜学校「会員伝道クラス」の教師に召されました。このような主人の助けを得たことから、セミナークラスの生徒で登校拒否で苦しんでいた高3の伊藤勝也君と、同じくセミナーの生徒の元木君子さんが、3月2日、やはり同じ川でバプテスマを受けました。さらにうれしいことに、主人の母が松山で、また私の母が西条で宣教師のレッスンを受け始めました。

1986年1月より新居浜のセミナークラスは人数が増え続けたため、3つのクラスに分かれ、我が家で教えることとなりました。20名すべて非教会員による構成で、中学1年生から高校2年生までが月曜、水曜の夜3時間と土曜の午後3時間、熱心に学んでいます。青葉支部長のご協力、讃美歌や新約聖書、大きな黒板も整えられ、全員休まず集っています。去年まで共に学んでいた小学生たちも15人に増えて、1カ月に1度、山や海へ集合し、主のことを学んでいます。3月21日に、セミナーの卒業式を行ないました。原姉妹は社会人に、また扶助協会「社会」の教師として責任を果たしています。伊藤兄弟は、高校に退学届けを自



●新居浜支部セミナークラスの父兄参観の日(一九八五年十月)。中列左から三番目が藤谷利恵子姉妹、前列左から三番目が娘さんの美月姉妹

分の意思で出し、来年大学受験のため独学に切り換え、そのかわら主人と共に会員伝道を始めました。その伊藤兄弟の上に主は恵みを増され、同じ大学を来年受験し直す、国立大2年の上田君を導いてくださいました。現在、木曜日、私と伊藤兄弟、上田兄弟の3人の「勉強室」が昼間行なわれ、その間に長老のレッスンが組み込まれています。また伊藤兄弟は、水曜日に行なわれている中学3年生10名からなる「セミナークラス」に参加して私を補佐してくれるだけでなく、「勉強室」の教師をもして私を助けてくれています。

すべて求道者である生徒たち一人一人と、愛を分かち合おうと努めるときに苦勞は並大抵のものではなく、霊の悲しみにより身体がガタガタになるところがあります。けれども、いつも神権者である夫と心やさしい娘に支えられ、共に主のために働き、心を尽くし、すべてを尽くして主に祈ることのできる日々を感謝しています。

セミナークラスの生徒はすべて私の兄弟、姉妹です。彼らは会うたびに成長しており、彼らの輝く瞳は何にも増して素晴らしいものであり、私はそれを愛し続けます。

「わたしは自分の行程を走り終え、主イエスから賜わった、神のめぐみの福音をあかしする任務を果し得さえしたら、このいのちは自分にとって、少しも惜しいとは思わない」(使徒20:24)と記したパウロの言葉は、私の胸に強く響き、同じ

各地のたより

気持ちを覚えます。

主に頼り、主に導かれながら、家庭を大切に、終わりまで歩み続けたいと思います。

セミナークラスの教師となった私を、

やさしく、また厳しく導いてくださった指導主事の林兄弟に心から感謝しています。(ふじたに・リエこ 1950年生まれ、新居浜支部セミナー教師)



●職業と信仰シリーズ③

「心に疑わな
信じるなら、
そのとおりに
成るであろう」

法務省東京法務局勤務
東京西ステーク部国立ワード部
保坂 三郎

昭和59年2月28日の夜、自宅の電話が鳴りました。局長からであることがわかると、一瞬、不安が胸をよぎりましたが、「君を今度、人権相談主任にする予定だ」とのお話には、私は「ありがとうございます。お受けします」と返事しました。その瞬間、長い間（正確には16年）待ちに待った職責に就けたのだという実感がわいてきました。神様に対する感謝の念でいっぱいでした。

昭和42年春、住宅産業の会社、中学校の教員、国家公務員の3とおりの選択肢の中から、「法務」という名称に引かれて東京法務局に入りました。

初めての仕事は、外国人が日本国籍を取得するための帰化許可申請事件の担当でした。申請者の身分関係、経歴、生計、素行などを調査し、法務大臣へ進達するのです。一個人の、そして家族の運命を左右することになる重要な仕事でした。それだけにこの職務経験は私に大きな望みを抱かせることになりました。キリストの愛と福音の原則をより直接仕事に生かしてみたいという思いからも、また自分自身の性格からも人権擁護事務を是非やってみたいと思うようになったのです。

次は訴訟事務の担当になりました。国を相手とする訴訟が起こると、国を代表

する法務大臣の代理（国の指定代理人）として訴訟を遂行するのです。これも判決によって行政に多大な影響を及ぼすことになるので、緊張しますが、やりがいのある仕事でした。

しかし、その仕事に就いてから3年が経過した頃、再び人権擁護事務をしたいと希望しました。翌年も、翌々年も続けて……。聖典に「イエスの名によりて何事にまれ欲するところを願え、さらば皆与えられ……」（教義と聖約50：29）とありますし、多くの方々の証に励まされ、私も祈りました。しかし、実現しませんでした。自宅の机に人権擁護事務に関する本を何冊も並べ、自習もしていました。直属の上司に相談すると、「つまらないことをしたがるな」と言われ、またほかの上司は、「いつだってできるではないか」「希望者が多くてね」という返事でした。

いつでもできると言われても、希望して10年もの歳月がたっていました。人権擁護部は部長以下18名の定員です。私と同格の者となると2、3名です。転勤者となると1名しかそのポストには就けません。そのむずかしさを考えると、焦燥感に駆られました。年によっては、人権部長にお願いしたり、職員課長（人事課

長）に熱意の程を説明したりもしましたが、効果はありませんでした。

そこで、焦る気持ちを整理して、すべてを主にゆだねることにしました。すると、気持ちがとても平安になりました。毎日の祈りでは、教会の指導者への祈りに加えて、職場の最高幹部、法務大臣以下各部局の自分にかかわる方々について祈りました。モルモン経の中でイノスが祈ったように、「誠心誠意」「一心不乱」に、そして「全身全霊」を傾けて祈りました。

それから3年後の昭和56年10月、ついに人権擁護事務担当の次席になりました。希望したときからすでに13年の歳月が流れていました。今まで蓄積してきたエネルギーと見識を適切に用い、一生懸命職務に励みました。

しかし、一度希望がかなえられると、今度は欲が出て、願わくば上司の相談主任になりたいと思うようになりました。このポストは東京で2名、ほかの道府県では各1名の配置ですから、900名の職員のうち、経験できる人は10年間で7名程度です。引き続き祈りました。出勤時間を15分早め、上司や同僚の机をふいたり、応接セットを掃除することもしました。生活を改善して一生懸命頑張りました。そしてついに、あの八王子局長からの電話を受けるに至ったのです。16年目に迎えた主の大いなる恵みでした。「心に疑わな
信じるなら、そのとおりに成るであろう」（マルコ11：23）との聖句は真実でした。

人権擁護事務の4大事項は「人権擁護委員に関すること」「自由人権思想の啓発」「人権侵犯事件の調査」「人権相談」です。いつもこれらの事柄に対処するとき、自分の能力以上の力を発揮できるのは主の助け、みたまの賜、聖霊の導きがある



各地のたより

からだを証します。人権の上相談者がときどき「いろいろな所で相談に乗ってもらったが、あなたは今までの方と違っている」と言われます。そんなとき、心の中で、末日聖徒として、また神権者としてキリストの愛を實踐できること、また「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわちわたしにしたのである」(マタイ25:40)との聖句を思い浮かべ、うれしくなります。

たとえば、次のような相談例がありました。

「道路の拡張と下水工事により補償金を市から受けたが、今日に至って再度補償してもらいたい」とのことでした。時効も成立し、ほかの一切の要求はしないとの念書も提出してあるということで、市が相手にしてくれないのも当然と思えました。一度は無理な話と答えましたが、事情をよく聞いてみると、市の側にも落ち度があり、補償が完璧でないようでしたので、私も考え直し、要求が応えられる可能な根拠と交渉方法を教えました。その結果、市の対応も変わり、幹部が会ってくれて、その後、市議会の決議によって希望額を払ってもらったというものです。

また、ある女性からこのような相談を受けたこともあり、「夫の母が再婚し、私たち夫婦もその家の養子となりました。ところがある事情から母が離縁することになり、また私たち夫婦も夫の女性問題から離婚が確定しました。でも私は名字の社会的信用もあって、養子先の姓をそのまま名乗りたいのです」というものでした。法律の規定からはそのようなことは無理であり、裁判も認めないケースが目立ちます。しかし私は、相談者の希望を實現してあげたいとの気持ちが強くあって、九分九厘不可能でも、残りの可能性に賭けようと思いました。そして、その根拠と必要性を筋道を立てて説明し、心のやさしい裁判官が担当するように祈りました。裁判のとき、裁判官は法務局の人は何と言っていたかと聞かれたそうです。審判の結果、相談者の希望どおりになりました。

そのほかにも奇跡に近い解決をみた例

は数え切れません。そのようなとき、「神の栄光は英智なり」(教義と聖約93:36)の聖句を強く感じます。また、人権擁護委員は、各市町村から人格識見が高い方が推薦され、法務大臣が委嘱します。法務局、市長、委員の3者の都合が一致した日時に交付式を行ないます。そんなとき、局長は「お前と行く市町村はばかに待遇がいいなあ」と感想を述べられました。市町村の職員のご苦勞はもとよりですが、神様の見守りを祈願していることにも起因しているのではないかと思います。

す。

1年前に恵まれて、東京神殿のテンブルワーカーに召されました。勤務先から神殿まで2時間かかりました。神殿に近い勤務先になるように、しかしみ旨のままになるようにと祈りました。すると神殿へわずか25分で行ける現在の勤務先へ転勤することができました。神様は、祈れば、祈るほど、私たちを一層愛してくださることを証します。(ほさか・さぶろう 1943年生まれ、国立ワード部大祭司グループリーダー)



改宗して29年の歩み

「神様は生きていらっしゃるの
ですか。私もそれが信じられたら
うれしいと思います」

東京神殿宣教師

森田 マツ

私がこの教会を知ったのは、今から30年以上も前のことです。当時、私は主人と小学生の男の子ふたりの4人家族で岡山に住んでいました。

ある日、ひとりの外人さんが我が家を訪れ、1枚のチラシを差し出し、「神様は生きていらっしゃいます」と言われました。それまで私はキリスト教について全然知識はなく、神様と言えば、日本古来の神社のことを考えていました。あのやしろの中には何もないのだと思っていましたので「ああそうですか。神様は生きていらっしゃるのですか。私もそれが信じられたらうれしいと思います」と言ったのを今でも覚えています。夜、主人が帰ってからその話をしますと、「それは悪いことではないから話を聞いたらいいだろう」と言ってくれました。

その2、3日後、今度はふたりのアメリカ人が私の家を訪問され、そのときは座敷へ上がって話していかれました。こ

れが初めての家庭集会でした。それからずっと週1回、教えに来ていただきました。そして勧められるままに、日曜学校にも行くようになりました。

当時の岡山支部は、会員はひとりもいないので、ふたりの宣教師が民家の2階の8畳と3畳のふた間を借りて日曜学校を開いていました。集まる求道者は、私のほかふたりか3人で、ある日曜日には女子中学生と私のふたりきりのときもありました。教会で知り合った奥さんとその娘さんが、偶然私の家の近くの方だということもわかりました。

私はその頃、まだこの教会が真実かどうか信じられませんでしたけれど、宣教師が、自費で3年間も献身的に熱心に働かれる姿を見て、本当に感動しました。この長老たちのためにも、教会へ行かなければ申し訳ないと思ったものです。

当時は聖典と言え、旧新約聖書しかありませんでした。モルモン経は宣教師

各地のたより

だけに与えられていましたし、教義と聖約の日本語版はまだ出ていませんでした。ですから私は宣教師からモルモン経をお借りして、一生懸命読みました。日曜学校は宣教師の方が教えてくださったのですが、教義と聖約についての話になると、早くその本が出ればいいなと思ったものです。

その頃、主人は支店勤務で忙しく、日曜日でもいつも家にいなかったの、私が教会へ行くには都合が良かったのです。ですから1日も休まず日曜学校へ出席していました。また知恵の言葉も守り、献金もするようになりました。近くの奥さんも、私と同じような立場でしたので、ふたりいつも一緒でしたし、求道者の方も次第が増えてきて、教会が楽しくなりました。

私が教会に行き始めて、2年以上たった年の1月に、岡山支部で初めてのバプテスマ会がありました。転々と間借り生活をしている岡山支部に、バプテスマフォントがあるはずもなく、前もって長老たちが探しておかれた場所に10人くらいの人たちで出かけました。そこは岡山市内を流れる旭川の上流で、岡山駅から因備線で4つ目の駅を降りて、歩いて10分くらいの所でした。それは周囲からは見えない、清流の美しい場所でした。真冬の凍るような冷たい水の中から、ふたりの若い姉妹が誕生しました。

そのあと、2月に3人がバプテスマを受け、3月には教会への出席日数が一番多かった私がやっと主人の許可をもらうことができ、近所の親しい奥さんと一緒にバプテスマを受けました。求道者生活実に2年8カ月を経た、1957年3月16日が、私の生涯で記念すべき日となりました。

楽しかった岡山での生活も終わるときが来ました。主人が東京本社へ転勤となったのでした。バプテスマを受けた翌年の8月に、家族と共に別れがたい兄弟姉妹を後に、東京へ戻って来ました。岡山を去るとき、私が集うことになる東京西支部の所在地を教えられて来ました。

東京へ移ってから、日曜日に西支部へ出席すべく家を出ました。当時の西支部

は、吉祥寺駅から歩いて10分くらいの所にある小さな民家の借家でした。やっとその家を探しあてましたが、知らない人ばかりで、本当にいやだと思いました。

しかし、いくらいやだと思っても、家へ帰ってから教会がいやだなどと言えないのがひとり会員のつらいところです。いやだなどと言おうものなら、待ってましたとばかり「そんなにいやなら、やめてしまえ」と言われるのがわかっていたからです。そのうえ都合の悪いことに、本社勤務になった主人は、休日はほとんど家にいるのです。教会に行くにしても、主人を残して家を出るのは、悪いような気もしました。それでも私は岡山での習慣がついていたので、教会通いが続けられたのです。もし岡山に行く機会がなく、ずっと東京に住んでいたとしたら、たとえ宣教師の方が私の家へ来てくださったとしても、改宗はできなかったかもしれません。西支部がいかにもいやでも、また家を空けるのが大変でも、私はどうしても教会を離れることができませんでした。そのときはもう、この教会が真実であり、イエス・キリストのみ名以外に、救いの道がないと固く信じていたからです。

教会へ行っても、聖餐会が終わると、主人への配慮からさっさと家へ帰ってしまうので、親しい人ができるわけもなく、いやだいやだと思いつつも休まず教会へ出席していました。こんなことを申しますと、主人がいかにも悪い人のように聞こえるかも知れませんが、非教会員のご主人を持つ姉妹たちが教会に来なくなるのを見るにつれ、日曜日に教会へ行くことを許してくれた主人に感謝しなければいけないと思っています。当時はまだホームティーチャーも、家庭訪問教師もいなかった頃のことでした。それでも日を重ねるうちに親しい姉妹たちもできて、いつの間にか西支部も楽しいところとなりました。教会の責任は、家で準備のできる日曜学校の教師を長いことさせていただいていました。私はいつも準備のため朝早く起きて勉強していました。

ふたりの子供たちもだんだん成長して大学生と高校生になっていました。その頃の私たち夫婦の日常のあり方をどのよ

うに思っていたのでしょうか。次男は無視したような態度でしたが、長男はかなり理屈をこねたりして批判的であったように思います。

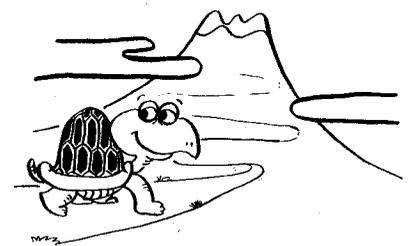
その長男が私が改宗してから15年たった頃、バプテスマを受けました。そしておよそ1年後、帰還宣教師の姉妹と結婚しました。後日、嫁であるその姉妹が、息子の話として私に話してくれました。

「モルモン教会の母親の子である自分は決して悪いことだけはすまいと思っていた」と。教会へ行っていなかった頃でもそんなに思っていてくれたのかと思うと、私はうれしい気持ちでいっぱいになりました。

話は前後しますが、息子が教会へ入る以前、1970年に教会でソルトレーク神殿訪問がありました。私も参加させていただき、死者のバプテスマを受けさせていただきました。

帰ってから日本にも神殿ができると聞いたとき、私はエンダウメントは受けられないけれど、献金だけはさせていこうと決心しました。主人に頼めば少しは出してくれるかも知れませんが、福音を知らない者にとっては無意味に等しいものです。私はたくさん献金をしたいと思ってましたので、家族に迷惑をかけない約束で、週のうち3日、これは2年ほど続いたでしょうか、10時から4時まで生まれて初めてお手伝いさんをすることにしました。こうして蓄えたお金と母の遺産とで証券へ投資いたしました。幸いにして、何年か後にはかなり殖えて、神殿献金のときはまとまった額を出すことができましたのです。その後ステークセンターの献堂のときも苦もなく、自分のお金を献金することができて晴れ晴れとした気持ちになりました。

どうしてそのような気分になれたので



各地のたより

しょうか。それは献金の額の多少は二の次にして、神様のみ旨に添うべく自分自身で決意し、計画を練り、努力を重ねた結果、その目的を達成することができたからだと思っています。

その後本当に不思議なことがあって、主人の改宗のきっかけをつくることのできたのです。やがて待ちに待った日が訪れました。私の改宗から24年後の1981年6月13日、ついに主人がバプテスマを受けるに至ったのです。

今振り返ってみますと、主人の東京から岡山への転勤、私の改宗、そして信仰がある程度強められてから東京へ戻ったこと、長男の改宗、その後長い間の悲願だった主人の改宗と、みな神様のお導きであったと私は信じています。

末日聖徒の家庭になって本当に幸せです。私たちには希望があり、苦楽を共にしながら生きる喜びがあります。

今は神殿宣教師に召され、共に毎日懸命に頑張っています。家を出るときはいつも謙遜になることができるように、人々に愛を持つことができるように、きょうも精いっぱい働けるように、と神様にお祈りをしています。

この6月末には、18カ月の神殿宣教師としての任期も終わります。主との誓約をわずかでも果たせることを感謝しています。これからも、この細くて長い道を鉄の棒をしっかりと握りしめて歩いていきたいと思っています。(もりた・まつ 1922年生まれ、東京ステーキ部吉祥寺ワード部出身)

れた3階建ての教会堂が竣工しゅんこうしました。それが私たちの集う八王子ワード部です。

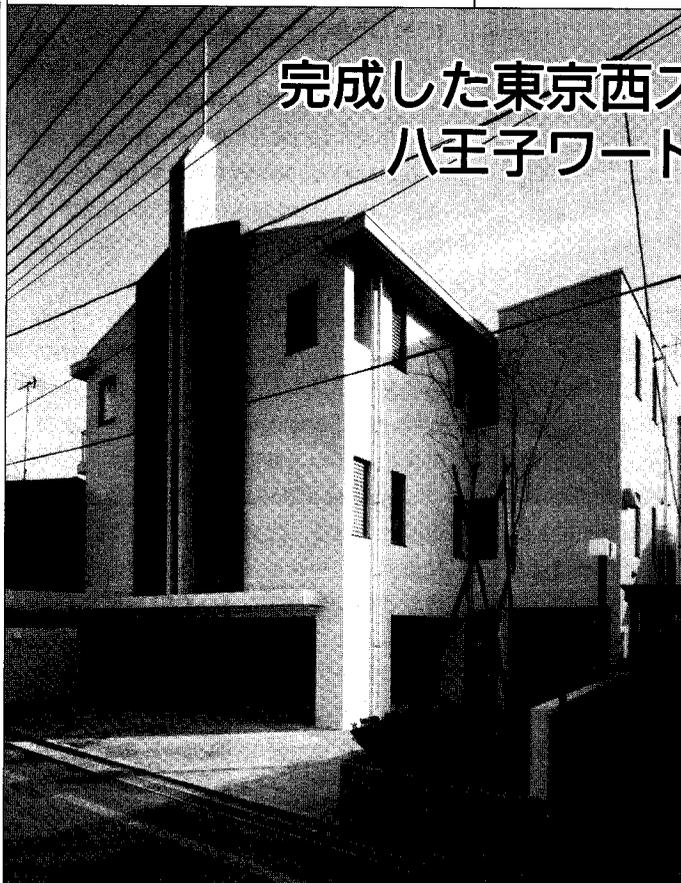
市街地という立地条件もあって、敷地はそれほど広くはありませんが、私たち八王子の教会員にとってはこのうえない主の恵みであり、まことに感慨深いものがあります。思えば、東京第3ワード部の付属支部として、岸野支部長のもとに組織されたのが1971年、当時教会員は宣教師を含めても30人足らずでした。8人の神権者がいて、八王子の地名にふさわしいと言われたのもこの頃の話です。

現在130人ほどの兄弟姉妹が集うワード部に成長しましたが、その間児島監督、小俣監督、塚田監督などの指導者や、彼らのもとにあって働いたたくさんの兄弟姉妹の信仰の賜がここに結実したものにほかなりません。これまで使用した3カ所の集会所はいずれも借家で、私たちの最大の望みは早く自分たちの教会堂で集会をすることでした。しかしながらその道程は遠く、建築資金の面でも物件の面でも私たちは長らくそれを得るに至りませんでした。監督の指示でワード部の全員が教会堂を祈り求めたことも、今は懐かしい思い出です。

念願かなって昨年6月1日に**くわい** 鉄入れ式を行ない、約8カ月の工期を経て完成に至る間、私たちはこの新しい皮袋に入るにふさわしい新しいぶどう酒になろうと、自分自身の信仰を見つめ直しました。今年度のワード部の目標も「新たな恵み、新たな進歩」と定め、主の賜わった新たな恵みに応える新たな進歩を誓い合いました。この目標を一人一人が自分なりに達成し得たときに、この建物は人々で満ちあふれるに違いないと確信しています。

2月1日の献堂式で宮脇荘司ステーキ部長の祈りによって奉獻されたこの教会堂は、イエス・キリストのものであり、キリストの弟子である私たちはもっともっと福音を宣べ伝えるために力を振るう必要があると感じています。これまで八王子ワード部にいろいろな形でかかわられた、宣教師をはじめとするたくさんの兄弟姉妹一人一人に、この喜びと感謝の気持ち、また決意とお伝えできたらと思います。(八王子ワード部監督・島中耕三)

完成した東京西ステーキ部 八王子ワード部教会堂



敷地面積：357.39㎡
建築面積：230.98㎡
延床面積：676.12㎡

東京の最西端に位置し、市内に20近い大学が点在する学園都市八王子は、多摩川の流れと多摩丘陵に囲まれ、西には秋の紅葉が美しい高尾山を望む風光明媚な地です。また、昔から絹織物の

産地として栄えてきたところから、桑都とも言われる歴史ある町で、現在人口約42万人という多摩地区随一の都市でもあります。その八王子市の中心に位置する国鉄八王子駅にほど近いところに、しゃ

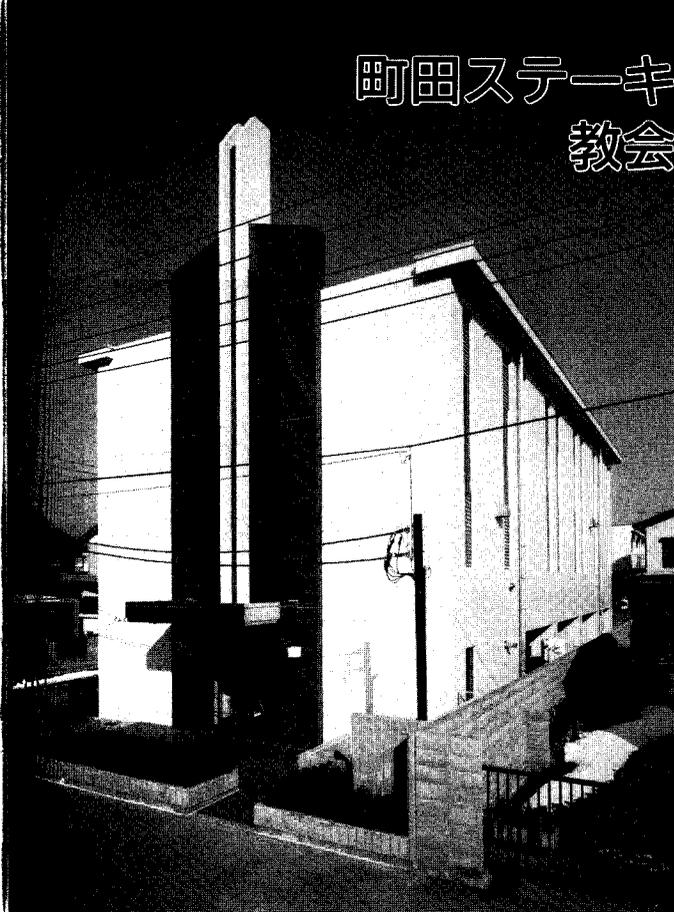
各地のたより



畠中耕三監督

●八王子ワード部所在地：〒192 東京都八王子小安町1-25-12
TEL. 0426(45)4600

町田ステーキ部厚木支部 教会堂献堂さる



敷地面積：396.89㎡
建築面積：211.49㎡
延床面積：623.68㎡

ました。そして多くの宣教師、指導者、会員の方々の努力もあって、それから1年後に独立支部となりました。借りたビルの2階を仕切って活動を行なってきましたが、すぐに手狭となり、私たちは一日千秋の思いで新しい教会堂の完成を待ち望んできました。

この地域は、神奈川県中央部に位置し、交通の便も良く、環境にも恵まれています。住宅街、商業地、工業地、教育の町としてもこれからの発展が期待されている所です。

厚木支部の特色としては、目を見張る若人の活力があげられます。これまで町田ステーキ部独身成人活動の中心的存在として、活躍してきました。また教会員同士の連帯感が強く、特に既婚者(家族)と独身成人の間では演劇の公演を行なうと言えば、若人のために激励会を行ない、ダンス・パーティーを開催すると言えば、雨の中でもそっと様子を見に行き、サマー・キャンプに行くときには暑い中、子供を連れて見送りに行くといった具合です。

そのような中で今、宣教師が次々に召されています。聖歌隊の練習も3年半続き、今後の成長が楽しみです。会員たちは和気あいあい、皆心を合わせて神の王国建設のため、全力を尽くしたいと燃えています。(厚木支部長・増田節雄)

去る2月23日(日)、森村ステーキ部長管理の下に厚木支部の教会堂献堂式が執り行なわれました。

イエス・キリストの福音を宣べ伝え、活動できる拠点をこんなにも早く頂け、

喜びに堪えません。主に感謝したいと思っています。

今から約6年前、宣教師のアパートに厚木伝道所が開設されてからこれまで、数えきれないほどの主の恵みを頂いてき

各地のたより



増田節雄支部長

●厚木支部所在地：
〒243-04 神奈川県
海老名市河原口543-4
TEL.0462(32)4240



編集室から

《原稿を募集しています》

▶各地のたよりの原稿を常時募集しています。改宗談や日々の信仰生活で得た証(仕事にかかわる証など)、本誌を読まれての感想文(「読者のひろば」)やカットなどをお送りください。また、北は北海道から南は沖縄までの幅広い話題を取りあげたく思いますので、広報ディレクターあるいは各種催し物を担当する高等評議員/地方部評議員の方はレポーターを手配して下さるようお願いいたします。

▷最近の社会面を見ると、毎日のように青少年のいじめや自殺など教育面や家庭面での様々な問題が取りあげられています。本誌「各地のたより」8-11ページで掲載した新居浜支部の藤谷利恵子姉妹はこれらの問題と真正面から取り組み、話題となっています。連載にあたり、皆様のご意見、ご感想、体験談などを是非お送りください。お待ちしております。

▶8月号掲載分の締切は6月10日(必着)です。投稿には必ず連絡先(電話番号)と教会での責任(役職名)、生年月日を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しすることがあります。

▶あて先：〒106東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎03(444)5264

渋谷ブックセンターから

「メルケゼデク神権定員会」

フィルムストリップとカセットテープ

新発売 16分 2,000円 スtockナンバー：
VVOF3492JA

定員会を良くしたいと願う会長が、定員会会員の必要が満たされていないことに気づき、事態の改善に乗り出す。そして、奉仕活動、真の兄弟愛などを通じて効果的な定員会集會を持つまでになる。

これは家庭での責任や神権者としての責任が果たせるように兄弟たちを訓練し、援助するものである。



「女性の大会」ビデオカセット 新発売 105分 3,000円 スtockナンバー： VNVV0237JA

(「われに近づけ、さらばわれ汝らに近づかん」(教義と聖約88:63))

1985年9月28日に行なわれた「女性の大会」を収録したもの。5人の話者による説教(J・トーマス・ファイアンズ長老、ドゥワン・J・ヤング姉妹、アーデス・G・カップ姉妹、バーバラ・W・ウインダー姉妹、ゴードン・B・ヒンクレイ副管長。「聖徒の道」1986年1月号、pp.85-96に掲載)と、難民に対する福祉宣教師、初等協会の女の子、チアリーダの若い女性、若い母親、セミナー教師の5人による挿話が収められている。

◎重版のお知らせ

売り切れのためにご迷惑をおかけしていましたが「扶助協会テキスト」と「聖餐会での子供の発表」の重版ができました。



愛し合え

敬虔に ♩ = 46-56

二重唱

わ れ が な れ を あ い せ し ご と く

なん じ ら も み な あ い し あ え

あ い し あ え ば ひ と は み て

わ が で し と し る て あ ろ う

愛し合え

われが汝れを
汝らも皆

愛せしごとく
愛し合え

愛し合えば
わが弟子と

人は見て
知るであらう

ヨハネ 13 : 34-35

Iヨハネ 4 : 11

作詞・作曲：ラシーヌ・クラーク・フォックス(1914—)

©1961 ラシーヌ・クラーク・フォックス

トロイの友達

シルビア・H・グリーンハルシュ

監督に承諾の意志は伝えたものの、私は初等協会会長という大役をどう果たしたらいいのか迷いながら、監督室から出てきました。私はこれまで、主の助けがあればどんな責任でも果たせると教えられてきました。しかし、今度の新しい責任は、私の上に重くのしかかってくるように感じられました。

最初の仕事は、監督に副会長を推薦することでした。夫の育った土地に住んでいるとは言え、移って間もないワード部なので、知っている人はあまりいません。監督からは、断食と祈りによって決めなさいと言われました。私はこの原則を実行してみて、それが確かなものであることを知って驚きました。その週のうちに、ふたりの名前が浮かんできたのです。そして、この特別なふたりの姉妹が副会長になったのですが、時間がたつにつれて、私はそこに確かに主の導きがあったと確信しました。

私たち会長会は、みたまの助けを受けて書記を選びました。その姉妹は、5人の子供を持つ信頼のおけるやさしい母親で、教会ではいつも献身的な働きをしてきました。彼女なら毎週必ず責任を果たしてくれるに違いありません。

会長会に与えられた最初のチャレンジは、子供たちと教師を一人一人よく知るということでした。中でも私たちの注意を引いたのは、たったひとりのクラスに出席している10歳の少年でした。名前はトロイと言います。教師が次々と変わるうちに、トロイは教会へあまり来なくなり、初等協会を休みがちになりました。

クラスの教師をしてきた人たちは、ときどき次のように言いました。「たったひとりの子供のために、どうしてレッスンを準備しなければならないのかしら。欠席する方が多いっていうのに。まったく時間の無駄だわ。」

生徒の多いクラスで学べるように、トロイを上か下のクラスに移してはどうかという提案が出されました。早速両方とも試してみました。しかし間もなくすると、トロイは初等協会に全然来なくなってしまったのです。敗北感を味わった会長会は、共に断食して、トロイを助ける方法について祈ることにしました。

私はまたもや、この原則の力に驚かされました。書記の責任をだれかが代わって果たすことなどとてもできない状態なのに、会長会が顔を合わせたとき、3人の思いは書記の姉妹に向けられていたのです。

その姉妹はジャッキーという名前で、話してみると、教師養成基礎コースを修了したばかりでした。私たちは監督に名前を提出し、「トロイを助ける人として主が望んでおられるのは、ジャッキーだと思います」と伝えました。ジャッキーはそのクラスにひとりしか生徒がいなくて、しかも休みがちであることを知っていました。またほかの教師から、その少年の扱いがいかにむずかしく、ひとりに教えるのがいかにつまらないかも聞いていました。にもかかわらず、教師の責任を引き受けてくれました。ジャッキーは積極的な態度で、しかも人から嫌われても仕方ないような少年に心からの愛を感じて、

引き受けてくれたのです。

私はトロイに、新しくすばらしい先生が召されたことを伝えました。しかし、トロイは信じなかったのか、その週も翌週も初等協会に来ませんでした。

何週かたつと、トロイは自分ひとりを教える先生が本当にいるのか確かめるかのように、ときどき姿を見せ始めました。ジャッキーはいつも待っていました。また、何度もトロイの家を訪ねては、教会に来るように誘いました。

ジャッキーは、どうしたらトロイと心を通じ合うことができるか知るために、たびたび祈りました。そしてある晩、寝る前にトロイのことを考えていると、「友達になりなさい」という強い気持ちを中心に感じたのです。

この10歳の少年は、教師から愛されながら徐々に初等協会に戻って来ました。トロイとその友達であるジャッキーの間には、何か特別なつながりがあるように見えました。ジャッキーは効果的な方法で通常のレッスンを教え、スカウトプログラムを利用して、楽しくて興味深い活動をたくさん用意しました。こうして、子供の価値を十分に認識した献身的な教師によって、貴重なレッスンの時間が生かされていったのです。トロイが欠かさず出席するようになったのは、それから間もなくのことでした。

ジャッキーは、トロイが初等協会を卒業するまで、ずっと専任の教師を務めました。そしてトロイは、だれからも立派な兄弟として見られるようになりました。ひとりの特別な教師の努力がなかったら、



トロイは、
自分ひとりを
教える先生が
本当にいるのか
確かめる
かのように、
ときどき姿を
見せ始めました。

こうはならなかったでしょう。しかし、
そのことを知っている人はほとんどいま
ませんでした。

初等協会を卒業して間もなく、トロイ
は伝染病にかかり、容態が悪化したため、
ユタ州のソルトレーク・シティにある初
等協会小児病院に入院しました。いくら
か快方に向かうまでに、何週間もかかり
ました。その間、トロイは看護婦や周り
の患者に福音を教えました。それを見て
皆がどんなに驚いたか、母親はよく覚え
ています。トロイは臆することなく周り
の人々に、宗教や信仰について尋ねまし
た。そして、両親の話によれば、初等協
会の教師や家族から学んだ基本原則を教

えたのです。

しかし、病気はよくなりませんでした。
私たちはトロイの死を知らされて深い悲
しみに包まれました。まだ13歳の若さで
す。この知らせに、ワード部の会員も地
域の人々も胸を痛めました。中でも、ト
ロイに多くの夢と希望を託していた家族
の悲しみは、たとえようのないものでした。

葬儀の用意をしていた両親は、トロイ
と特に親しかった人に、生前の話をして
もらうことにしました。頼まれたのは、
あの初等協会の教師でした。当日の話を

聞いた人は、トロイに対する彼女の深い
愛を感じることができました。私たちも、
トロイがジャッキーに心を開いていった
理由がよくわかりました。

あれから何年もたちましたが、この経
験は忘れられません。ひとりの人の値は、
天父の前に大いなるものです。これが、
トロイとジャッキーのことがあってから、
いつも心に感じている私の証です。

*シルビア・H・グリーンハルシュ：4
児の母、アイダホ州パーカーワード部扶
助協会社会教師

「聖書で十分じゃないですか」

A・エドワード・カールソン・ジュニア

日常生活の中には、人に福音を伝える機会がたくさんあります。私はこの6年間、洋上で石油を採掘する機械の電気技師として世界中の海底油田で働いてきました。しかし、1カ月働くと1カ月休みという変則勤務のため、対人関係はその場限りになりがちでした。仲間の乗組員と再び顔を合わせる事がないので、友人をつくるには、よほど努力をしなければならぬのです。

ある石油会社の依頼を受けて、英国のグレートヤーマスの沖合の北海で働いていたとき、すばらしい友人ができました。その人は、英国のノーリッジ出身のクレーン操縦士で、名前をジェームズ・マクドナルドといました。

ある日、昼食を取ろうと食堂へ入って行くと、ジェームズがテーブルで頭を垂れて食事を祝福しているのが目に留まりました。採掘現場の殺伐とした雰囲気の中で堂々と信仰を表わす人を見て、私は少なからず驚きました。そこには、天父と交わりたいと心から望み、多くの恵みに感謝している人の姿があったのです。その日から、私はジェームズに福音を伝えることができたかと願うようになりました。

ジェームズと気心が知れるようになると、多くの時間を使って様々な教義について話し合い、それらを救い主の教えと照らし合わせてみました。ジェームズの聖書に関する知識はすばらしいものでした。やがて4週間の仕事が終わりに近づくと、どちらもせかさされるような気持ちになりました。私は別れる前に、これまで話したことが真実であるという確信を得てほしいと思いました。

しかし、ひとつの問題がありました。ジェームズは、モルモン経が本当に必要であるとは感じていなかったのです。モルモン経を読んで、すばらしい本だと言ってくれましたが、さらにこう言うのです。「聖書で十分じゃないですか。これ以上聖書は必要ありませんよ。聖書には、イエスの教えが記されているんですから。」

そこで、私はジェームズに断食と祈りの原則を説明して言いました。「明日断食してみないか。そして、答えを受けたと感じるまで、心の中の疑問についてよく考え、祈ってみるんだ。」

次の日の夜、ジェームズは自分の部屋に戻るとひざまずいて、モルモン経が必要なかどうか天父に尋ねました。そして、祈りのあとでモルモン経から答えを見つけられるように願いました。もしモルモン経が真実で、不可欠な聖典であるなら、そこに答えがあるはずだと思ったからです。

ジェームズは祈りを終えるとモルモン経を開き、ある聖句に目を留めました。そこにはこう書かれていました。

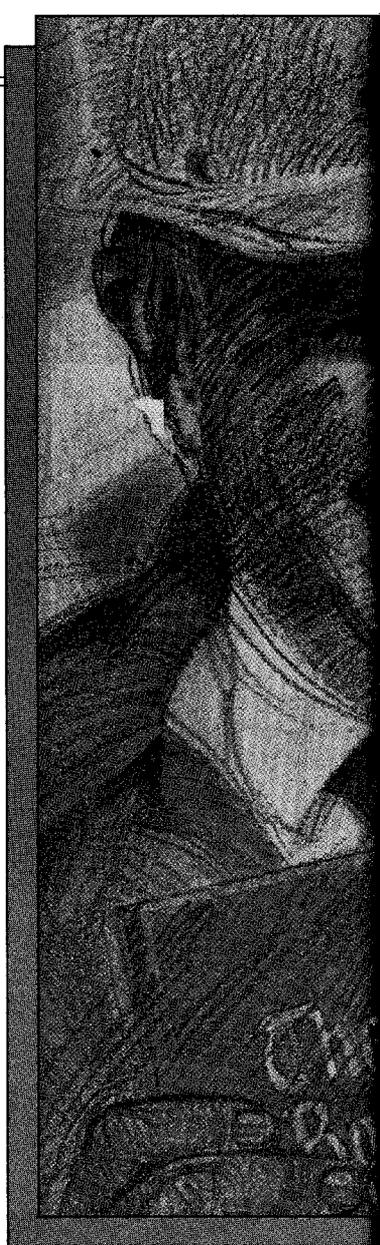
「『聖書か、われらはすでに聖書を持って。故にこのほかに聖書を要せず』と言う者よ、汝は愚なり。ユダヤ人に由らざりせば、汝はいかにして聖書を手に入れたるや。」

国民は一つより多くあるを知らずや。汝らの神にして主なるわれが万人を造りしを知らずや。またわれが海の島々に住む者のことを忘れざるを知らずや。またわれが上は天に於て支配し、下は地に於て支配し、わが言葉を世界万国の人々に示すことを知らざるか。

それ故に、わが言葉が更に多く与えら

るればと書いて不平を言うは何事なりや。二つの国の人が証拠を示すは、われが神なることと、われが一つの国の人を今一つの国の人と同じに思うこととを汝らに証明するなり。汝らはこれを知らざるか。われはこの国民に語ると同じ言葉をかの国民にも語る。故にこの二つの国民一つに合さる時には、二つの国民の証拠もまた一つに合さるべし。」(IIニーフアイ29：6-8)

ジェームズは聖句を読みながら、聖霊によって胸に熱いものを感じました。そしてもう一度ひざまずくと、心からへりくだって天父に感謝を捧げました。それから私の部屋へやって来て、ドアをノックしたのです。





私はジェームズと多くの時間を
使って福音について語り合い、
彼が真理を確信してくれること
を願いました。しかし、大きな
問題があったのです。

彼の顔は輝き、握手した手は力強く確信に満ちていました。ジェームズは言いました。「祈りの答えを受けましたよ。モルモン経は真実で、大切な聖典です。君が教えてくれたことは、本当でした。」そしてこう言いました。「私に教えてほしいんです。話してくれることは何でも信じます。」私たちは夜のふけるまで福音の教義について語り合いました。そして、ふたりの心が開かれ、強められ、知識に満たされるように、共に祈りました。

翌日、私たちは油田をあとにして、それぞれの家路につきました。私はジェームズに、電話帳で教会を探せば宣教師と会うことができると教えました。どうなるかわかりませんでしたが、私は主を信

頼していたので、苦勞せずに長老たちと会えるだろうと思いました。

1週間もすると、英国のノーリッジの宣教師から手紙が届きました。その宣教師は、私の所属していたテキサスのエルパソステーキ部出身でした。手紙にはこうありました。

「あなたの友人に福音を教え、バプテスマを施す機会を与えてくださったことに感謝したくて、この手紙を書いています。あなたの友人は、まさに主の『勇者』です。私はフォントに入ってバプテスマを施し、イエス・キリストの教会に招き入れるという栄誉にあずかりました。その会にあなたも出席できたらよかったです。ジェームズ兄弟は多くの人々の

祈りに対する答えでした。同僚と私は求道者に巡り会えるように、1カ月以上も断食と祈りを捧げていました。ジェームズ兄弟から電話で、教えに来てほしいと言われたとき、祈りが答えられたことを知ったのです。あなたの上に主の祝福がありますように。

バートン長老」

数日後にもう1通の手紙が届きました。それはジェームズからで、こう記されていました。

「天父が私の祈りに答えて、導きと知恵と知識を与えてくださったことに、どんなに感謝していることでしょうか。また、私の家族に与えられた多くの祝福に、どんなに感謝していることでしょうか。末日聖徒イエス・キリスト教会は、末日に回復された真の教会です。この真理を知って、私の心は喜びに震えています。イエス・キリストは神の御子、万物の創造主であられ、その形にかたどって私たちは造られました。イエスは世の罪のために贖いの犠牲として死なれ、すべての人が天父のみもとに帰って永遠の生命を受けられるよう、死に打ち勝たれました。天父と主イエス・キリストは骨肉の体を持っておられ、ジョセフ・スミスに現われて地上に再び神の王国を設立されました。私は今も引き続き祈りの答えとして、様々な知識と知恵を授かっています。御父と御子の栄光のために、私は真心から主に仕えたいと願っています。

キリストの愛を込めて

ジェームズ・P・マクドナルド」

2通の手紙を読んで、私は喜びでいっぱいになりました。主はすべての教会員に、「伝道しなさい」「わたしの羊を養いなさい」(ヨハネ21:15-17参照)と命じておられますが、私はその戒めに従ったのです。そうすることによって、素晴らしい友人を得たばかりでなく、福音の喜びを分かち合うこともできました。「而して汝らもし生涯今の世の人々に向いて悔改めを叫ぶことに力を尽し、唯一の人たりともわれに導かば、わが御父の国に於て彼と共に汝らの喜び如何ばかりぞや。」(教義と聖約18:15) 私は、主が言われたこの喜びを味わいました。実に大きな喜びです。私はこれからも人々を主のもとに導きたいと思っています。

対照的な時代

アダムからアブラハムまで

ケント・P・ジャクソン

このような時代はかつてなかったように思います。それは奇跡と力の時代、実に驚嘆すべき時代でした。何よりも、神の王国とサタンの力がぶつかり合い、それぞれの力がはっきりと表われた、対照的な時代でした。

アダムの墮落からアブラハムまでの時代は、現在から見れば、歴史上最も神秘的な時代と言えるでしょう。この時代は2,000年以上にも及び、その間数々の重要な出来事が起こりましたが、聖典はそれについて他の時代ほど多くを語っていません。聖書の中でこの時代について述べられているのは、わずか8章だけで、そのうちの3章は、代々の系図を記すのに充てられています。

しかし、末日聖徒にはもっと詳しい資料が与えられています。高価なる真珠のモーセの書には、予言者ジョセフ・スミスによる聖書の靈感訳が掲載されていて、エノクの時代について重要で新しい解釈が加えられています。しかし、もっと知りたいと思う人には、別の記録としてモルモン経があります。イテル書の最初の6章に記されているジェレドと彼の家族の短い記録がそれです。また教義と聖約の中にも、この時代に関する重要な解釈が見受けられます。

聖典の資料は完璧なものではありませんが、それでも、この歴史上重要な時代

を形成してきた人物や出来事について、概要を知ることはできます。聖典を基にしておもな出来事を年代順に並べると、次のようになります。

1. サタンの業の出現と波及（創世4；モーセ5）
2. 神権の系譜（創世5；モーセ6；教義と聖約84：14-17；107：40-55）
3. エノクとシオン（モーセ6-7）
4. 洪水前の人々の罪悪（創世6；モーセ8）
5. 洪水（創世7-8）
6. ノアと息子たち（創世9-10）
7. バベルの塔（創世11：1-9）
8. ジェレドの民（イテル1-6）
9. アブラハムの系図（創世11：10-28）

創世記、モーセの書、イテル書の記録をまとめてみると、神とサタン、選民と邪悪な民、正義と悪徳が、それぞれ対照的に描かれていて、それがこの時代の特徴になっていることがわかります。

地上でのサタンの業

主がご自身の王国を設立された各神権時代には、必ず悪魔の王国も存在しています。サタンの偽りの王国が栄えて人々に苦しみや悲しみをもたらす一方で、主の王国は、忠実な人々を幸福と永遠の栄光へと導いてきました。これは、人類の

歴史が始まって以来、ずっと行なわれてきたことです。

アダムとイヴの子供たちが成人して間もない頃かと思いますが、サタンが人々の中に罪と不信仰の種をまき始めました。聖典には、アダムとイヴが子供たちに福音を教えたあと、サタンが子供たちのところへやって来たと記されています。「サタン……彼らに命じて言いきけるは、アダムとイヴの言を信するなかれ、と。されば、彼らアダムとイヴの言を信することなくサタンを神よりも愛でたり。人はその時より、肉体、肉欲、悪魔に従う者となり始めたり。」（モーセ5：13）

この神聖な記録の中には、サタンの影響力の例が出ています。弟の財産に対する欲望とサタンの命令によって、カインはこの世に殺人をもたらしました。

悲しいことに、聖典の教えるところによれば、この出来事は一度限りのことではありませんでした。

「かくて暗黒の業はすべて人の子たちの中にひろく行われ始めたり。而して神は地を堪しき咀いを以てのろい、悪人どもを怒り、また神が先に造りし人の子たちをすべて怒りたまえり。」（モーセ5：55-56）

罪悪は多くの人々の生活をむしばみながら、エノクの時代に蔓延していき、エノクは示現の中で、サタンとその業を目



アダムの墮落から
アブラハムまでの時代は、
歴史上最も神秘的な
時代と言えるでしょう。

にしました。

「またエノク、サタンを見たるに、サタンその手に大なる鎖を持ち、そは全地の面を暗黒もて覆えり。サタン仰いで大いに笑ひ彼に属ける使たち喜び。……天の神、遣る人々を見て泣きたもう。……主、エノクに言いたもう。見よ、これら汝の兄弟らを、彼らはわが手に成れる工なり。われ彼らを創りし日に彼らの知識を与え、エデンの園に於て人に彼の自由意志を与えたり。而して、われ汝の兄弟たちに語りまた誠命を与えたり。すなわち汝ら互いに愛すべし、汝らの父なるわれを選びとるべし、と。されど見よ、彼ら何の愛情もなくして自らの血族を憎む。」

(モーセ 7 : 26, 28, 32-33)

人々の悪事を見て、サタンは大いに笑って喜びましたが、それとは対照的に、神は悲しみ、泣かれたのです。

ノアの時代になると、神から繰り返し悔い改めを命じられたにもかかわらず、人々はますます悪くなり、ついに次のような状態になりました。

「神、人の悪の地に大いになれると、すべての人その心の念の凶るところ高ぶりて、常にただ悪しきのみを見たまえり。」

(モーセ 8 : 22)

人々の罪悪が頂点に達したため、これ以上地を汚させることも、墮落しきった世の中に罪のない霊を送り出すことも、もはや許されなくなりました。主は、わずかな忠実なものを除き、すべての生き物を洪水で滅ぼすと宣言されました。こうして神は改めて創造の業を行ない、再び人間と契約を結ばれるのです。

この洪水は復讐のようなものではなく、憐れみによる行為でした。ノアの世代があまりにも邪悪であったため、次の世代が高い原則に添って生活できるようにするには、この大いなる清め以外に方法がなかったのです。キリストの再臨のときも同じですが、悔い改めによるか、破壊によるかは別として、悪は必ず排除されなければならないのです。

後の世代の人々は、ノアの時代ほど邪悪にはなりませんでしたが、やはり悪に固執していました。ノアの子孫の中には、善よりも悪を好む人が大勢いて、彼らは傲慢ごうまんになって言いました。「さあ、町と塔とを建てて、その頂いただきを天に届かせよう。そしてわれわれは名を上げ……よう。」(創世11：4) 神がこの時代に下された罰は、洪水による滅亡ではなく、言葉を乱して社会を破壊することでした。ジェレドの民が主によって新しい地に導かれたのは、ちょうどこの頃です。(イテル1：33-43参照)

人々の中のシオン

古代の多くの人々がきわめて邪悪であったことは聖典から明らかですが、神聖な記録には、このうえなく忠実な義人がいたことも記されています。人間性が最も損なわれていたその時代に、歴史上ほかに類を見ないほどの神への従順と献身を示した男女がいたのです。エノクの民とメルケゼデクの民が、ふさわしいと認められ、地を襲う滅亡を免れて崇高な祝福を享受するために、地上から取り上げられたのは、アダムからアブラハムまでの間の時代でした。

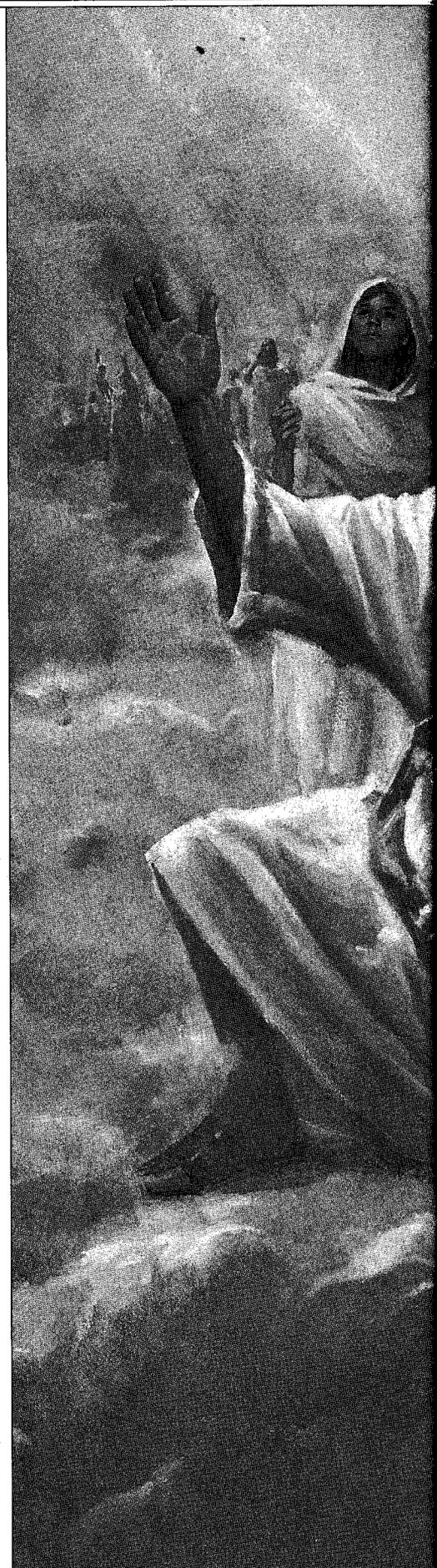
創世記の第5章には、アダムからノア

の息子に至るまで、神権と福音の誓約を受け継いでいった人々の系図が出ていますが、それ以外のことはほとんど記されていません。族長と呼ばれたこれらの人人の時代には、重大な事柄が数多く明らかにされたと思われます。しかし、主はその記録を私たちに見せることをよしとされませんでした。偉大な族長であったエノクの働きにしても、聖書では遠回しに述べられているだけです。

1830年の夏、予言者ジョセフ・スミスは神に命じられて、欽定訳聖書を靈感によって改訳し始めました。その結果できた聖書は、靈感訳またはジョセフ・スミス訳と呼ばれ、膨大な数の新しい啓示を含み、聖書に対する私たちの理解を大いに深めてくれました。この聖書の中で、予言者が靈感によって変更を加えた箇所はたくさんありますが、特に注目すべき点は、アダムの墮落からアブラハムの時代までを扱った新しい記録が、数ページ付け加えられたことです。この記録は、1851年に高価なる真珠の初版に載せられ、1880年に聖典として承認されました。現在では、モーセの書の第5章から第8章に収められています。

モーセの書によれば、当時の世の中には悪がはびこっていたにもかかわらず、主のみ業は続けて行なわれていました。「かくの如くして、福音は最初より説き始められて、神の御前より遣わされし聖き天使たちにより、神自らの声により、また聖霊の賜によりて宣べられたり。」(モーセ5：58)

モーセの書の6章と8章は、創世記の5章には見られない記録を加えて、族長





エノクとシオンの民は、
そのふさわしさを認められて、
地を襲う滅亡を逃れて
特別な祝福を享受するために、
地上から取り上げられました。

たちの系図を補足しています。しかしながら、これらの章の最大の貢献といえば、偉大な予言者エノクとその民について、かなりの量の記録を明らかにしたことでしょう。創世記では、エノクに関する記述がわずか6節しかありませんが（創世5：18-19、21-24参照）、ジョセフ・スミス訳聖書では、エノクの生涯や使命、啓示などが115節にわたって記されています。（モーセ6：21、25-8：2参照）

エノクの生涯と使命に関する記録は、その時代の人々に関する記録と、実に対照的です。エノクは民と共にシオンを建設しました。主のみこころにかなった社会を築いたのです。それは「聖なる市すなわちシオン」（モーセ7：19）と呼ばれました。

「主はその土地を祝したまいたれば、民は山の上と高さ所にて祝福を受け誠に栄えたり。主、その民をシオンと呼びたまえり。彼ら心を一にし、精神を一にし、義に住みたればなり。されば彼らの中に貧しき者一人もなかりき。」（モーセ7：17-18）

さらにこう記されています。「エノクとそのすべての民は神と共に歩めり。彼はシオンの真中に在りしに、シオン無くなりぬ。神これをとり挙げて、自らの懐に受入れたまいしが故なり。これよりして『シオン逃げたり』と言う言葉世に出できたれり。」（モーセ7：69）

シオンとこの世

エノクとその民の受けた栄光は、聖徒たちの従うべき手本となりました。エノクの民と同じ祝福を受けた民として知ら

れているのは、メルケゼデクの民ぐらいです。しかしほかにも、エノクの時代からノアの時代までの間に、神にふさわしいと認められた人が、実際に身を変えられて地上から取り上げられました。

これらの啓示は、教会が設立された当初に与えられましたが、末の世の聖徒たちにとっても模範となるものです。聖徒たちは、正当な予言者と使徒の権能を持つ人の指示のもとに、主の戒めに添ってシオンを設立しようと努力しているからです。ジョセフ・スミスは次のように教えています。「シオンを築くということは、あらゆる神の民が関心を示してきた大事である。予言者、祭司、王たちは、特にこのテーマについて語るのを喜びました。」（「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.231）

エノクと聖徒たちが、信仰と義の原則に添った平和な社会を築いている一方で、世のほとんどの人々は悪に染まり続け、結局、悲しみと破滅という実を刈り取りました。アダムからアブラハムに至る人類の歴史にはっきりと表われているように、サタンに従う人には争いと悲劇、神に従う人には平安と幸福が、それぞれもたらされるのです。

私たちが置かれている環境は当時のものとは異なりますが、従順と不従順のもたらす結果は変わりません。結局私たちも、善と悪とが織りなす対照的な時代に生きているのです。

*ケント・P・ジャクソン：5児の父、ユタ州プロボのブリガム・ヤング大学古代聖典学準教授、福音の教義執筆委員会の委員

幕を越えて

末日のふたつの示現

ロバート・L・ミレット

1976年4月の総大会で、スペンサー・W・キンボール大管長は、ふたつの啓示が高価なる真珠に付け加えられたことを発表しました。それは、ジョセフ・スミスが1836年に受けた日の光栄の王国に関する示現と、ジョセフ・F・スミスが1918年に受けた死者の贖い^{あがな}に関する示現のふたつで、後に第137,138章として教義と聖約に追加されました。(注：日本語版では現在「高価なる真珠」に加えられている)十二使徒定員会のボイド・K・パッカー長老は次のように述べています。「私たちは、標準聖典に新たにふたつの示現が追加されたことの重要性を心から感じるならば、自分の孫やひ孫にまで語り伝え、それが起こった日に私たちがこの地上にいたことを日記に記録し、決して忘れないであろう。」(教会教育部職員への説教、1977年10月14日)

教義と聖約への追加はまれなことです。1890年のウイルフォード・ウッドラフ大管長による公式の宣言以降、教会の標準聖典に新たな啓示が加えられたことはありませんでした。

このふたつの啓示が与えられた背景と内容を詳しく調べてみれば、今それらが教義と聖約に加えられた理由が明らかになるのではないのでしょうか。

日の光栄の王国に関する示現(教義と聖約第137章(英文))

ジョセフが日の光栄の王国に関する示現を受けたのは、霊的に高揚し、様々な教えが授けられた時代でした。主は1833

年にカートランドの聖徒たちに、次のように命じておられます。「われ汝らに一つの家を建てよと命じたるが、その家の中に於てわれは選びたる者たちに天よりの^{ちから}祝福を授けんと思うなり。」(教義と聖約95：8)このカートランド神殿が完成したとき、主は聖徒たちの犠牲に報いて、光明と真理をあふれるほどに注いでくださいました。最近ある末日聖徒の歴史家が、教会歴史の多彩な出来事に満ちたこの時代を取りあげて、次のように記しています。

「1836年1月21日から5月1日にわたる15週間には、おそらく教会歴史のほかのどの時期よりも多くの末日聖徒が、示現や珍しい霊的^{かん}顕われを目にしたであろう。この期間中、10の集会で、聖徒たちは天使を見た^{かん}と記録している。その中の8つの集会では、大勢が天使を目撃した^{かん}と言い、5つの礼拝行事では、何人かが救い主イエスのみ姿を見た^{かん}と証している。聖徒たちがこうして天の軍勢と交わる間に、多くの者が予言し、ある者は異言を語り、またある者は異言を説く賜を受けた。」(ミルトン・V・バックマン・ジュニア「天のこだま——オハイオにおける末日聖徒の歴史」p.285)

1836年1月21日木曜日の夜、予言者ジョセフ・スミスは、カートランドとミズーリから来た教会の指導者たちと一緒に神殿に集いました。予言者ジョセフの頭^{かん}に油が注がれ、大管長会の全員が予言者の頭に手を置いて数々の輝かしい祝福と予言を宣言しました。そのあと、すばら





ジョセフ・F・スミスの死者の贖いに関する示現は、救い主が時の絶頂に、「捕らわれ人に自由を告げ」られた様子をありありと教えています。

しい示現が集まった指導者たちに開かれたのです。〔教会歴史〕2：379-80参照)

「諸天が私たちに開かれ、私は神の日の光栄の王国とその栄光を見た。それが肉体にあってのことか、それとも肉体を離れてのことなのかは定かでない。

私はその王国を受け継ぐ者たちが入るこの上なく美しい門を見た。それは、あたかも炎の輪のようであった。

また、輝く神の御座が^{あそび}あって、そこに御父と御子が座しておられるのを見た。

私はその王国の美しい街路を見た。それは金を敷きつめたかのようにであった。」

(日の光栄の王国に関する示現1：1-4；教義と聖約137：1-4〔英文〕)

この日の光栄の王国の示現は、黙示者ヨハネが見た聖なる都の示現と違ってはいません。ヨハネは、聖められて日の光栄の状態になった地球についてこう記しています。「都の城壁の土台は、さまざまな宝石で飾られていた。……都の大通りは、すきとおったガラスのような純金であった。」(黙示21：19, 21)

ジョセフ・スミスの説明はさらに続きます。

「私は父祖アダムとアブラハムを見た。また、私の父と母、この世を去って久しい兄のアルビンを見た。

私は兄がなぜその王国で受け継ぎを得ているのか不思議に思った。兄がこの世を去ったとき、主ははまだ、イスラエルの第二の集合に着手しておられず、また兄自身罪の赦しを受けるためのバプテスマを受けていなかったからである。」(5-6節)

ジョセフの示現は、将来の日の光栄の王国をかいま見たものでした。ジョセフは両親が義人の王国に住むのを見していますが、1936年には、ふたりともまだ生きていました。興味あることに、父親のスミスは、息子がこの示現を受けたとき、同じ部屋にいたのです。

予言者は兄のアルビンも見ました。アルビン・スミスはジョセフ・スミス・シニアとルーシー・マック・スミスの長子です。やさしく快活な性格で、経済的に困窮したときには何かと家族を助けようとしました。後にジョセフはこの長兄に

ついて、うそ偽りのまったくない人間で（「教会歴史」5：126参照）、「アダムとセツをのぞき、だれにもまさる風貌の男性」（「教会歴史」5：247）と述べています。

アルビンは死の直前に、スミス家の子供を一人一人ベッドの側に呼んで、別れの言葉と愛を告げました。母親は「ジョセフ・スミスの生涯」の中で、次のように記しています。「ジョセフの番になると、アルビンは言いました。『ぼくはもうじき死ぬだろう。この苦痛や心に感じていることからわかるんだ。ぼくに残された時間はない。ジョセフ、立派な人間になって、あの記録を得るために、力の限り何でもしてほしい。（ジョセフがモロナイの訪れを受けてから3カ月もたっていなかった）忠実に教えを受け、与えられるすべての戒めを守ってくれ。』」

アルビンは1823年11月19日に亡くなりました。ルーシー・マック・スミスは、そのときの深い悲しみを次のように表わしています。「アルビンはまれに見る善良な気性の青年でした。親切で人から好かれていたので、悲しみと哀悼の声が近所中にあふれていました。」

アルビンは教会が組織される7年前に亡くなり、正しい権能によるバプテスマを受けていなかったため、ジョセフは示現を見ながら、兄がなぜ最高の天に到達できたのか不思議に思いました。

「このため、主の声が私に臨んで言った。『この福音の知識なくして世を去り、もし世にとどまることを許されていれば福音を受け入れたであろうすべての人々は、神の日の光栄の王国を受け継ぐ者となるであろう。』」

さらに、これより後も、福音の知識なくして世を去り、かつ世にとどまっておれば心から福音を受け入れたであろう人々はすべて、この王国を受け継ぐ者となるであろう。

主なる私は、すべての人々をその行ないと心の望みに応じて裁くからである。』（日の光栄の王国に関する示現1：7-9；教義と聖約137：7-9〔英文〕）

ジョセフは、イエス・キリストの福音の原則を受け入れて実践する機会が、こ

の世か後の世で、すべての人に与えられることを知りました。この示現は、主が人々を行ないだけでなく、心の望みによっても裁かれるということを確認しています。（アルマ41：3参照）

日の光栄の王国の示現には、もうひとつの深遠なるわしい教えが含まれています。それは、世を去った子供たちの状態に関する教えです。「私はまた、自己の責任を知り得る年齢に達する前に世を去った子供たちがすべて、天の日の光栄の王国において救われているのを見た。」（日の光栄の王国に関する示現1：10；教義と聖約137：10〔英文〕）

これは、昔の予言者たちが教えたことと一致します。ベンジャミン王は天使から、「年の行かない中に死ぬ幼児は亡びない」（モーサヤ3：18）と告げられました。またアビナダイは、第一の復活にあずかる人の特質を述べてから、簡単にこう言いました。「幼児も永遠の生命を受ける。」（モーサヤ15：25）

1830年9月、ジョセフ・スミスは次のような啓示を受けました。「かの幼き小児らは、わが生みたる独子によりて世の始めより贖われるなり。」（教義と聖約29：46。ジョセフ・スミス訳マタイ19：13-15参照）また1842年に、ジョセフはこう教えています。「主は多くの人々を、たとえ幼な子であろうともこの地上から連れ去る。それは彼らが人のうらみを避け、現世の悲しみや邪悪に染まることのないようにするためである。彼らはこの地上で生活するにはあまりにも純粋で美しすぎるのである。したがって、死に対する正しい考え方を述べるとすれば、私たちは悲しむよりも、彼らが邪悪から解放されたこと、やがて再会することを喜ぶべきである。」（「教会歴史」4：553）これらの子供たちは、埋葬されたときと同じ子供の状態で、墓から出てくるでしょう。（「教会歴史」4：555-56参照）また、私たちがこの世で受けたような経験を、復活した状態でする必要はなく、そのまま昇栄という最高の祝福を享受して、永遠の家族に加わるでしょう。

予言者ジョセフ・スミスは、日の光栄の王国に関する示現を受けてから4年半

後に、初めて死者のバプテスマに関する説教をしました。その場に出席したある人は、次のように記録しています。

「1840年8月15日、予言者ジョセフから死者のバプテスマについての説教を聞いた。予言者はコリント人への手紙の15章をほとんど読み、『大いなる喜びを伴うよき訪れがイエス・キリストの福音によってもたらされた』と述べた。また、『当時は死者のバプテスマが実践されていたから、使徒（パウロ）はそれを理解している民に向かって話をしている』と語った。予言者はさらに、『今や民は世を去った友のために働くことができ、救いの計画は神の律法の要求に喜んで従うすべての人を救うためにある』と言った。実にすばらしい説教だった。」（アンドリュー・F・エイト、およびリンドン・W・クック「ジョセフ・スミスの言葉」p.49）

この説教の1カ月後に、ジョセフ・スミス・シニアが亡くなりました。父スミスは死ぬ前に、長男のアルビンのために身代わりのバプテスマを行なってほしいと頼みました。父の最後の願いに添って、ハイラム・スミスが1840年に、そして1841年に再び、アルビンの身代わりとしてバプテスマを受けました。アルビンは身代わりの儀式によって、1877年4月11日にエンダウメントを受け、1897年8月25日に両親に結び固められたのです。

死者の贖いに関する示現（教義と聖約第138章〔英文〕）

初めに予言者ジョセフ・スミスに啓示された真理は、彼の死後、「言葉に言葉を加えて」詳しく説かれました。主は予言者ジョセフ・スミスの甥であるジョセフ・F・スミスに、福音が霊界で宣べ伝えられる様子を明らかにされたのです。ジョセフ・F・スミス大管長は、世を去るまでの最後の半年間、高齢のためにソルトレーク・シティのビーハイブ・ハウスにこもり、1日の大半を自分の勉強に費やしていました。しかし1918年10月の総大会には力をふりしぼって出席し、その最初の部会で、感動に満ちた声で聖徒たちにこう説いたのです。

「今朝、私の胸に浮かんでくる多くの



ジョセフ・スミスは日の光栄の王国に関する示現の中で、まだ生きている両親と、福音が回復される前に亡くなった兄のアルビンを見ました。

事柄を、あえて皆さんに語ろうとは思いません。その中には、主のみこころにかなうときまで、皆さんに話してはならない事柄があります。この5カ月間というもの、私は決してひとりではありませんでした。祈り、嘆願、信仰、そして決意の中に、常に主のみたまと交わっていたのです。」

ジョセフ・F・スミスの息子であるジョセフ・フィールディング・スミスは、父の伝記「ジョセフ・F・スミスの生涯」の著者ですが、彼によれば、父親は最後の半年間に多くの顕現を受けたことを常談語り、そのいくつかを息子に話していました。ジョセフ・F・スミス大管長は大会の前日の1918年10月3日にこの死者の贖いに関する示現を受け、大会終了後、ただちにそれを記録しました。

幾度となく死に直面したジョセフ・F・スミスは、この世を越えた来世に心を引かれました。両親のハイラム・スミスとメアリー・フィールディング・スミスは、自分が幼い頃に亡くなっていました。

その後も数々の試練に遭い、子供を何人も失いました。ジョセフ・フィールディング・スミスは次のように書いています。

「死がいくたびとなく家庭を襲い、幼な子たちが奪い去られたとき、父スミスは、命より大切にしていた『貴重な宝石』を失ったために、打ちひしがれて悲しんだ。しかしそれは、生きる希望を失った者の嘆きではなかった。」

スミス大管長が死者の贖いに関する示現を受ける数カ月前に、十二使徒評議員であった長男のハイラム・マックが亡くなりました。45歳の若さでした。大管長にとって、長男の死はことのほか痛手でした。老齢のため弱っていたうえに、これまでで最も厳しい苦難に耐えなければならなかったのです。

スミス大管長の一生を通じて、死後の世界を覆う幕は薄いものでした。青年時代にハワイで伝道中に、夢の中で示現を見て、信仰と確信を強めました。以来、その示現は人生の指針となり、彼の働きが主や代々の大管長会に喜ばれていると

いう確信を与えてくれました。その夢の中で、彼は叔父の予言者ジョセフ・スミスに会い、世の汚れから遠ざかっていたという望みを強くしたのです。また、スミス大管長は幼い頃から、死と不死不滅との間が紙一重であることと、主が両方の世界の人の交わりをしばしば許されるということを知っていました。

1916年4月から1918年10月までの晩年の2年半は、特に霊的に啓蒙された時期でした。この時期にスミス大管長は、この神権時代で最も重要で靈感に満ちた洞察の数々を教会員に告げています。

1916年4月の総大会で、スミス大管長は「神のみ前に」と題するすばらしい説教をしました。その中で、霊界が近くにあり、霊たちが私たちや私たちの働きに興味と関心を寄せていると語りました。そして、現世でシオンを確立するために熱心に働いた人々は、「自分たちの働きと努力の結果を、霊界から見おろす権利を奪われていない」と力強く述べています。「彼らは肉体にあった時以上に今日の私

たちの幸福に、幕の彼方から非常な関心を寄せている」からです。この説教の主題は次の言葉に語られていると言えるでしょう。「主は時としてこの視野、幕のこちら側にとどめられている私たちの視野を広げられ、私たちはこの地球と他の世界とを分けている薄い幕を越えて見ることができると感じたり、思うことがある。」（「福音の教義」p.412）

1916年6月、大管長会と十二使徒会は、神会の属性と特に「父」としてのイエス・キリストの役割について、教義上の誤解を説くために、「御父と御子」と題するパンフレットを発行して教義的な解説を行ないました。

1918年2月、ジョセフ・F・スミス大管長は神殿における断食集会で、「復活における小児の状態」という意義深い説教をしています。この説教から、教義について教えられ、備えられた人物の力量と予言の才を知るだけでなく、子供たちを亡くして嘆いた後に、確かな知識に喜びを見いだした気高い父親の心をかいま見ることができます。その知識とは、次のようなものです。(1) 子供たちは不死不滅の存在で、その霊は幕のかなたでも生きて進歩し続ける。(2) 予言者ジョセフ・スミスが教えたように、子供たちは死んだときの状態で、すなわち子供として墓からよみがえり、その後ふさわしい両親によって養育され、大人になる。ジョセフ・F・スミス大管長は歓喜して言いました。「ああ、私は何と子供に恵まれてきたことだろう。幕の彼方でまた会えるとは、何という幸せだろう。」

それから数カ月後の1918年10月3日木曜日、スミス大管長は病気のために、ほとんど部屋にこもりきりで机に向かい、贖罪の万人に及ぼす影響と、キリストの死後の召しに関する使徒ペテロの言葉を読んで、冥想していました。舞台は整いました。生涯をかけてきた備えが、天よりの教えとして報われて、死者の贖いに関する示現が与えられたのです。

「これらのことについて深く考えていると、主のみたまが私の上にとどまり、理解の眼が開かれた。そして、死者が、小さき者も大いなる者も共に、群れをな

しているのが見えた。」（死者の贖いに関する示現1：11；教義と聖約138：11〔英文〕）

ジョセフ・F・スミス大管長は示現の中で、アダム時代から時の絶頂までに死んだ「おびただし数の義人の霊」を見ました。彼らは霊界にキリストが来られるのを心待ちにし、間近に迫った復活への期待にあふれていました。(12-17節参照) 生者と死者の救い主は、ゴルゴタでの贖いの犠牲を終えて、瞬時に死者の世界へやって来られたのです。死者たちは「肉と霊とが長い間分離している状態を捕らわれと考へ」(15節；教義と聖約45：17も参照)、義人さえ「解き放たれる」(18節)ことを願っていました。彼らはある意味で、獄屋にいたのです。そこへ救い主が来られて、「忠実であった捕らわれ人に自由を宣言」(18節)されました。ペテロが述べたように、キリストは幕の向こうに行つて「獄に捕われている霊ども」(Iペテロ3：19)に宣べ伝えられたのです。ジョセフ・スミスは次のように教えています。「ハデスもシェオールもパラダイスも獄の霊も皆ひとつ、すなわち霊の世界なのである。」(「教会歴史」5：425) また、ブルース・R・マッコンキー長老の説明によれば、この示現では「地獄と呼ばれている部分だけでなく、霊界全体が霊の獄と見なされていることが明確に示されている」のです。(「聖徒の道」1977年8月号、p.356)しかし、キリストは義人の霊たちに、「御自身が死人の中から復活した後によみがえる力を……授けられた。彼らが御父の王国に入り、そこで不死不滅と永遠の生命の冠を受けるためである。」(死者の贖いに関する示現1：51；教義と聖約138：51〔英文〕)

スミス大管長は、救い主が死と復活の間の短い時間に、霊界にいる大勢の霊たちにどのようにして福音を説かれたのだろうかと思ひめぐらしていました。そのとき、最も重要な教義を理解したのです。すなわち、主は「邪悪な者、不従順な者たちの間へ自ら行って教えられたのでは」なく、「軍勢を組織し、使者を任命して権威と権能とを与へ」(29-30節)、その代理人が「反抗と罪のゆえに主御自身が行

くことのできないすべての死者のもとに」(37節)福音のおとずれを携えて行ったのです。選ばれた使者たちは、この世で真理を知る機会がなかった者や、地上で予言者を拒んだ者へも福音を宣べ伝えました。そして、死すべき世に住む者と同じ神の標準によって彼らが裁かれ、報いを受けられるように、福音の第一原則と儀式(身代わりの儀式も含めて)を教えたのです。

キリストご自身が不従順な霊たちを訪れておられないという教えは、この示現で初めて明らかにされたもので、霊界でのみ業について理解を大きく広げてくれました。ジョセフ・スミスは、この世で忠実であった者が引き続き霊界で、神を知らない者たちのために伝道して働くことを教えました。スミス大管長の示現によって、この教えが正しいことも確認されました。(57節参照) ジョージ・ラウブは、1844年5月12日の日記に、予言者ジョセフ・スミスがこう述べたと記録しています。「さて、信仰のうちに死んだすべての義人は霊の獄へ行き、肉において死んでいるが、霊において生きている人々に福音を宣べ伝え、彼らが霊においては神に従って生きることができるようになる。そして肉にある者は、彼らの身代わりとなって働くのである。」(「エイハトおよびクック」p.370) ジョセフ・F・スミス大管長は、折あるごとに教えていたこの教義を(「福音の教義」pp.130-31参照)、実際に自分の目で見たのでした。

示現は続き、スミス大管長は、時の初め以来の高貴にして偉大な人々の姿を見ました。その中には、アダム、セツ、ノア、アブラハム、イザヤ、紀元前のニーファイ人の予言者たち、そのほか大勢の人がいました。また、母イヴをはじめ、忠実な娘たちもたくさんいました。スミス大管長は何年も前から、霊界では、地上の聖なる場所で行なうように、女性が女性に導きを施すと教えていました。(「福音の教義」p.436)この教えについても、示現の中で事実を見ることができたのです。

スミス大管長の示現は、「死者の贖いに関する当教会の確立された教義を完全にわかりやすく確認した示現」です。(ブル



死んだ子供たちの霊は、幕の彼方でも生きて進歩し続けます。そして子供として復活し、ふさわしい両親によって育てられます。

ース・R・マッコンキー「聖徒の道」1977年8月号, p.356) スミス大管長は、教義の確立に貢献したこの示現を証で締めくくっています。「このようにして、死者の贖いに関する示現が私に与えられた。私はこれを証する。そして、私は主なる救い主イエス・キリストの恵みにより、この証が真実なものであることを知っている。まことにその通りである。アーメン。」(死者の贖いに関する示現 1:60; 教義と聖約 138:60 [英文])

この示現は、1918年10月31日木曜日の評議会で、大管長会、十二使徒会、大祝福師に提示されました。衰弱のため出席できなかった大管長は、息子のジョセフ・フィールディング・スミスに、集った教会幹部の前でこの啓示を代読するように頼みました。

ジェームズ・E・タルメージ長老は日記にこう記しています。「十二使徒評議員会は、副管長および大祝福師と共に、満

場一致でこの啓示を受け入れ、主のみ言葉として支持した。」(「ジェームズ・E・タルメージの日記」教会記録保管庫)

スミス大管長は、1918年の11月上旬に容態が悪化し、11月19日に死去しました。次の総大会(1919年4月)において、ジェームズ・E・タルメージ長老は、感動的でふさわしい賛辞を送っています。「スミス大管長は今、どこにおられるのでしょうか。逝去される直前に来世をかいま見ることが許され、間もなく務めに就く場所を知っておられました。地上にあっては義の説教者、そして今もなお義の説教者であられます。少年時代から宣教師であったスミス大管長は、今や死すべき世から霊界に移って、福音を聞いていない霊たちの間の宣教師として働いておられるのです。私の心に描かれるのは、主のみ業にいそむスミス大管長の姿以外の何ものでもありません。」

終わりに

ジョセフ・スミスの日の光栄の王国に関する示現は、愛にあふれた神が確かに多くの住まいを用意しておられることを伝えています。ジョセフ・F・スミスの死者の贖いに関する示現は、救い主が時の絶頂に「捕らわれ人に自由を告げ」られた様子をありありと教え、墓を越えた世界でも救いの教義が引き続き宣べ伝えられていることを示しています。

このように、贖いのみ業は幕の両側で進められています。ペテロは聖徒たちに次のように教えました。「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きようになるためである。」(Iペテロ4:6)

*ロバート・L・ミレット：ユタ州プロボ、ブリガム・ヤング大学古代聖典学準教授。ショーナ夫人との間に5人の子供がある。

キティー・デロイター (カシー・ジョンストン・ブローの聞いた話)

「お誕生日おめでとう。」インドネシアのジャワにある日本軍の捕虜収容所で、朝早く起きた私に、母がささやきました。「あなたも9歳ね、大きくなったこと。もうすぐ自由になって、ケーキとレモネードとアイスクリームで、お誕生日を祝えるようになるわ。あなたは、大切な役目を持って生まれてきた特別な子よ。この地上に生まれてきたのは、何かすることがあるからなの。あなたの人生には目的があって、ここに収容されているのはほんの一時のことですよ。」母は穏やかな中にもはっきりとした口調で、やがて戦争が終わって平和が訪れると言いました。

私たち家族が日本軍によって収容所に連行されてから、8カ月になります。私は姉や妹、弟と一緒にここに連れてこられました。3人の兄たちは別の収容所に送られました。父はインドネシア侵略の抵抗運動にかかわったため、フィリピンか日本の占領地の収容所にいるとのことでした。

私は寂しくて、ふさぎこんでいました。世の中は何て不公平なんでしょう。私たちは鉄条網の中に閉じ込められて、ノミやシラミ、ハエ、蚊に悩まされています。窮屈で暑苦しい建物の中では、ひとり当たり縦1メートル、横1メートル半の広さしか与えられません。口げんかが絶えず、思いやりがなく、子供がいつも泣きわめき、トイレに行くにも順番を待たなければならないのです。

「10歳の誕生日には、どうなるかしら。もう自由になっているかしら。」柔らかな緑の草の上を歩き、転がって草のおいかけたら、どんなにいいでしょう。好きなききに歌って、笑って、思いどおりのことができたなら、どんなにすばらしいでしょう。

ある日、ひとりでいた私は、母から建



物のそばを離れないように言われていたのを忘れて、歩き出しました。手には、私の唯一の財産である1本の棒を持っていました。母はよくその棒で地面に文字を書き、ゲームをしながら字を教えてくださいました。また、聖書の物語や私たちが小さいときのこと、あるいは母の子供時代の思い出などを話してくれました。

私は「昔の楽しかった日々」のことを考えながら歩いているうちに、建物からどんどん離れて、収容所のはずれまでできてしまいました。恐ろしい鉄条網が張られている場所です。でも、周りの状況などすっかり忘れて、山に囲まれた自分の家や小馬、おもちゃのことを心に描いていました。兵隊に連行されたとき、いすにちょこんと座っていた人形のポップ・ミエンテをどうして忘れてきてしまったのかしら。とても怖かったし眠かったので、そこまで気がつかなかったのね。今こ

に、あの人形があったらいいのに。

私は、年配のジャワ人の乳母が恋しくなりました。怖いときやけがをしたときに、慰めや励ましを与えてくれたのは、乳母のバブー・キトでした。やさしく柔らかな手の感触、香水の香り、耳元でささやく声など、今でもはっきり覚えています。「ノニー・キティー、キティー」そうやって私を呼ぶ声が聞こえてくるようです。

待って……、聞こえてくる。空耳じゃない。

ほら、また聞こえてきた。「ノニー・キティー、キティー。注意して左を見なさい。やぶの中ですよ。近づいてはだめ。鉄条網があるし、この辺りには地雷もあるらしいから。」

私はそっと顔を向けて、やぶの中を見ました。そこには乳母のバブー・キトがいたのです。



「お願いよ、連れてって。置いてかないで。」私は鉄条網で顔が傷つくのもかまわず、泣きながら両手を差し出しました。

「恐ろしい収容所から私を連れ出すために来てくれたの？」

「いいえ、キティー。お誕生日のお祝いをあげたくて来たのよ。」

私は棒で地面に何か書いて遊んでいる振りをして、近づいて行きました。

「ねえ、お願い。一緒に連れてって。ここがいやなの。お願いよ、あなたのところへ行かせて。バブー・キト、お願い。」バブー・キトは厳しい口調で、そのままじっとして声を小さくするように、そしてこれから話すことをよく聞くように言いました。

「私はこの収容所に入れなし、ヨーロッパ人の子供が村で生活するのは危険です。だから、友達のパプ・ミエンテを持ってきました。アラーの神は何でもご

存じですから、いつもお祈りの中で、苦しみに耐える力をお願いしなさい。神は戦争がいつ終わるかご存じです。その日まで、私たちが信仰をもって耐え忍ぶかどうか、試していられしやるのです。必ず喜びの日が来ます。さあ、パプ・ミエンテですよ。なくさないで約束して。どこへ行くときも、離さないで。そうすれば、いつかパプ・ミエンテが幸せをもたらしてくれます。」

バブーは決してうそを言わなかったの、私はいつもその言葉に従ってきました。でもこのときは、どんな危険であろうと、バブーの体に触れたかったのです。私は腹ばいになると、鉄条網の方へ這っていきました。バブーがパプ・ミエンテを差し出しました。そのとき、互いの手

が触れ合い、バブーは私の手をそっとなでてくれました。

「お願いよ、連れてって。置いてかないで。」私は人形を脇へ投げ出すと、鉄条網で顔が傷つくのもかまわず、両手をバブーの方に伸ばして、体を近づけようしました。香水の香りがしました。私は目を閉じて、顔をなでるバブーの手の感触をほんのひととき味わいました。

「キティー、帰きなさい。さあ、急いで。人形を持って、帰るの。私はもう行かなければ。さあ、早く。」

私はぐずぐずしていました。そこへ見張りがやって来ました。見張りには逃げていくバブーを見て銃を構え、ねらいを定めて後ろから射ちました。大きな傷口が開いたかと思うと、バブーは私の方を振り向いて、まるで「大丈夫よ」と言うかのように手を振って倒れました。

銃声が続いて、見張りの怒鳴り声と女性の悲鳴が飛びかい、私に注意を向ける人はいませんでした。私は衝撃のあまり一步も動けず、その場に立ちつくしていました。だれかがポプ・ミエンテを拾って渡してくれました。かがんで棒を拾い、顔を上げてみると、目の前にひとりの日本兵が立っていました。その兵隊は私を見て「早く行きなさい」と小声で言いました。

私は建物まで一目散に走りました。敵である日本兵に助けられたのです。母が待っていました。ずっと探していたようです。ポプ・ミエンテを抱えて走って来る私を見て、母はバブー・キトに会ったことを知りました。

私は今起こったことを母に話しました。「私がぐずぐずしなければ、もっと早く言うことを聞いていれば、バブー・キトは死ななかったわ。」

母は私を抱きしめると、「あなたのせいではないのよ」と何度も言って慰めてくれました。

私はバブー・キトの犠牲の意味が完全に理解できるまで、何年も罪の意識にさいなまれました。その間、ポプ・ミエンテは片時も離しませんでした。

11歳の誕生日の直前に、英国軍とオーストラリア軍、それにアメリカの落下傘部隊によって、私たちは解放されました。オランダとインドネシアの内乱で、財産



16歳の誕生日に、私は物置きの掃除をしていて、棚の上に大切にしまっている古い人形を偶然見つけました。

はすでに没収されていたので、帰る家はありませんでした。私たちは兄のコレラが治るまで、難民キャンプにとどまることにしました。父の方はすぐに治療を受ける必要があったので、オランダの負傷兵と一緒に船でオランダへ向かいました。そして家族がアムステルダムに着いて間もなく、父は息を引き取りました。

母は生き残った6人の子供を養うために、仕事を探さなければなりません。貧しい私たちは、小さなアパートを借りました。家具は古い木箱でした。生活は楽でなく、母は子供たちにもっとよい暮らしをさせてあげたいと思いました。なすすべがありませんでした。

16歳の誕生日に、私は物置きの掃除をしていて、棚の上に大切にしまっているポップ・ミエントを偶然見つけました。人

形はひどく汚れていました。貨物輸送機の中で、私の乗り物酔いのために汚れたこともあり、トラックがインドネシア軍に襲撃されたときに、私の下敷きになってぬかるみにつかかったこともあり、ありました。

私は洗ってあげることになりました。ブラシでゴシゴシこすっているうちに、人形の体に縫いつけられた洋服が破れてしまいました。捨てたくはなかったので、さっそく繕うことにしました。ところが、指を入れて中の詰め物に触れると、柔らかな綿のかたまりだけではないように思えるのです。次の瞬間、ポップ・ミエントの体の中で何年も眠っていた宝石がほれ落ちてきました。ダイヤモンド、ルビー、真珠、ヒスイ、指輪、イヤリング、腕輪などが出てきたのです。一体どのよ

うないきさつで、私の古い人形が宝石の隠し場所になったのでしょうか。

母は教会員ではありませんでしたが、非常に信仰心があつく、心に感じた導きに従う人でした。戦争が始まると、母はインドネシアの自宅からあまり離れていない所に、防空壕（ぼうくわう）を作ることになりました。そしてその中に、食糧や水、医薬品、衣類を備えました。これらの貯蔵品は、家から出ることを許されなくなったとき、8カ月にわたって私たちの生活を支えてくれました。母はこの防空壕の中に、宝石類も隠しておきました。そして捕虜収容所に連れていかれる前に、バパー・キトにすべてを預け、当時広がっていた飢饉（きん）から家族を救うために貯蔵食糧を自由に使うように言っておいたのです。しかしバパーは、私たちが収容されている場所を探し出すと、すぐに人形の中に注意深く宝石を詰め、190キロもの道のりを歩いて届けてくれたのでした。

宝石の発見で、私たちの生活は変わりました。もう少し良い暮らしをするために、宝石を売ったお金で、まず暖かい衣類と家具を買いました。最後にはそのお金で、高い教育を受けることもできました。そして、ポップ・ミエントの宝石のお陰で受けられた教育が、アムステルダムやその後のアメリカでの生活で、よい仕事と高給につながったのです。

バパー・キトのことは、9歳の誕生日以来、片時も私の心から離れませんでした。何年もの間、その死に対して罪の意識を感じ、夢にうなされました。しかしあるとき、バパーが身の危険を覚悟していたことを知ったのです。

バパーは私のために進んで命を捧げてくれました。その犠牲のお陰で、9歳の誕生日には夢でしかなかったことが、現実になりました。私は、ケーキと冷えたレモネードと贈り物で誕生日を祝っただけでなく、あのとき母が話してくれた「大切な役目」を果たしました。イエス・キリストの回復された福音を聞いて、それを受け入れたのです。そして福音を通して、バパー・キトが私に示してくれた愛をより一層理解できるようになりました。「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」(ヨハネ15:13)

ジョセフ・スミス家 における考古学調査

デーブル・L・バージ

パルマイラから3キロ半ほど南にあるニューヨーク州西部の丘陵地帯に、ジョセフ・スミス・ジュニアの育った農場があります。今では、そこに建っている白い羽目板張りの家だけが、1820年代の農場の面影をとどめているにすぎません。納屋をはじめ、農場のそのほかの建物は、何ひとつ残っていません。かつて少年ジョセフが行き来していた小道や畑の手製の柵は、何年も前になくなっています。ですから森や牧場、畑などのあった所はもちろん、予言者が最初に示現を受けた場所さえ、今では正確に知る事ができないのです。

スミス家はこの流派で古風な木造家屋に一時住んだことはありますが、若いジョセフが最初の示現を受けたときや、1823年の秋に天使モロナイの訪れを受けたときには、別の場所に住んでいました。また、1829年に農場で8人の見証者に古代の記録が示されたときも、数週間後にパルマイラでモルモン経が印刷されたときも、この建物には住んでいませんでした。

これらの重要な出来事があったとき、スミス家はその木造家屋から道をはさんで数100メートル北西の小さな丸太小屋に住んでいたのです。それは父親のスミスと息子たちが建てた小屋で、

12年にわたる農場生活のうち、1818年後半から1825年春までと1829年春から1830年の後半までの8年間、スミス家の住居となりました。1825年から1829年までは、現存する白い木造家屋に住んでいたのです。

スミス家の丸太小屋は、時とともに傷んで1世紀以上も前に取り壊され、それ以来すっかり忘れ去られていました。しかし、教会の歴史美術・史跡保存委員会と、ユタ州プロボのブリガム・ヤング大学にある宗教教育センターの教会歴史研究室は、この丸太小屋を埋もれさせないために、付近の考古学調査を行なうことを正式に決定したのです。

これまでも歴史学者と考古学者が協力し合って、ジョセフ・スミスの生家について、一方だけではわかりにくい事実を究明してきました。すなわち、歴史学者の調査から考古学者の発掘場所が決められ、考古学者の発見した遺物から、歴史的解明につながる新しい情報が得られたのです。

私たちはまず、ジョセフ・スミスの農場を空から写した赤外線カラー写真を検討することから始めました。この写真は、1978年に教会史跡の航空写真撮影計画が実施されたときのものです。

史跡からは、当時のいろいろな形のボタンが見つかった。
(小写真)：金の首飾りは、予言者の母ルーシー・マック・スミスのものと思われる。





丸太小屋の史跡からの出土品：(左上)留め金、馬具、牛の蹄鉄などの金
属品。(右上)スプーン、フォーク、陶器ポットの破片などの台所用品

植物の分布や表土の変化から、建物の建っていた跡や、人の手
が加えられた場所を探すのです。スミス家の農場には、そうし
た場所が17カ所ありました。

1981年に、それらの場所の地表調査を行ないました。そして、
その中の1カ所から、スミス家が土地を手に入れた当時の生活
用品（ガラス製品、金属品、陶器）と建築物の残骸（レンガ、
釘、丸石）を発見しました。ここが丸太小屋のあった場所なの
でしょうか。

幸いなことに、歴史資料からある程度の答えが得られました。
すなわち、丸太小屋は、マンチェスター・パルマイラ郡区の境
界線近くに現存する木造家屋の北方、道路の西側にあったと思
われるのです。

丸太小屋の位置を特定する唯一の有力な資料は、1969年にブ
リガム・ヤング大学のラリー・C・ポーター博士によって発見
された、1820年代の道路測量報告書です。「昔の町の記録 1793
-1870」と題する資料の中に、次のような測量報告書があるの
です。

「公道測量の記録は、パルマイラの町の第2経線間地区第12
郡区の南境界線上で、ジョセフ・スミス邸の南東3ロッド14リ
ンクの地点から始まっている。……上記の数字は、公道の中央
位置を算出したものであり、1820年6月13日に、我々が旧式の
測量コンパスを使って実際に測ったものである。」

1ロッドは約5メートル、1リンクは約20センチです。した
がって、この記録によると、スミス家はパルマイラとマンチェ
スターの境界線上にある公道の中央から、北西約18メートルの
地点にあったことになります。そこはまさに、私が1981年の地
表調査で生活用品や建築物の残骸を発見した場所でした。

1982年6月25日、ブリガム・ヤング大学の考古学者、人類学
専攻の大学院生、教会歴史部の史跡研究家、そのほかボランテ
ィアの会員数人によって、発掘が開始されました。

まず、発掘する場所を基盤の目のように区切ることから始め
ました。3メートル間隔にくいを打ち、番号をつけて、発掘す
る正確な場所と深さがわかるようにしました。出土品は各区画
ごとに目録に付け、忘れないように詳細なスケッチや写真も残
しました。

私たちが発掘を始めた場所は、トウモロコシが1メートルほ
どに生い茂る畑の真ん中でした。そこは、1818年にスミス家が
初めてくわを下ろして以来、毎年25センチほどの深さに耕され
てきました。そのため、深さ25センチ以内からの出土品は、ど
れもひどく傷んでいました。

スミス家の丸太小屋の基礎には、ピーター・ホイットマー家
と同様に、丸石ふたつ分の幅と深さに穴が掘られ、そこに石が
敷き詰められていたと思われます。それらの石は、土地が耕さ
れるにつれて砕かれ、何年もの間に農夫たちの手で畑から取り
除かれていったに違いありません。したがって、基礎の深さは
出土品の分布状況から推測する以外にないのです。

実際の発掘調査は、各区画をすきの届く深さまで掘って、土
をふるいにかけることから始めました。それから、その下の層
を調べ、人の手が加えられた形跡を探しました。また、人の手
が加えられていない場所からは、種の混じっている土や、花粉
などの見つかる可能性のある土を標本として採取しました。そ
れらの土は、丸太小屋があった当時の草花や作物について知る
手掛かりになるはずでした。

すきの届かない層を調べた結果、人の住んでいた形跡が3カ

所で見つかりました。井戸の跡、浅い地下貯蔵庫の跡、それに小石を並べた用途不明の場所です。

井戸の直径は上部で3メートル、下部では1.5メートルと徐々に狭くなっていました。私たちが掘ったのは3メートル半の深さまでで、それ以上は、井戸の内側を補強しなければ無理のようでした。

井戸の中のたくさんの大きな石は、井戸の外枠が落ちたものではなく、ほかから投げ入れられたものようでした。ほとんどの石は片側がこげていて、丸太小屋の暖炉の一部であったと思われる。また、こげたレンガの破片から推測すると、暖炉は丸石でできていて、そこにはかまどと、おそらく炉床とがあったと思われます。丸太小屋には確かに暖炉がありました。なぜなら、予言者ジョセフは最初の示現に関する記録の中で、聖なる森から家に帰って「壁炉によりかかって居た」と述べているからです。(ジョセフ・スミス2:20)

時間と資金があれば、ぜひこの井戸を底まで発掘してみたいと思います。使わなくなった井戸に廃棄物を捨てるのは昔からの習慣ですから、井戸の底には復元可能な器物が数多く眠っていることでしょう。

地下貯蔵庫は、広さが3×2メートル、深さが75センチほどです。ここからいろいろな物が見つかりました。陶器、まっすぐなピン、バックル、ナイフ、フォーク、スプーン、いった麦と豆、鑄鉄製ポットのふたなどです。これらの小さな出土品は床のすき間から落ちたと考えられるので、この貯蔵庫は台所の床下にあったと推測できます。それより上の層から出てきた大きな物は、丸太小屋が取り壊されたときに貯蔵庫に投げ入れられたものでしょう。貯蔵庫からは、レンガの破片や釘など、建物の残骸も見つかっています。

たくさんの石が置かれている用途不明の場所は、広さが2×2.5メートルほどで、深さは60センチです。この浅い穴の中央には、60センチから1メートルの深さに丸石が敷きつめられています。ここはおそらく、寝室を増築した際の土台だったのでしょう。

出土品の数は、陶器(丸太小屋が建っていた1790年から1830年代のもの)やガラス瓶、窓ガラス、金属、建築部品などの破片数千点にのぼり、現在私たちはそれらを分析中です。また、発掘した表土をふるいにかけて、コバルトブルーのガラスの首飾りを3つと純金の首飾りをひとつ見つけました。ルーシー・マック・スミスが金の首飾りを持っていたことがわかっていますので、これは大変意義のある発見です。

歴史資料によれば、スミス家が引越したあと、丸太小屋は家畜用として使われました。家畜を飼っていた場所を住居として使うことは普通あり得ませんから、スミス家が出てから丸太小屋に住んだ人はいないこととなります。もしそうであるなら(そして出土品の年代がそれを裏付けるものであれば)、この丸太小屋に住んだのはスミス家だけということとなります。すなわち、この史跡からの出土品は、ほとんどがスミス家のものであり、1820年代の彼らの生活様式を伝える貴重な資料になるのです。

結論

発掘調査だけでなく、歴史的な資料や出土品の研究から明らかになったことを考え合わせると、私たちが発掘した場所は、スミス家の丸太小屋の史跡であることは間違いありません。その丸太小屋は、1階に2部屋、屋根裏に2部屋だけの実に小さな建物であったと思われます。平板張りの寝室は、あとから増築されたもののようです。また、丸太小屋の片隅に、大きな丸石でできた暖炉があって、そこにはレンガ製のかまどと炉床があったようです。窓には、20×25センチほどの板ガラスがはめてあり、床下の浅い貯蔵庫は、小屋を建てた際にできたものか、または作物の種や乳製品を保存する場所として作ったものと考えられます。そして丸太小屋の裏には、大きな井戸があったようです。

出土品から見ると、スミス家は中流家庭で、当時の流行品を日常生活に取り入れていたようです。また、スミス家の人々が皆勤勉で、財力があったことは明らかです。農場を購入し、丸太小屋を建て、後に快適な木造家屋を建設しているからです。

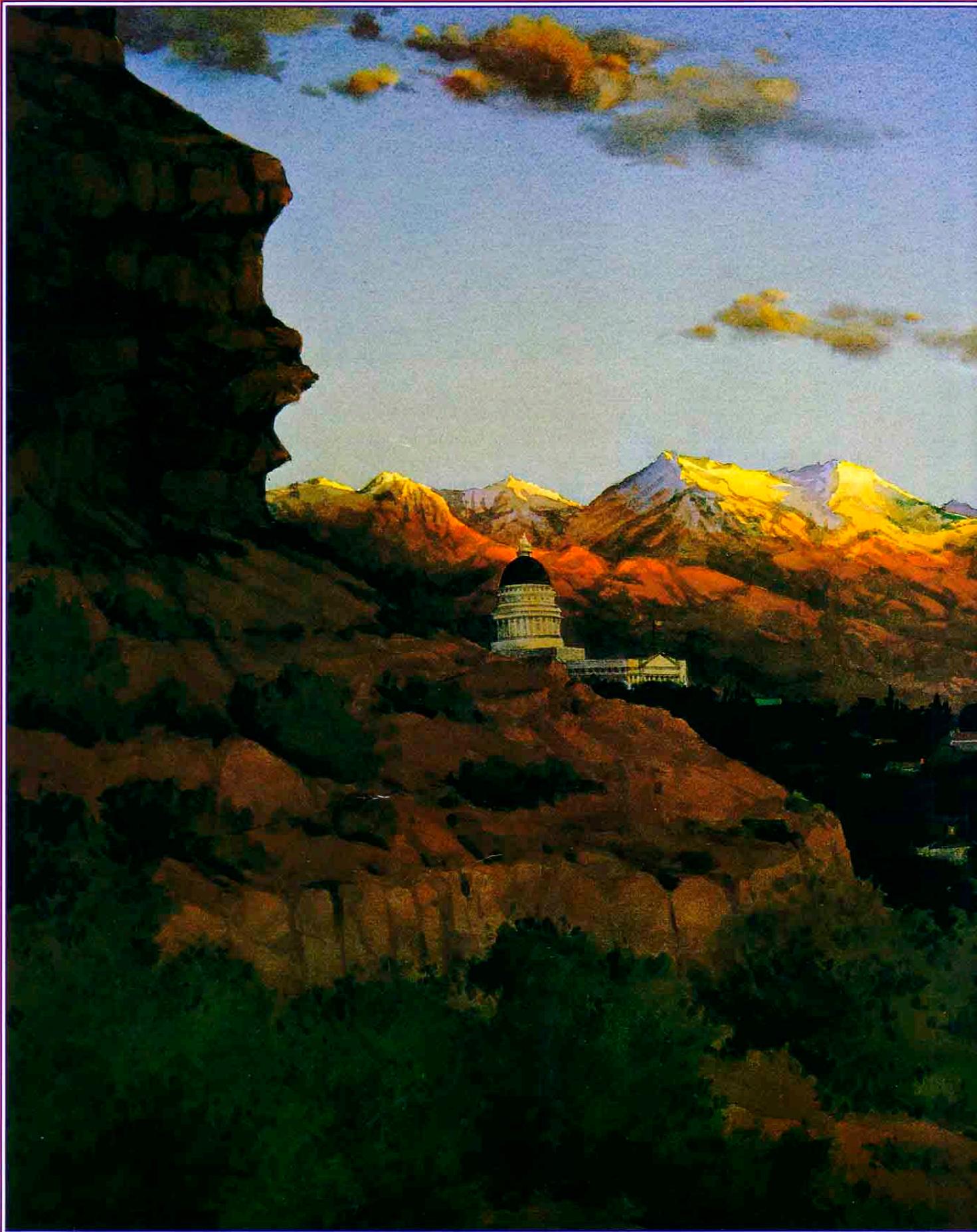
出土した種から、スミス家の農場では麦や大豆を栽培していたことがわかります。また、史跡で見つかった動物の骨から、豚も飼っていたと思われます。種や花粉、動物の骨などをさらに研究していけば、もっと詳しい資料が得られるでしょう。

B・H・ロバーツ長老によると、若い頃のジョセフ・スミスの部屋は、丸太小屋の屋根裏にありました。(「教会概史」1:71参照) そうだとすれば、ジョセフは大変狭い部屋に住んでいたこととなります。丸太小屋の1階の広さが6×9メートルで、屋根裏に2部屋あったとして、実際に使用できるのは(壁際の天井の低い部分も入れて)3.5メートル四方ということになるでしょう。しかも中央の高さは1.2から1.8メートルほどです。部屋にはベッドと、洗面器やピッチャーを乗せた台、それにいすが置いてあったでしょう。ジョセフは暖炉の煙突が鉄製のストーブで暖を取っていたようです。部屋は寝るだけに使われていたのでしょう。いずれにせよ、大変質素であったことは間違いありません。

いつの日か、スミス家を象徴する丸太小屋が、周囲の建物や柵、牧場、果樹園、庭とともに復元され、この史跡に建てられることでしょう。これまでの多くの歴史学者の研究と、最近の考古学者の発掘調査に基づいて、きわめて正確な小屋と敷地が復元されるに違いありません。そうなれば、訪問者たちは、少年ジョセフが1820年の早春に森から丸太小屋に戻って来たとき、そして後に狭い2階の部屋で天使モロナイの指示を受けたとき、どのような生活をしていたか、もっとはっきり知ることができるようでしょう。

参考文献

1. テール・L・バージ著「ニューヨーク州セネカ郡、ピーター・ホイットマーの農場における考古学調査」ブリガム・ヤング大学研究論文、第13巻、No.2(1973年冬)参照
2. ルーシー・マック・スミス著「ジョセフ・スミスの歴史」pp.179-80参照
3. ポメロイ・タッカー著「モルモニズムの起源と発展」p.13、トーマス・L・クック著「バルマイラとその近辺」p.219参照



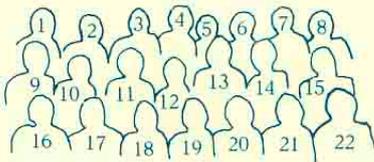
アメリカ人以外の宣教師数の増加 1978-85



から、強い責任感を持っています。外国人の宣教師は彼らから文化と言語を学び、反対に日本人の宣教師は福音についての観念や考え方、また日常生活への応用の仕方などを外国人の宣教師から教わります」とプレロック伝道部長は述べている。

伝道部長の多くは、宣教師の靈性は国によって変わることはないと言う。メキシコ・モンテレー伝道部のジョン・B・キーラー伝道部長は、伝道部内の130人のメキシコ人の宣教師と45人のアメリカ人の宣教師とでは、能力において差は認められないと述べている。「メキシコ人の宣教師もアメリカ人の宣教師も皆すばらしい指導者です。バプテスマの数にも差がありません。私は宣教師の任地について

3月に召された JMTC 第82期生 22名の名簿



S: ステーキ部, D: 地方部
W: ワード部, B: 支部

| 〈名 前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 | 〈名 前〉 | 〈出身地〉 | 〈伝道地〉 |
|-----------|------------|--------|-----------|------------|--------|
| 1. 福田 満 | 東京S/ひばりヶ丘W | 仙台伝道部 | 12. 新谷国彦 | 神戸S/姫路W | 東京北伝道部 |
| 2. 中沢 泰一 | 東京東S/北千住B | 名古屋伝道部 | 13. 古川 靖 | 東京北S/中野W | 岡山伝道部 |
| 3. 茂木 強 | 横浜S/小杉B | 名古屋伝道部 | 14. 矢島勝彦 | 高崎S/前橋W | 大阪伝道部 |
| 4. 植田 和好 | 東京東S/松戸W | 名古屋伝道部 | 15. 宮城 忠 | 沖縄那覇S/普天間W | 札幌伝道部 |
| 5. 杉山 浩倫 | 沖縄那覇S/普天間W | 大阪伝道部 | 16. 比嘉 勲 | 東京北S/中野W | 札幌伝道部 |
| 6. 松本行弘 | 東京東S/牛久W | 岡山伝道部 | 17. 三浦 信一 | 横浜S/上大岡W | 札幌伝道部 |
| 7. 林 祐一 | 東京西S/国立W | 福岡伝道部 | 18. 松下志るか | 東京南S/大岡山W | 札幌伝道部 |
| 8. 上間 泰治 | 沖縄那覇S/那覇W | 仙台伝道部 | 19. 武田さやか | 東京東S/牛久W | 岡山伝道部 |
| 9. 安田直樹 | 名古屋西S/御器所W | 仙台伝道部 | 20. 広田真弓 | 長野D/長野B | 神戸伝道部 |
| 10. 大谷浩史 | 大阪堺S/泉佐野B | 仙台伝道部 | 21. 尾川 富子 | 福岡S/井尻W | 大阪伝道部 |
| 11. 船戸 信二 | 名古屋S/名古屋南B | 東京南伝道部 | 22. 中西 学 | 熊本D/熊本北B | 大阪伝道部 |